ＩＳＳＮ1341－397X

年　報　平成十九年度　財団法人　山形県埋蔵文化財センター

年　　報

平成19年度

平成20年５月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

序

平成 19 年度における当センターの事業計画について、関係各位の御指導・御協力をいただきながら、円滑に計画した事業を実施することができました。

はじめに、調査事業においては、15 遺跡の発掘調査と報告書作成のための 25 遺跡の整理作業を実施いたしました。発掘調査の内訳は、県農林事業に係る調査が 1 件、国土交通省事業に係る調査が 14 件となっており、その外 10 遺跡・4 冊の発掘調査報告書を刊行いたしました。近年における発掘調査の特徴は、他県と同様に県公共事業の減少は引き続き見られるものの、国による新直轄事業の高速交通網整備に伴う事業が主体となっており、今後予想される高速道路の整備状況や県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければならなりません。

引き続き埋蔵文化財保護の観点や古代の人との心の交流を県民の皆さんに提供するとともに、県民の皆さんの目線に留意しながら、責任ある発掘調査の成果を基礎とした調査研究を推進してまいります。

次に、研究・普及事業につきましては、センターホームページでの情報発信や現地における発掘調査説明会の開催、広報誌「埋文やまがた」の刊行などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆さんにお知らせしてまいりました。

特に今年度は、県庁ロビー、東北芸術工科大学、山形空港ビル、庄内空港ビルや文翔館の 5 箇所で「外部展示」を行い、県民の皆さんに出土品を公開し、当センターの事業の周知や文化財保護の重要性について広く普及を図ったところです。

また、例年山形市を会場に行っております「山形県埋蔵文化財発掘調査報告会」を『みんなで体験!考古学ひろば』と衣替えし、２日間にわたって開催したほか、昨年度に続いて鶴岡市を会場に「日本海沿岸東北自動車道関係遺跡調査報告会」を開催し、今年度発掘した調査の成果を発表したところです。さらに、学校現場からの依頼を受けた「出前授業」は 34 校で実施したほか、職員を派遣しての講演や研究発表等を実施してまいりました。今後も特に、次世代を担う子供達を中心に、地域の伝統文化の大切さや、誇りと自信の持てる地域づくりの一環としての事業の展開など、さまざまな機会を活用して、研究・普及活動を行っていく計画です。

今後とも、センター運営の基本原則である、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えていくため、職員一同、一層の研鑽を重ねていく所存であります。

また、外部監査を通して当センターの事業運営の各分野にわたって指摘を受けた点については、改革プロジェクトチームを中心に、「コスト意識の徹底」「効率的な事務処理体制の確保」「情報の共有化」「ＰＤＣＡサイクルの実践」「収益的な事業を確保するための検討」の 5 つの柱をもとに改善すべきところは早急に改め、県民の方々から信頼される埋蔵文化財センターとして確立するため、職員一丸となって取り組んでまいります。

財団法人　山形県埋蔵文化財センター
理事長　山　口　常　夫

目　次

Ⅰ. 管理運営概要
A. 沿　革…… 1
B. 組　織
1. 役員及び評議員…… 1
2. 職制及び人員…… 2
3. 組　織…… 2
4. 職　員…… 3
C. 施　設…… 4
Ⅱ. 事業概要
A. 調査業務 …… 5
1. 調査遺跡一覧…… 6
2. 調査遺跡の概要
上の寺遺跡…… 8
天王遺跡(第2次)…… 12
上大作裏遺跡(第2次)…… 16
檜原遺跡(第3次)…… 20
加藤屋敷遺跡(第2次)…… 24
天矢場遺跡…… 28
川前2遺跡(第3次)…… 32
堤屋敷遺跡(第2次)…… 34
下屋敷遺跡…… 38
矢馳A遺跡(第4次)…… 42
興屋川原遺跡(第4次)…… 46
玉作1遺跡(第3次)…… 48
岩崎遺跡(第2次)…… 50
川内袋遺跡…… 52
行司免遺跡(第4次)…… 56

B. 研究業務
1. 研究研修
(1)　全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣…… 60
2. 情報処理
(1)　収蔵図書データベース…… 60

3. 普　及

(1)　ホームページ…… 61
(2)　山形県埋蔵文化財発掘調査報告会の開催…… 61
(3)　日本海沿岸東北自動車道関係遺跡調査報告会…… 61
(4)　外部展示…… 62
(5)　学校への協力…… 63
(6)　来所者…… 65
(7)　職員派遣等…… 66
(8)　調査説明会…… 66
(9)　資料貸出…… 67
(10)　資料掲載許可…… 67
(11)　出版物…… 68

Ⅰ　管理運営概要

A. 沿　革

山形県には、土地に埋蔵された埋蔵文化財や史跡、有形文化財、民俗文化財などが数多く残されています。これらの文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、そして今日まで守り伝えられてきた貴重な県民の文化遺産であり、これを保護・活用し、次世代に確実に継承していくことが大事です。

平成16年に策定された第５次山形県教育振興計画では、「いのち」、「まなび」、「かかわり」の三つがキーワードとなっています。埋蔵文化財については、広い「かかわり」の中で、社会をつくるという基本方針のもと、「感性あふれる地域文化の創造」という視点から、保護と活用にあたることとしています。

平成５年４月に、文化財の保護と県土の開発を両立させて調和を図るため、山形県の出資によって「財団法人山形県埋蔵文化財センター」が設立されました。当センターでは、埋蔵文化財の調査研究を通じて、県民の文化生活の向上と地域文化の振興に寄与することを目的として、１．県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究、２．埋蔵文化財の発掘調査、３．埋蔵文化財の活用と保護思想の普及の三つを基本とした各種事業を推進しております。

センターの設立から平成20年３月で15周年を迎えますが、発掘調査の成果を基礎とした調査研究の積み重ねに加え、近年は「発掘調査報告会」や「出前授業」・「外部展示」などの文化財普及啓蒙活動についても力を注いでおります。

B. 組　織

１　役員及び評議員

役　員

理事長	山口　常夫	山形県教育委員会教育長（平成19年３月22日就任）
専務理事	柏倉　俊夫	財団常勤役員
理　事	阿子島　功	山形大学人文学部長
理　事	松田　泰典	東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター長
理　事	川崎　利夫	東北中世考古学会長
理　事	佐藤　鎮雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館長
理　事	大沼　幸一	財団法人山形県生涯学習文化財団専務理事
監　事	齋藤　貞夫	山形県出納局経理課長
監　事	小笠原信順	山形県教育庁総務課長

評議員	佐藤　禎宏	山形考古学会副会長
評議員	長澤　正機	最上地域史研究会理事
評議員	木村　俊夫	財団法人山形県生涯学習文化財団専務理事
評議員	鈴木　啓司	社団法人山形県私立学校総連合会常務理事
評議員	高橋　久一	山形県農林水産部農村計画課　農山村整備主幹
評議員	松尾　良夫	山形県土木部道路課長
評議員	大滝　太一	山形県教育庁教育やまがた振興課長

２　職制及び人員

事務局長	１名
課　長	３名
調査研究主幹	２名
専門調査研究員	４名
主任調査研究員	７名
主　事	２名
調査研究員	１２名
調査員	１５名
事務員	３名
事務補助員	３名
計	５２名

３　組　織

役員（理事会）

理事長（非常勤）　　専務理事（常勤）

職員（事務局）

- 事務局長
  - 総務課 ―― ６名
    - 企画情報室 ―― ４名
  - 整理課 ―― ４名
  - 調査課 ―― ３７名

4. 職 員

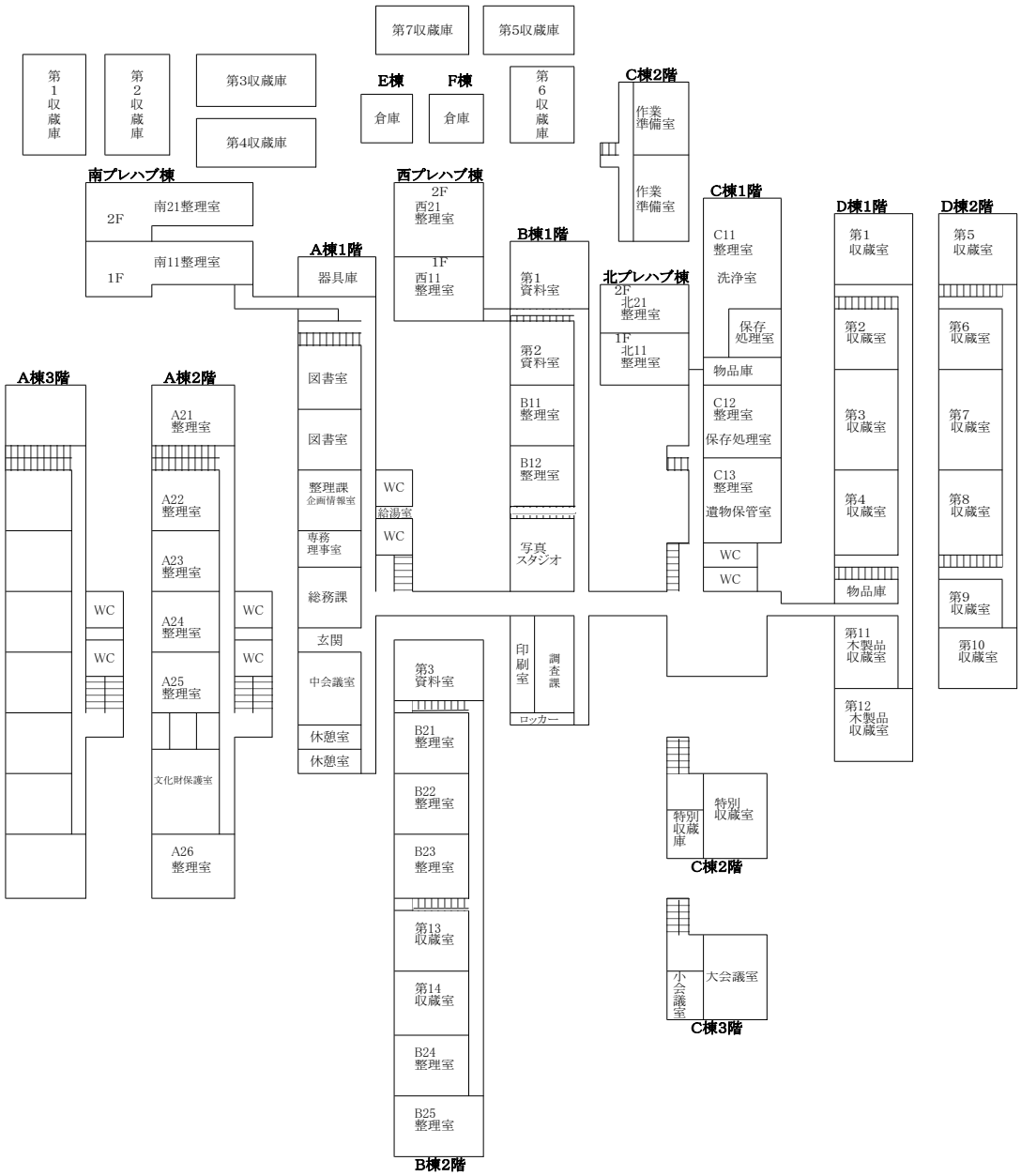
課　名	職　名	氏　名	所　　属
総 務 課	事務局長	小笠原正道	県行政職派遣
	課 長	佐東 秀行	県行政職派遣
	主 事	浅野 ちよ	財団職員
	主 事	原田 英明	財団職員
	事務員	山口 重子	
	事務員	井上 紀子	
	事務補助員	五十嵐夕子	(19年11月30日退職)
企画情報室	調査研究員	佐々木 茂	県教育職派遣
	事務員	星 とき子	
	事務補助員	加藤 瞳	(19年7月31日退職)
	事務補助員	齋野 祐子	(19年9月30日退職)
	事務補助員	山田 渚	(19年8月1日採用)
	事務補助員	岡崎さゆり	(19年10月1日採用)
整 理 課	課 長	野尻 侃	県行政職派遣
	調査員	黒坂 広美	
	調査員	須賀井明子	
	調査員	粕谷 孝	(19年6月30日退職)
	調査員	布川 紀子	(19年7月1日採用)
調 査 課	課 長	長橋 至	県行政職派遣
	調査研究主幹	佐藤 正俊	県行政職派遣
	調査研究主幹	安部 実	県行政職派遣
	専門調査研究員	黒坂 雅人	財団職員
	専門調査研究員	伊藤 邦弘	財団職員
	専門調査研究員	槇 綾	県教育職派遣
	専門調査研究員	齊藤 主税	財団職員
	主任調査研究員	氏家 信行	財団職員
	主任調査研究員	小林 圭一	財団職員
	主任調査研究員	今田 秀樹	県教育職派遣
	主任調査研究員	須賀井新人	財団職員
	主任調査研究員	鈴木 良仁	県教育職派遣
	主任調査研究員	植松 暁彦	財団職員
	主任調査研究員	須藤 孝宏	県教育職派遣
	調査研究員	高橋 一彦	県教育職派遣
	調査研究員	髙桑 弘美	財団職員
	調査研究員	齋藤 健	財団職員
	調査研究員	菅原 哲文	財団職員
	調査研究員	三浦 勝美	県教育職派遣
	調査研究員	髙桑 登	財団職員
	調査研究員	水戸部秀樹	財団職員
	調査研究員	今 正幸	県教育職派遣
	調査研究員	福岡 和彦	県教育職派遣
	調査研究員	武田 伸一	県教育職派遣
	調査研究員	庄司 隆志	県教育職派遣
	調査員	向出 博之	
	調査員	阪 英子	
	調査員	渡辺 淑恵	
	調査員	佐藤 祐輔	
	調査員	山内 七恵	
	調査員	山木 巧	
	調査員	深沢 篤	
	調査員	渡辺 和行	
	調査員	吉田江美子	
	調査員	山澤 護	
	調査員	伊藤 純子	
	調査員	吉田 満	

C. 施　設

財団法人山形県埋蔵文化財センターは、山形県上山市弁天二丁目 15 番 1 号に所在する。

当所の施設は、Ａ棟からＦ棟までの６棟の建物からなる。平成９・10・16 年度に整理プレハブ棟を建設する。

Ａ	棟	鉄筋コンクリート３階建	管理棟（専務理事室、総務課、企画情報室・整理課ほか）
Ｂ	棟	鉄骨２階建	整理・出土文化財収蔵棟
Ｃ	棟	鉄筋コンクリート３階建	出土文化財収蔵棟
		鉄骨２階建、鉄骨１階建	整理棟
Ｄ	棟	鉄骨２階建	出土文化財収蔵棟
Ｅ ・ Ｆ	棟	鉄骨平屋建	器材棟（倉庫）
プレハブ棟		２階建	整理棟（北・西・南）３棟
プレハブ棟		平屋建	出土文化財収蔵棟（第１～第７）７棟



Ⅱ　事業概要

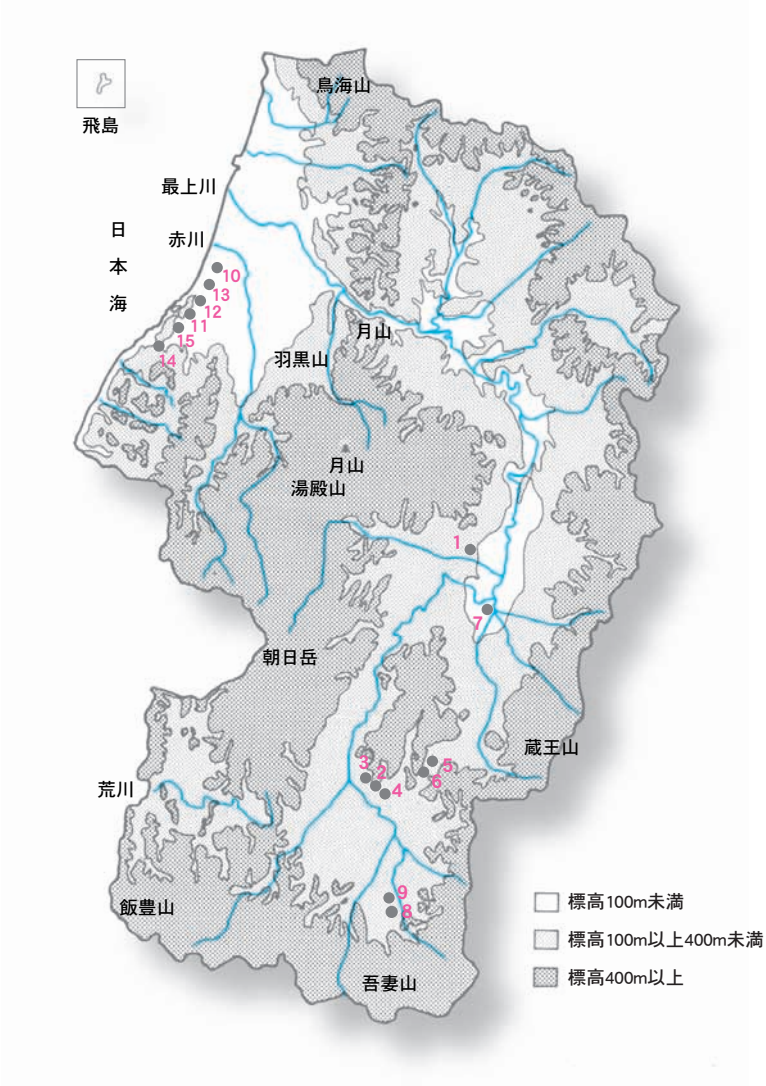
A. 調査業務

平成 19 年度は、国土交通省および山形県農林水産部並びに土木部から委託を受け、道路建設や農地整備事業などに先だっての発掘調査と整理作業を実施しました。

発掘調査は 15 遺跡について行い、調査面積は 56,650 ㎡になります。出土遺物は土器等 990 箱が文化財の認定を受けました。

報告書作成のための整理作業は 25 遺跡について実施し、そのうち 4 冊の発掘調査報告書を刊行しました。

1　上の寺遺跡
2　天王遺跡
3　上大作裏遺跡
4　檜原遺跡
5　加藤屋敷遺跡
6　天矢場遺跡
7　川前2 遺跡
8　堤屋敷遺跡
9　下屋敷遺跡
10　矢馳A 遺跡
11　興屋川原遺跡
12　玉作 1 遺跡
13　岩崎遺跡
14　川内袋遺跡
15　行司免遺跡



※本書中の「調査遺跡の概要」の記述内容は概報であり、報告書の刊行をもって本報告とする。

１.調査遺跡一覧

NO.	遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種別	調査期間
1	上の寺遺跡	寒河江市	縄文、奈良・平安、中世、近世	集落跡	平成19年5月15日～10月26日
2	天王遺跡（第2次）	南陽市	古墳、奈良・平安、中世	集落跡	5月10日～10月19日
3	上大作裏遺跡（第2次）	南陽市	縄文、弥生、奈良・平安	集落跡	5月10日～ 7月27日
4	檜原遺跡（第3次）	南陽市	奈良・平安、中世	集落跡	5月15日～ 7月31日
5	加藤屋敷遺跡（第2次）	南陽市	縄文、奈良・平安	集落跡	7月17日～ 9月28日
6	天矢場遺跡	南陽市	縄文、中世、近世	集落跡	5月10日～ 7月17日 10月 1日～11月 6日
7	川前2遺跡（第3次）	山形市	古墳、奈良・平安	集落跡	5月14日～ 10月12日
8	堤屋敷遺跡	米沢市	縄文、中世	集落跡	5月 8日～11月30日
9	下屋敷遺跡	米沢市	縄文、中世	集落跡	5月 8日～11月30日
10	矢馳A遺跡（第4次）	鶴岡市	古墳、奈良・平安、中世	集落跡	5月 9日～ 9月14日
11	興屋川原遺跡（第4次）	鶴岡市	古墳、奈良・平安	集落跡	7月 2日～ 8月31日
12	玉作1遺跡（第3次）	鶴岡市	古墳、平安	集落跡	5月 9日～ 7月11日
13	岩崎遺跡（第2次）	鶴岡市	古墳、奈良・平安、中世	集落跡	9月 3日～11月 7日
14	川内袋遺跡	鶴岡市	縄文	集落跡	5月 8日～12月18日
15	行司免遺跡（第4次）	鶴岡市	奈良・平安	集落跡	6月 4日～11月 7日
16	中落合遺跡	南陽市	奈良・平安	集落跡	平成17年度調査
17	百刈田遺跡	南陽市	縄文、弥生、奈良・平安	集落跡	平成15～18年度調査
18	中山城跡	上山市	戦国・近世	城館跡	平成17・18年度調査
19	太郎水野2遺跡　外	金山町	旧石器、縄文	集落跡	平成16年度調査
20	山ノ下遺跡・稲荷山館跡	米沢市	縄文、中世	集落跡	平成18年度調査
21	下叶水遺跡	小国町	縄文、中世、近世	集落跡	平成18年度調査
22	万治ヶ沢遺跡	鶴岡市	縄文、奈良・平安	集落跡	平成16・17年度調査
23	玉作2遺跡	鶴岡市	平安	集落跡・ 窯跡	平成17年度調査
24	南田遺跡	鶴岡市	奈良・平安	集落跡	平成18年度調査
25	高瀬山遺跡HO（2期）	寒河江市	奈良・平安、中世	集落跡	平成16・17年度調査
26	上ノ山館跡	上山市	戦国・近世	城館跡	平成19年度測量調査
	計				

調査面積 :平方m	文化財認 定数:箱	調査の原因〈委託者〉	業務内容 発掘	整理	報告書	調査経費 :千円
3,650	18	農免道路整備〈県農林水産部〉	○	○		44,996
6,500	51	一般国道113号線赤湯バイパス改築事業〈国土交通省〉	○	○		68,153
4,000	3	一般国道113号線赤湯バイパス改築事業〈国土交通省〉	○	○		36,480
4,500	1	一般国道113号線赤湯バイパス改築事業〈国土交通省〉	○	○		37,362
1,600	41	一般国道113号線赤湯バイパス改築事業〈国土交通省〉	○	○		68,341
4,500	10	一般国道13号線上山バイパス改築事業〈国土交通省〉	○	○		
3,500	103	須川河川改修事業(下流部)〈国土交通省〉	○	○		39,994
10,000	91	東北中央自動車道米沢IC付帯工事〈国土交通省〉	○	○		94,237
3,000	12	東北中央自動車道米沢IC付帯工事〈国土交通省〉	○	○		
3,300	45	日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設〈国土交通省〉	○	○		80,109
1,200	23	日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設〈国土交通省〉	○	○		44,776
1,000	8	日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設〈国土交通省〉	○	○		34,470
1,000	45	日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設〈国土交通省〉	○	○		34,940
6,500	466	日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設〈国土交通省〉	○	○		104,374
2,400	73	日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設〈国土交通省〉	○	○		76,616
		一般国道113号赤湯バイパス改築事業〈国土交通省〉		○	○	25,088
		一般国道113号赤湯バイパス改築事業〈国土交通省〉		○		32,715
		一般国道13号上山バイパス改築事業〈国土交通省〉		○		57,968
		一般国道13号主寝坂道路改築事業〈国土交通省〉		○	○	5,785
		東北中央自動車道(福島県境～米沢)建設〈国土交通省〉		○	○	8,519
		横川ダム建設事業〈国土交通省〉		○		54,104
		日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設〈国土交通省〉		○		19,122
		日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設〈国土交通省〉		○		3,375
		日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設〈国土交通省〉		○		13,746
		最上川ふるさと総合公園整備事業〈山形県土木部〉		○	○	7,327
		一般国道13号上山バイパス改築事業〈国土交通省〉				2,583
56,650	990					995,181

２．調査遺跡の概要

上の寺遺跡（かみのてら）

遺 跡 番 号　平成 16 年度新規登録
調 査 次 数　第 1 次
所　在　地　寒河江市大字慈恩寺字上の寺
北緯・東経　38 度 24 分 37 秒・140 度 15 分 21 秒
調査委託者　山形県村山総合支庁西村山農村整備課
調 査 原 因　農免農道整備事業（寒河江中央地区）
調 査 面 積　3,650 ㎡
現 地 調 査　平成 19 年 5 月 16 日～ 10 月 26 日
調査担当者　高桑登（調査主任）・伊藤邦弘・今田秀樹
調 査 協 力　村山教育事務所・寒河江市教育委員会・寒河江市農林課・慈恩寺観光振興会
遺 跡 種 別　集落跡・寺院跡
時　　代　奈良時代・平安時代・中世・近世
遺　　構　溝・堀・土坑・柱穴等
遺　　物　中世陶磁器・石製品・金属製品・土師器・須恵器・石器　　（文化財認定箱数：18 箱）

調査の概要

上の寺遺跡は、国指定重要文化財の薬師三尊や十二神将で有名な寒河江市の慈恩寺近くに位置する。古くは薬師三尊・十二神将を納めた薬師堂があり、薬師堂は後に聞持院と称したとされる。江戸時代初めには門持院は廃れ、薬師三尊は現在の本堂脇に移されている。現在遺跡周辺に残る地形や伝承に、その名残をとどめている。

慈恩寺は神亀元年（724）、行基の開山と伝えられ、平安時代には摂関家藤原氏や平泉藤原氏、鎌倉・室町時代には寒河江荘地頭の大江氏、戦国時代から江戸時代の初めには最上氏の保護を受け繁栄した。その間、永仁４年（1296）、永正５年（1504）などには火災で伽藍の一部が焼失している。

遺跡は慈恩寺のある山の東側山腹に位置する。一帯は斜面を造成した平場が連続し、現在その平場は、サクランボなどの果樹園として利用されている。遺跡の中を、慈恩寺から箕輪（みのわ）集落へ続く「箕輪道」と呼ばれる道路が縦断している。

調査は現況の記録のための地形測量から実施した。測量後、重機を使用しての表土掘り下げ、人力での遺構確認・掘り下げなどの作業を実施した。重機の進入が困難な地区は人力によるトレンチ調査を行なった。

遺構と遺物

Ａ区　上の寺遺跡の中心部と考えられる土塁に囲まれた地区に隣接している。広い平場と谷状に低くなる地形の境界部にあたる。谷の部分では、地面を削平し平場を作り出した痕跡を確認した。

平場部分では、土塁に直交する溝が見つかり、その溝から、板碑・宝篋印塔・五輪塔が出土した。溝と土塁の位置関係から、溝は土塁構築と同時期または、土塁構築後に掘られた可能性がある。

Ｂ区　遺跡の中心部から一段下がった平場にあたる。調査区の西端で確認した不定形の遺構は、８ｍ×６ｍ程の

規模で、焼土、礫が多数出土した。その他、雷文帯青磁碗や越前など中世後半の遺物が出土している。調査区の東側では掘立柱建物の一部を確認した。

Ｃ区　上の寺遺跡の南東部を限る斜面にあたる。急な斜面に多くの小さな平場が造り出されており、重機の進入が困難だったため、人力によるトレンチ調査を実施した。近年の耕作土が厚く堆積し、現在見られる平場の多くは後世の耕作のために造られた可能性が高い。部分的に石を敷き詰めた場所や、排水のためと考えられる溝などが見つかっている。

Ｄ区　Ｂ区から連続する平場と、さらに一段下がった平場にあたる。上下の平場の間には「箕輪道」が通る。多くの柱穴や土坑を確認した。斜面際の大型の土坑からは平らな石が多く出土し、礎石建物があった可能性がある。

調査区の北端部では、現在の地形に残る細長い区画に連続した大型の溝が見つかった。この溝が上の寺遺跡の中で、大きな区画として意識されていたと考えられる。

また、箕輪道の両側に側溝を検出した。。近現代の遺物が出土し、近年まで整備されながら使用されたいたことがわかった。

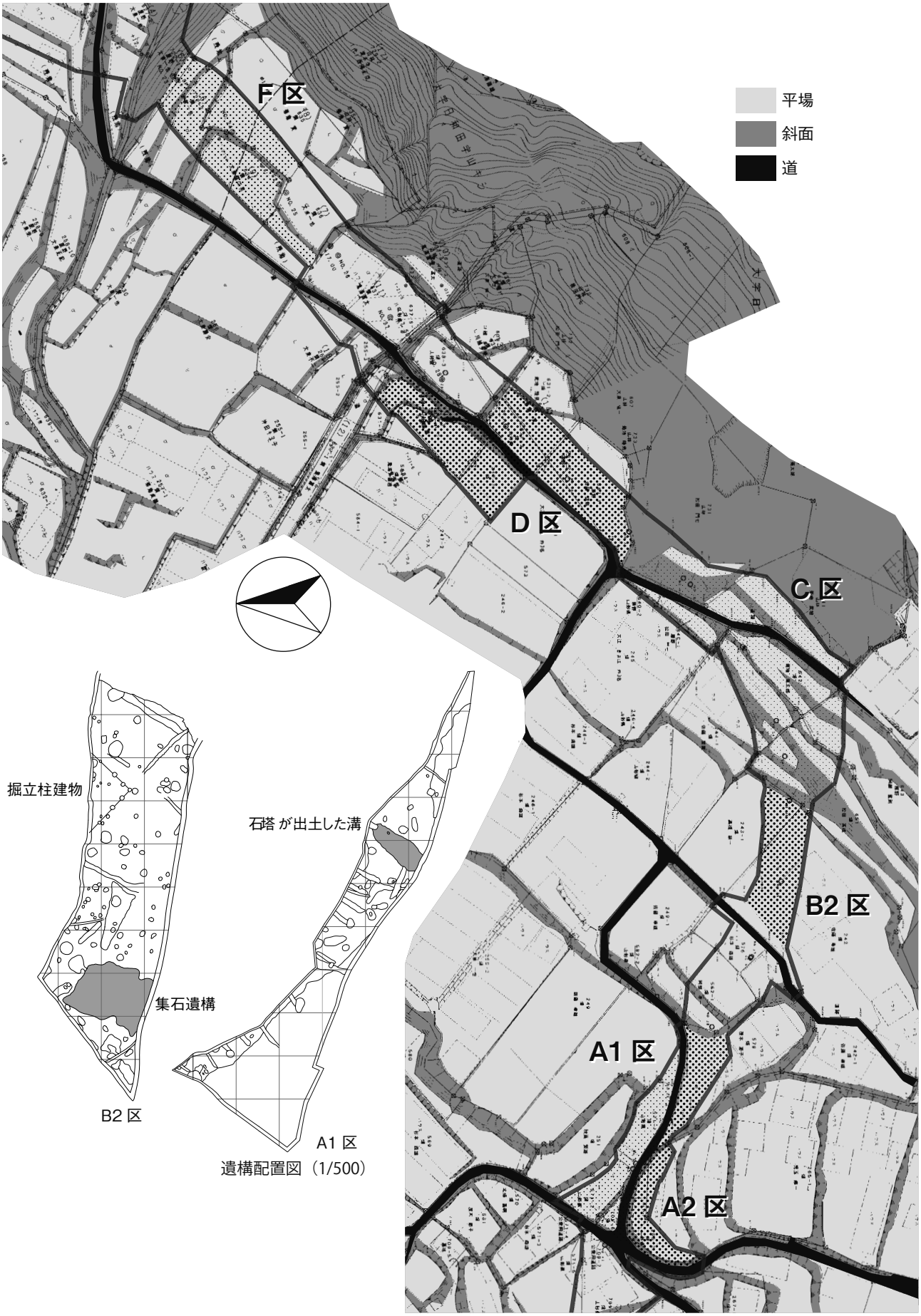
各調査区から鎬連弁文青磁椀・青白磁梅瓶・青花・瀬戸美濃・珠洲・越前・瓦質土器・肥前磁器など、13 世紀から 17 世紀を中心とした遺物が出土している。また、仏具の可能性がある金属製品が出土している。さらに縄文時代や奈良時代、平安時代の遺物も出土している。

まとめ

従来、文献史料や伝承によって知られていた上の寺遺跡周辺の寺院の存在が、石塔や仏具の出土によって、考古学的に裏付けられた意義は大きい。

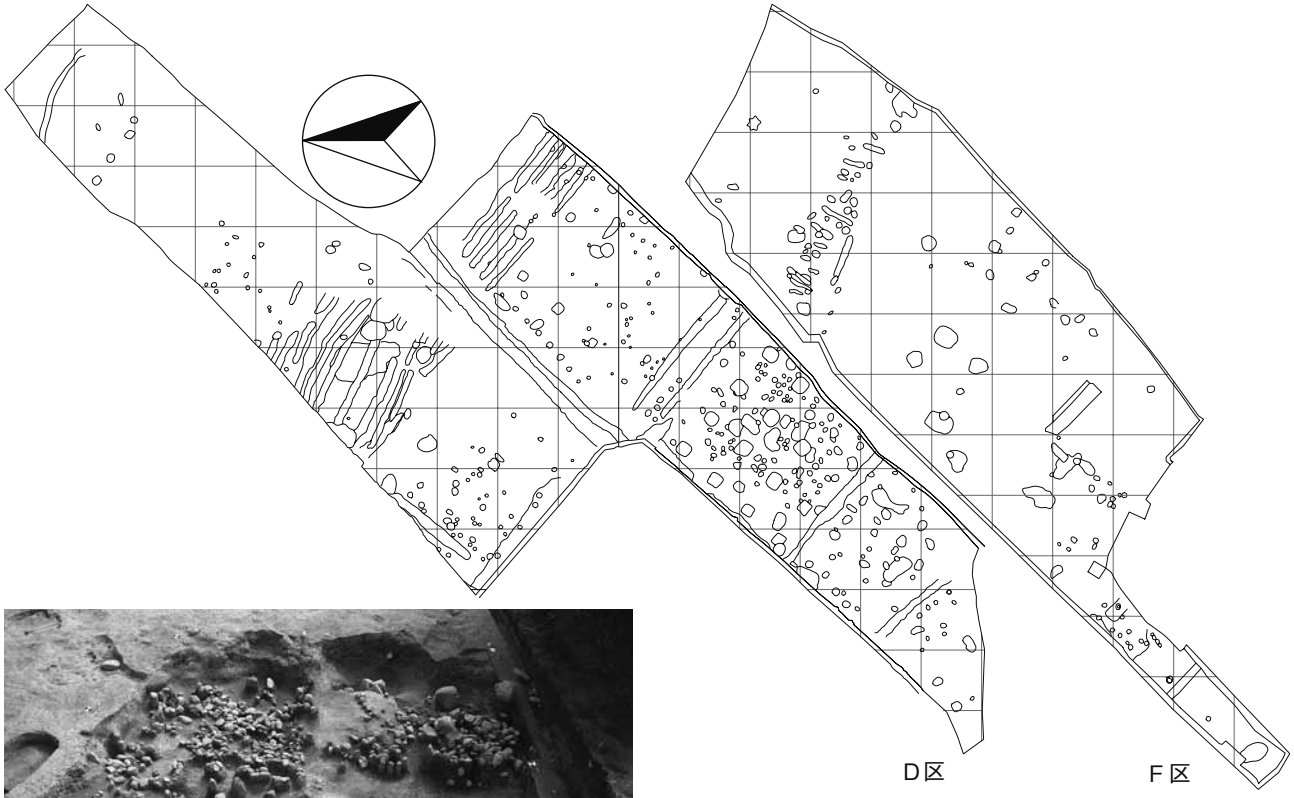
また、現在の地形と調査で確認した地形を比較することによって、一帯の土地利用の歴史の一部が明らかになってきた。現在見られる段々畑状の地形の多くは、江戸時代以降に作られた可能性が高い。しかし、土塁や大溝など大きな区画は中世にさかのぼると考えられる。

調査区全景（東から）



遺構配置図（1/500）

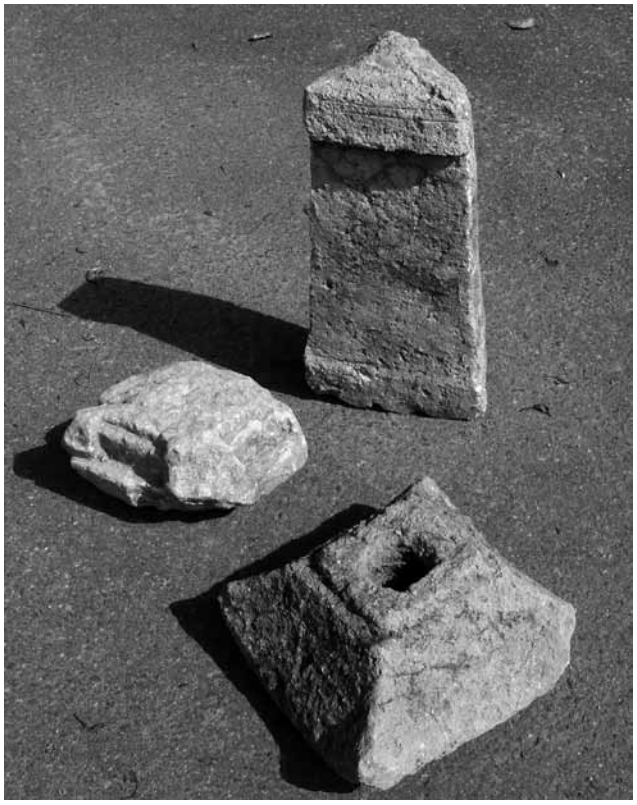
調査区概要図（1/1,500）



遺構配置図（1/500）

B2 区集石遺構（北西から）

D 区調査前状況（南西から）

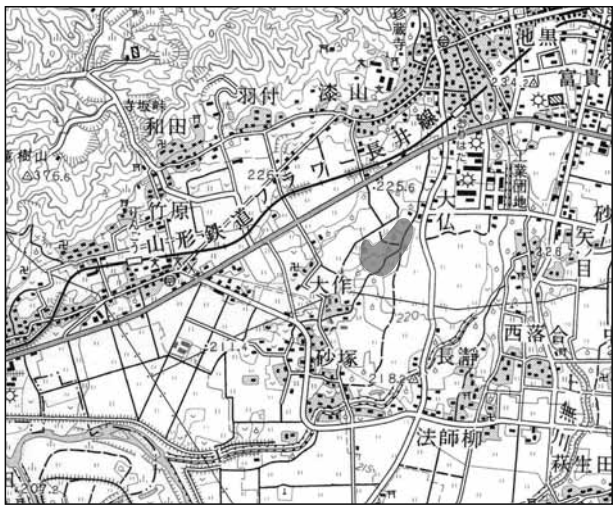


A1 区溝跡出土板碑・宝篋印塔・五輪塔

C区トレンチ調査（南から）

天王遺跡

遺 跡 番 号　平成 8 年度登録
調 査 次 数　第 2 次
所　在　地　山形県南陽市大字漆山字天王・塚原二
北緯・東経　38 度 3 分 26 秒・140 度 7 分 4 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調 査 原 因　国道 113 号線赤湯バイパス改築事業
調 査 面 積　6,500 ㎡
現 地 調 査　平成 19 年 5 月 10 日～ 10 月 19 日
調査担当者　高橋一彦（調査主任）、吉田江美子
調 査 協 力　置賜教育事務所・南陽市教育委員会
遺 跡 種 別　墳墓跡・集落跡
時　　代　古墳時代・奈良、平安時代・中世
遺　　構　周溝・溝・堀・井戸・土坑・柱穴等
遺　　物　土師器・須恵器・中世陶磁器・木製品・石製品
（文化財認定箱数：51 箱）



調査の概要

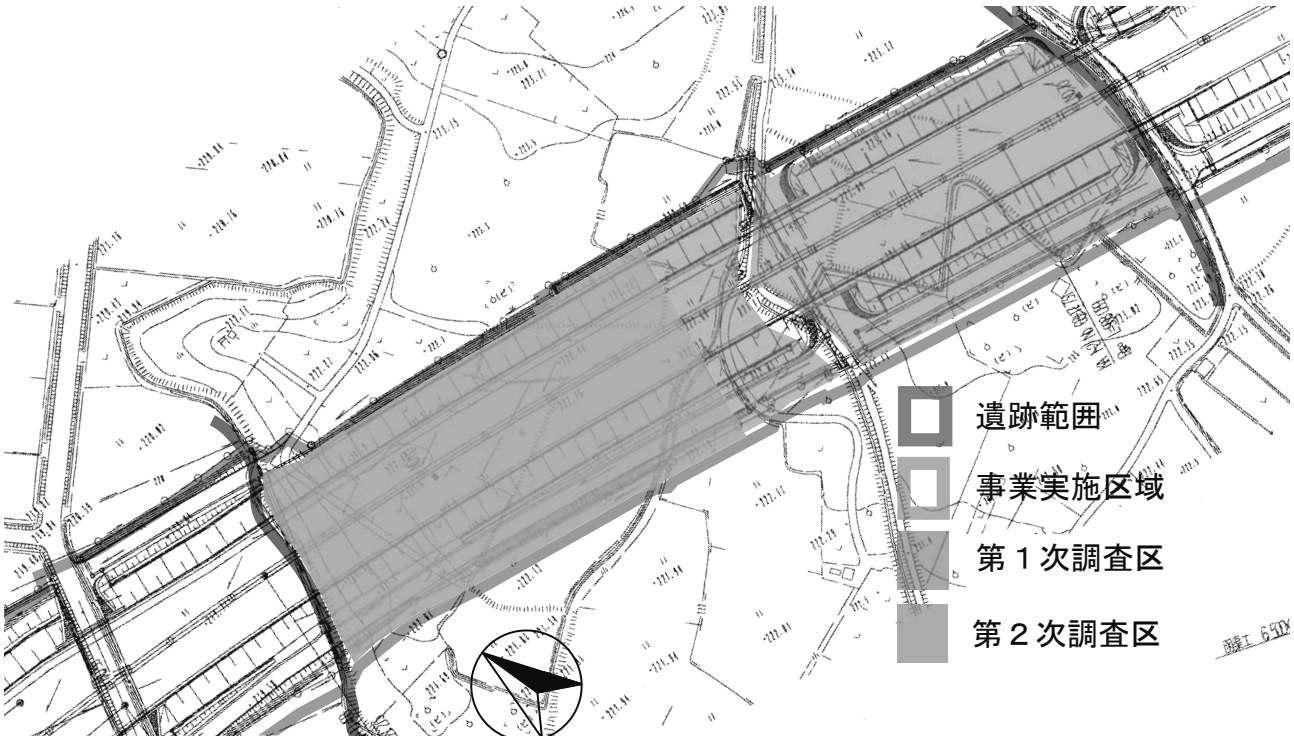
天王遺跡は南陽市宮内の熊野大社から南西約 4km の河岸段丘上に位置している。調査区北側には地元の人が「テンノウさま」と呼ぶ祠（ほこら）があり、遺跡名の由来にもなっている。遺跡の北東の大仏（おぼとけ）集落には山形県指定文化財の「文和三年阿弥陀板碑」が建つ。

今回の調査は昨年度の 1 次調査に続き、事業に係る遺跡の 13,000 ㎡のうち 6,500 ㎡を対象に実施した。

遺　　構

古墳時代の溝跡、中世の掘立柱建物跡・井戸跡・堀跡などが見つかった。古墳時代の遺構の主なものは次のとおりである。直径 18m 前後の円形に巡る溝跡が 3 基見つかった。調査では墳丘や墓坑の存在を確認することはできなかった。そのため、この遺構を円墳と見るか、円形周溝墓と見るかは議論の分かれるところである。遺構から出土した遺物などから、これらの周溝は 4 世紀頃造られたものと考えられる。この時代の古墳の構造から考えて、地山部分に墓坑が見られないということはこの遺構が墳丘を持った古墳であったと考えるのが妥当であると考えている。しかし、今後この時代の古墳に詳しい研究者の意見も聞きながら、慎重に検討しなければならない問題である。また、遺跡近隣の古墳群などとの関係がどうであったかという問題も今後の研究課題である。また、調査区中央で方形の周溝が確認された。前方後円墳の前方部の可能性も視野に入れて調査を進めた。しかし、横幅が 38m という大きさに対して、溝幅が 2m と狭く、古墳としてはバランスが悪い。したがって、古墳である可能性は低いと思われるが断言はできない。

中世の遺構は、調査区全体で掘立柱建物群や井戸跡が確認された。特徴的なのは調査区北東の柱穴群で、底に礎板が設置された柱穴が数多く確認された。この礎板が



調査区概要図（1/3,000）

出土した遺構を図面上で確認すると、見事に直線上に並び、実際に掘立柱建物が建てられたことが実証される。この掘立柱建物群は昨年度確認された堀跡に続く堀跡の北側（内側）に集中しており、中世の前半に、堀に囲まれた大規模な方形館（ほうけいかん）があったという推測を裏付けるものである。また、素掘りの井戸も確認された中で、木製の井戸枠を使った井戸が数基確認されたのが特徴的である。中には使われていた当時の状態をほぼ完全にとどめた状態で出土した大きな井戸枠もある。

遺　物

周溝の遺物について、下層からは古墳時代前期の器台（きだい）などの土師器、上層からは奈良～平安時代の土師器・須恵器が出土している。中世の遺構からは 13 ～ 14 世紀頃の須恵器系陶器、青磁などの中世陶磁器、木簡や曲物などの木製品、砥石などの石製品が出土している。特徴的なのは、昨年に引き続いて堀跡と、川跡から１基ずつ板碑が出土したことである。いずれも置賜地方に多く見られる龕殿型（がんでんがた）（家型）板碑で、屋根の下の部分が短くカットされている珍しい形の板碑である。遺跡の近くに立つ文和三年阿弥陀板碑との関連がうかがえそうである。また、縄文時代、弥生時代の土器の破片や石器の材料となる頁岩（けつがん）も周溝や河川跡から出土している。近くの遺跡から流れ込んだものと考えられる。

まとめ

今年度の第２次調査では円墳の古墳群と思われる遺構が見つかった。これは周辺の古墳との関連を考える上で大きな発見であったと思う。古墳時代、ここ天王は亡くなった人へ祈りをささげる葬送の地であった。そして中世の時代には、「テンノウさま」を屋敷神とする方形館（ほうけいかん）があり、堀の外側には人々の住む居住域と畑などの生産域が展開していたことが確認された。周辺の館跡との比較検討も研究課題として残る。ここは中世の時代も、神や板碑などへの祈りを大切にする空間であったと言える。時代を超えた人々の信仰がうかがい知れる。

円墳の完掘状況。杉の木の根元に小さな祠（ほこら）がある。

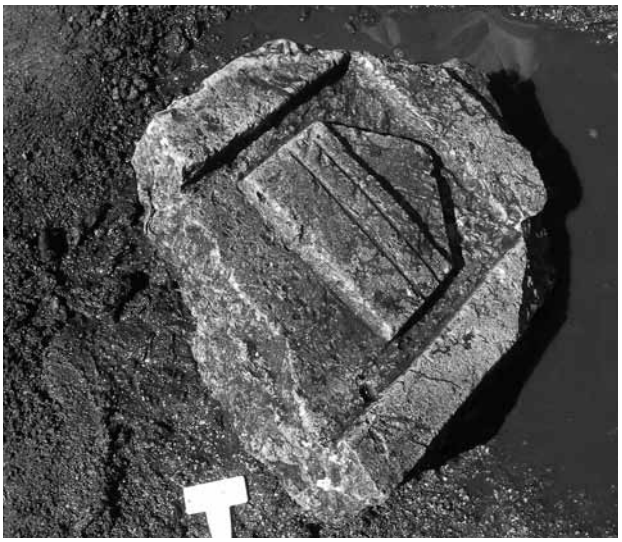
0
10m
18
20
22
24
26
28
30
32
34
36
38
40
58
56
54
52
50
48
46
SH1
SH2
先行引渡し区域

遺構配置図（1/600）

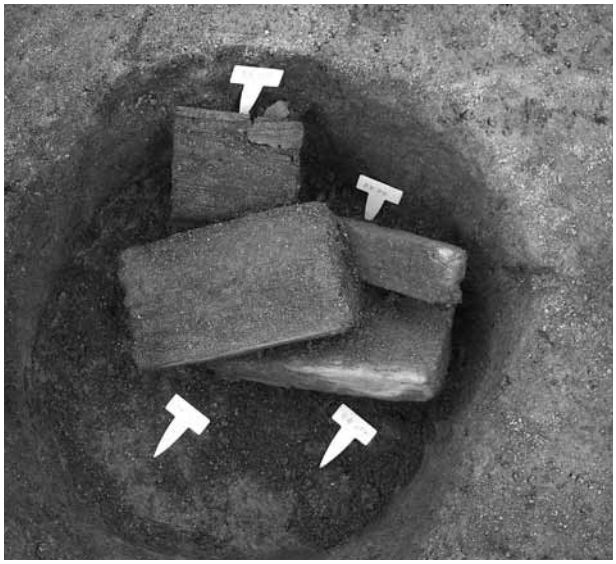
調査区西側完掘状況（上空から）

円墳（SH2）完掘状況

古墳時代の土器



堀跡から出土した板碑



礎板出土状況

井戸枠出土状況

上大作裏遺跡（かみおおざくうら）

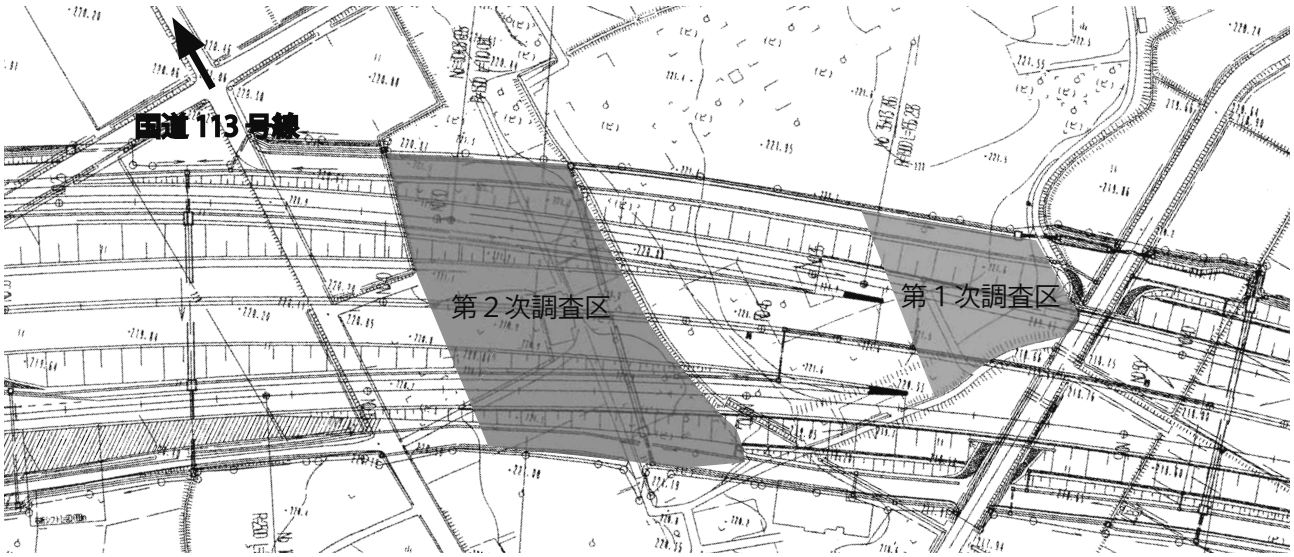
遺 跡 番 号　平成８年度登録
調 査 次 数　第２次
所　在　地　南陽市大字砂塚字大作前ほか
北緯・東経　38 度 03 分 28 秒・140 度 06 分 43 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調 査 原 因　一般国道 113 号赤湯バイパス改築事業
調 査 面 積　4,000 ㎡
現 地 調 査　平成 19 年 5 月 10 日～ 7 月 27 日
調査担当者　須賀井新人（調査主任）、今正幸
調 査 協 力　置賜教育事務所、南陽市教育委員会
遺 跡 種 別　集落跡
時　　代　縄文時代、弥生時代、奈良・平安時代、中世
遺　　構　竪穴住居跡、墓跡、土坑、井戸跡、溝跡
遺　　物　縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、石器、石製品
（文化財認定箱数：３）

調査の概要

上大作裏遺跡は、国道 113 号赤湯バイパス改築に係る県教育委員会の分布調査により、平成８年度に確認・登録された遺跡である。平成 17 年度の試掘調査を経て、（財）山形県埋蔵文化財センターが委託を受け、記録保存のための緊急発掘調査を実施することになった。平成 18 年度に実施した第１次調査では、県内で稀少な弥生土器を主体とする遺物が出土した。また同年、用地取得に伴う遺跡範囲西側の試掘調査が行われ、新たに約 4,000 ㎡の範囲に遺構や遺物の散布が確認された。その結果、平成 19 年度に第２次調査を実施することになった。調査は、バイパス工事用道路の付替えにかかる北端部を先行して行い、この部分の引渡しを経て、残る南半域の調査を進めていった。

遺跡は南陽市西部の梨郷地区に所在する。吉野川・上（かみ）無（なし）川・織機（おりはた）川の複合扇状地である宮内扇状地の扇央部に位置し、標高は約 220 mを測る。宮内扇状地に放射・帯状に広がる自然堤防は、その開析過程における河川の激しい流路変動を物語るものであるが、遺跡はそうした織機川の旧河道とみられる自然堤防上の微高地に立地している。付近の現況は、旧河道にあたる凹地が水田、その両岸の自然堤防にあたる微高地が畑地や果樹園となっている。

遺跡が立地する自然堤防上では、旧河道に沿って連なるように複数の時代の遺跡が確認されている。北東に隣接する掛在家（かけざいけ）遺跡や高山原（こうざんぱら）遺跡では、表面採集ではあるものの、縄文時代前期初めの桂島式土器、弥生時代中期後半の桜井式土器が出土しており、本遺跡との関連が指摘される。東方の旧河道対岸では、当センターが天王遺跡の調査を実施しており、古墳時代の墳墓跡や堀に囲まれた中世の屋敷跡が見つかっている。発達した長大な



調査区概要図（S=1:2,000）

自然堤防の存在は、長期にわたる安定した河川の流入を示唆しており、河川やそれに伴う低湿地を背景として遺跡が営まれてきたものと考えられる。

遺　構

縄文時代、奈良・平安時代、中世の３時期の遺構が検出された。約 500 基の遺構は、出土遺物が少ないため、時代が明らかなものは一部に限られるが、大方は縄文時代早期末～前期初めに属するものと考えられる。

縄文時代の竪穴住居跡は４棟確認され、伴出する遺物や住居の形状などから、早期末の住居跡が２棟（ST42・90）と前期初めの住居跡が２棟（ST40・100）と判断される。これまで早期の住居跡の検出はあまり例がなく、織機川上流に位置する大野平（おおのだいら）遺跡のように山腹や山麓部に多かった当時代の集落跡が、平野部で発見されたことは注目される。さらに、付近の土坑（SK51）から副葬品と考えられる 14 点もの石鏃がまとまって出土しており、小判型の形状などから、同時期の墓跡と考えられる。また、前期の住居跡（ST100）内には、袋状の土坑（EK144）が検出されており、食料を蓄えるための貯蔵穴と考えられる。周辺にも同様の袋状土坑が多数見られる。

奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡１棟（ST52）と土坑が数基見つかっている。。

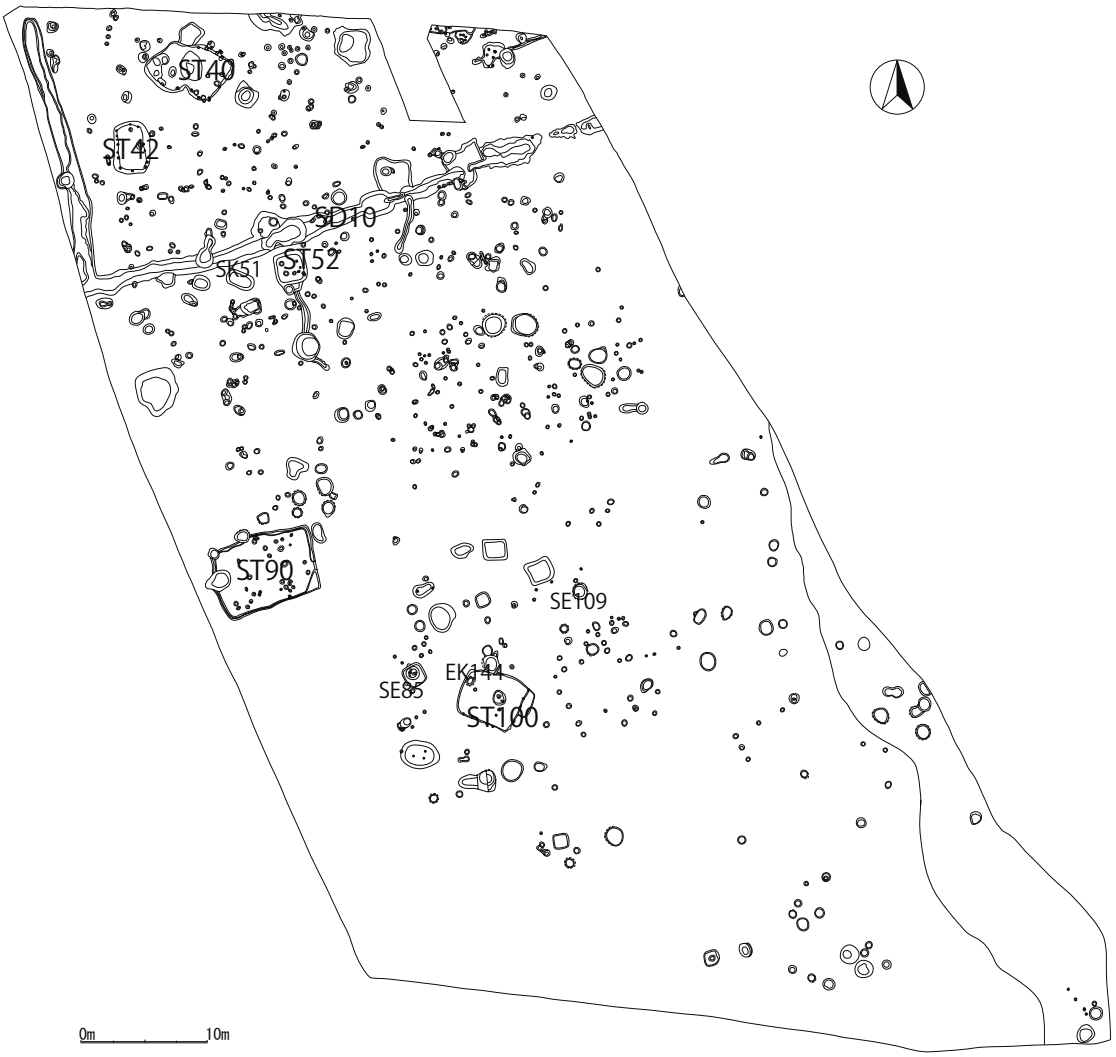
中世の遺構としては、調査区の南半域から井戸跡が２基（SE85・109）確認された。また、調査区を東西に横切る溝（SD10）が掘られているが、これは敷地を区画するためのものと考えられる。

遺　物

縄文土器・土製品と石器、弥生土器、奈良・平安時代の土師器・須恵器、中世の陶器が出土している。出土遺物は整理箱で３箱ほどと少なく、土器類はすべて破片である。

遺跡近景

SD10 溝跡の調査風景



遺構配置図（S=1:600）

縄文土器では器の内・外面に縄文を施したもの（表裏縄文土器）があり、縄文時代早期末に特有の土器である。また、縄の一端に蕨のような環を作って回転させた文様のもの（ループ文土器）が見られ、縄文時代前期初めのものと考えられる。さらに、土器片を再利用した土製品として、土器の破片を円く整形し、中央に穴をあけた「有孔円板」が数点出土している。石器の完形品としては、石鏃や石匙などがある。

弥生土器は第１次調査で多数出土したが、今回は表土除去の際に数点見つかった程度で、遺構に伴うものはなかった。これらは２本一対の平行沈線を引いた文様に特徴があり、弥生時代中期後半のものである。

奈良・平安時代の土師器・須恵器には甕や坏、中世の陶器には主に井戸跡から出土した鉢や甕などが認められる。

ま と め

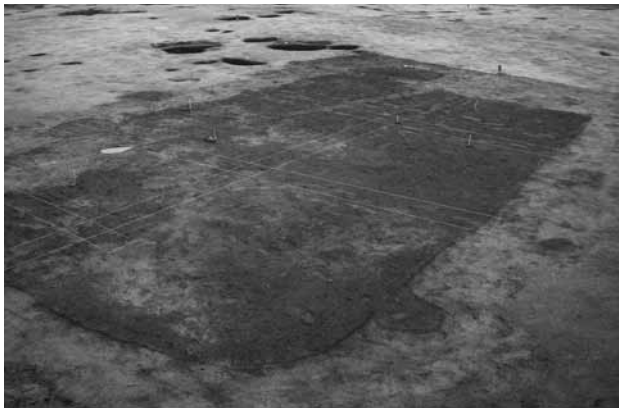
これまでの調査から、上大作裏遺跡は縄文時代、弥生時代、奈良・平安時代、中世の集落跡で、４つの時代を含む複合遺跡であることがわかった。

第２次調査で発見された遺構は、縄文時代早期末～前期初めを中心とするもので、当時の竪穴住居跡４棟をはじめ、墓跡や貯蔵穴などが見つかった。

また、第１次調査で多く出土した弥生土器は、同じ宮内扇状地に位置し、同時期の土器群が一括出土した百（ひゃく）刈田（がりだ）遺跡との関連がうかがわれる。

いずれも県内では調査例や資料数が少なく、貴重な資料を得ることができた。遺構・遺物の分布状況や地形などから、遺跡の範囲は自然堤防上に沿って、さらに北東へ広がっていくものと推測される。付近の河川や低湿地をうまく利用しながら、長年にわたって大きなムラが営まれていた可能性が考えられる。

ST40・42 竪穴住居跡の検出状況



ST90 竪穴住居跡の検出状況

ST100 竪穴住居跡の完掘状況

調査区全景

SE85 井戸跡の土層断面

有孔円板の出土状況

SK51 墓跡の完掘状況と出土した石鏃・縄文土器

檜原遺跡

遺跡番号　平成８年度登録
調査次数　第３次
所　在　地　南陽市大字中落合字檜原他
北緯・東経　北緯 38 度 03 分 03 秒・東経 140 度 07 分 55 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因　一般国道１１３号赤湯バイパス改築事業
調査面積　4,500 ㎡
現地調査　平成 19 年５月 15 日～７月 31 日
調査担当者　伊藤邦弘（調査主任）・氏家信行・庄司隆志・山澤護
調査協力　置賜教育事務所・南陽市教育委員会
遺跡種別　集落跡
時　　代　平安時代・中世・近世
遺　　構　柱穴・溝跡・土坑
遺　　物　須恵器・土師器・陶器・磁器・石器
（文化財認定箱数：１箱）

調査の概要

檜原遺跡は、一般国道 113 号赤湯バイパス改築事業に伴う遺跡詳細分布調査で、平成８年度に山形県教育委員会により確認・登録された。その後、工事計画との調整が図られ、平成 17 年度に試掘調査が行われた。これをもとに、工事にかかる部分について、(財) 山形県埋蔵文化財センターが委託を受け、記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施することになった。

平成 18 年度は、第１次調査（Ｄ・Ｅ区の 1,275 ㎡、県道改良工事に伴い８～９月に実施）及び第２次調査（Ａ・Ｂ区の 7,400 ㎡、国道改築工事に伴い５～ 11 月に実施）が行われ、第１次調査の報告書が刊行された。今年度は第３次として、Ｃ区の 4,500 ㎡を調査した。２か年の調査で得られたＡ・Ｂ・Ｃ区に係る記録類や遺物は、山形県埋蔵文化財センターでの整理作業の後、発掘調査報告書としてまとめられ、平成 21 年度に刊行される予定である。

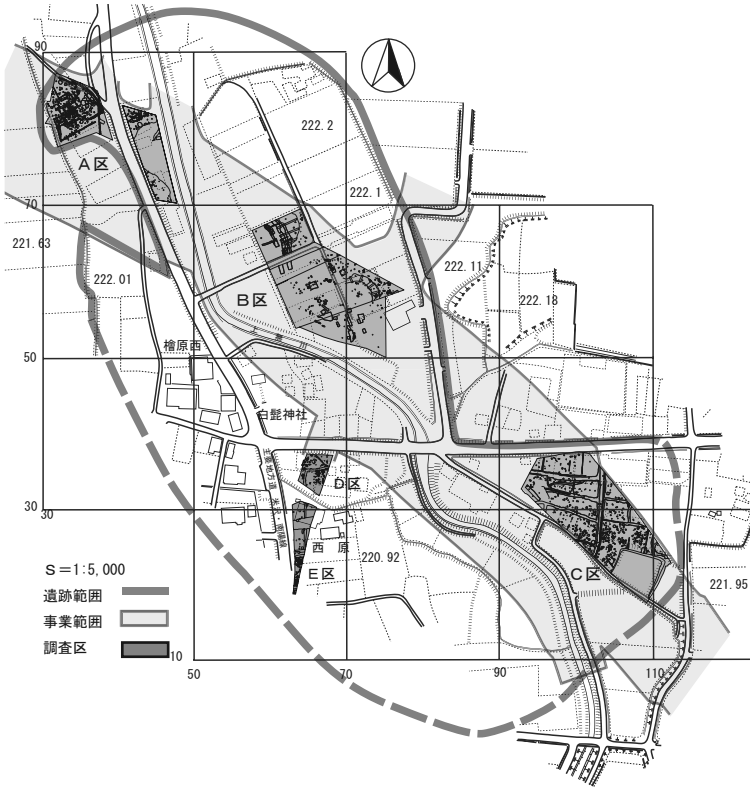
檜原遺跡は、南陽市南部の沖郷地区にある。吉野川と織機川に形成された宮内扇状地の扇央部、上無川の自然堤防上に位置し、標高は約 221 ｍを測る。近年まで遺跡一帯の土地は、畑、ぶどう・りんごの果樹園地として利用されていた。そのため、果樹栽培に伴う攪乱がみられた。

檜原遺跡の北西には、弥生時代後期の竪穴住居や桜井式、天王山式などの土器が見つかった庚壇遺跡、また南東には、奈良・平安時代の掘立柱建物が建ち並び、官衙的な様相を持つ中落合遺跡がある。

遺構と遺物

今回の調査では、柱穴・土坑・溝跡などの遺構が確認された。総数は約 650 基に及ぶ。

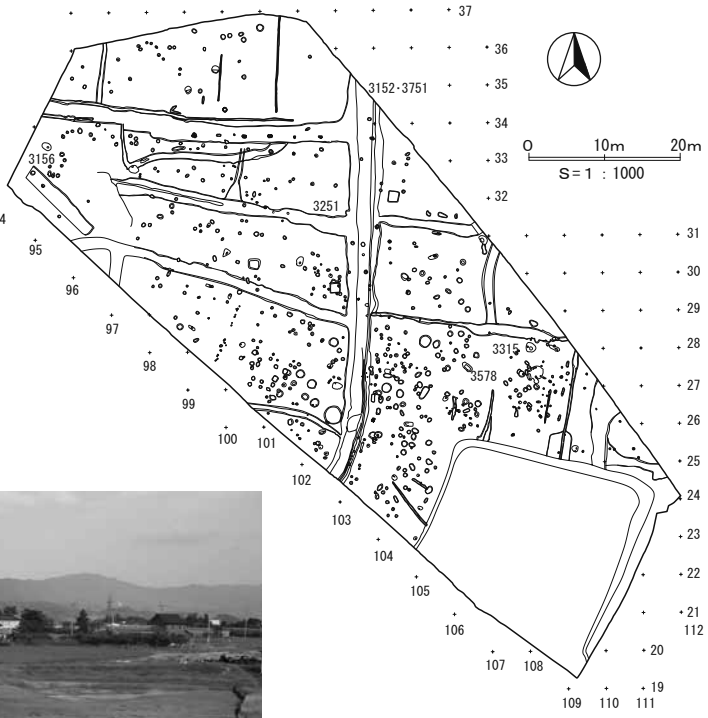
中でも柱穴が最も多く、大半が直径 20 ～ 40 ㎝、深



調査概要図

調査区全景　鳥瞰写真（北西より）

調査区全景　遺構検出状況（北西より）



遺構配置図

調査区全景　遺構完掘状況（北西より）

さ 20cm 前後で、中世から近世にかけての掘立柱建物跡を構成するものと推定されるが、現段階では建物跡の棟数や配置は明確になっていない。周囲の遺構との関係と合わせて検討を加える必要がある。

土坑の大半は、浅く、直径が 1 m前後の円形である。中には、長楕円形で、多量の炭や焼土が入っているものも見つかったが、利用目的は不明である。また、土坑が比較的まとまって見つかった区域と、ほとんど見られない区域があり、土坑の性格や、その土地の利用に違いがあったことがうかがえる。

溝跡には大小の規模が見られる。大きい溝跡は、調査区の中央に南北方向に掘られた 3152 溝跡と、それにほぼ直交する形の西側の 4 条、東側の 2 条の東西方向の溝である。最も大規模な 3152 溝跡は、幅約 4 m、深さ約 80 ㎝である。この溝跡が埋まった後に同じ場所に新しい溝（3751 溝跡）が掘られた状況が確認された。この溝は、出土した遺物から近世の所産と考えられる。東西の溝跡はどれも 3152 溝跡よりも浅く、3152 溝跡埋没後に掘られた新たな溝跡と同じ時期に作られたのではないかと考えられる。

出土した遺物は、縄文時代の石器、平安時代の須恵器（有台坏、壺、甕など）・土師器（坏、甕）、中世の陶器、近世の磁器、砥石などの石製品があり、多くは溝跡から出土した。茶碗、皿、擂鉢、甕、徳利などの陶器や磁器の多くは、江戸時代以降に作られたものと考えられる。

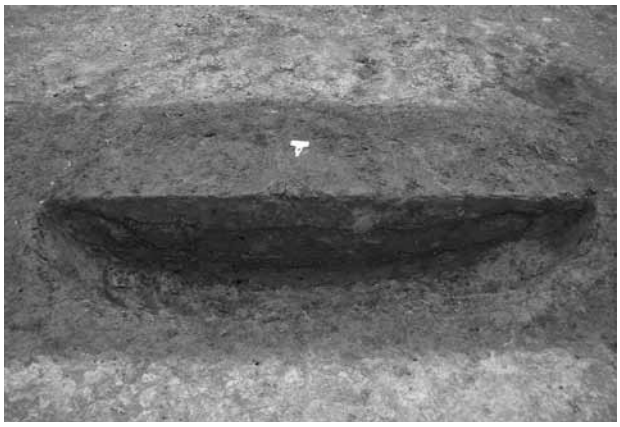
ま と め

昨年度の調査では、溝で区画された中世の屋敷跡（A 区）、平安時代の火を使った生産活動または祭祀の場所と推測される跡（B 区）、方形（四角形）の堀を廻らせた中世の館の一部（D・E 区）が見つかっている。

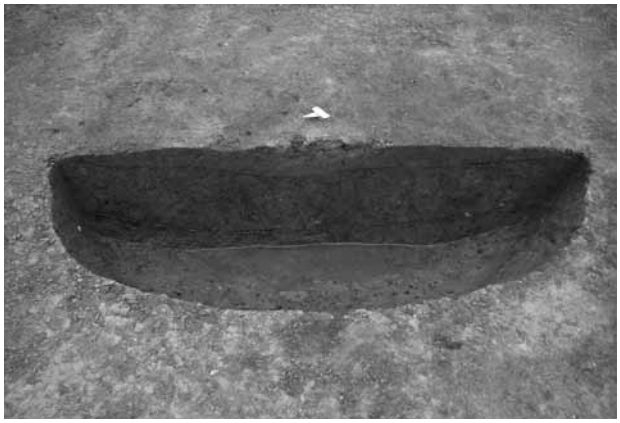
今回の発掘調査では、平安時代・中世・近世の集落の一部が見つかった。平安時代の遺構は、おもに調査区の東部で見つかっていることから、集落の主体は南東部にあったと考えられる。一方、中世から近世にかけての遺構は、北西部に広がると推測される。地形的には、北西部に行くに従い低くなっており、中世以降の集落が低地に開けていったことを知る好例である。中世以降に始まった開拓が近世に再び手を加えられ、さらに近代まで引き継がれていた様子がうかがえる。

調査区中央部南側の柱穴（東より）

調査区東側の柱穴（西より）



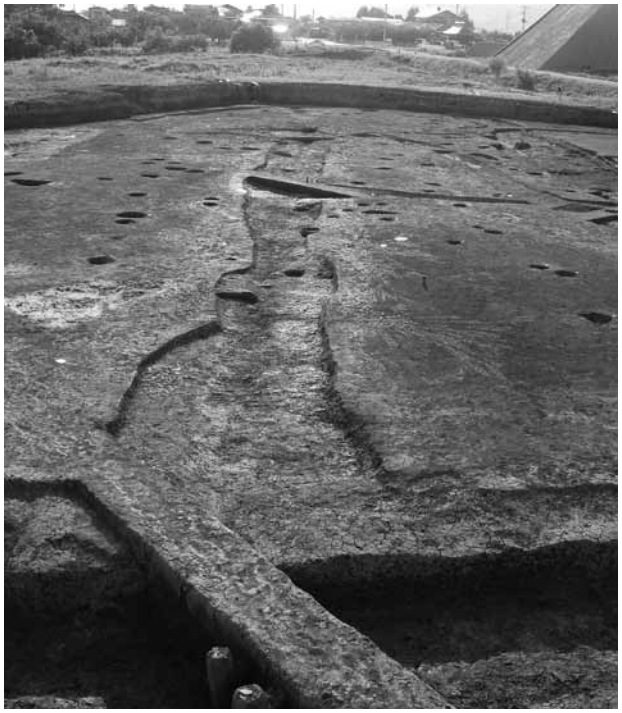
３５７８土坑　土層断面



３１５６土坑　土層断面

３１５２・３７５１溝跡　土層断面（南より）

調査区中央部の３１５２・３７５１溝跡（南より）



調査区西側の３２５１溝跡（東より）

調査区東側の３３１５溝跡（西より）

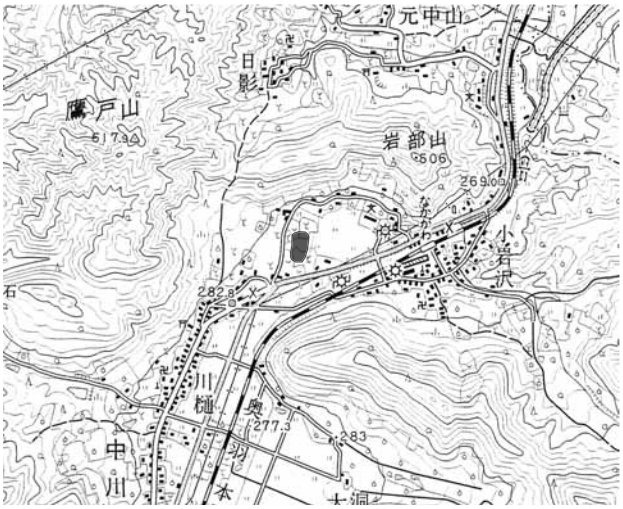
出土遺物　須恵器

出土遺物　石器・砥石

出土遺物　近世陶器・磁器

加藤屋敷遺跡（かとうやしき）

遺 跡 番 号　平成 17 年度登録
調 査 次 数　第２次
所　在　地　南陽市川樋字加藤屋敷
北緯・東経　38 度 09 分 24 秒・140 度 19 分 30 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所調査第二課
調 査 原 因　一般国道 13 号上山バイパス改築事業
調 査 面 積　1,600 ㎡
現 地 調 査　平成 19 年 7 月 17 日～ 9 月 28 日
調査担当者　氏家信行（調査主任）・伊藤純子
調 査 協 力　置賜教育事務所・南陽市教育委員会
遺 跡 種 別　集落跡
時　　代　縄文時代・奈良・平安時代・中世・近世
遺　　構　竪穴住居跡・河川跡・溝跡・墓坑・土坑
遺　　物　縄文土器・石器・須恵器・土師器・墨書土器・木製品
（文化財認定箱数：41 箱）



調査の概要

加藤屋敷遺跡は、JR 奥羽本線中川駅から南西へ約 500 mの南陽市北東部の川樋地区に所在している。周りを鷹戸山と岩部山に囲まれた緩やかな傾斜地で、標高は 280 mを測る。現在は、水田や畑地、果樹園になっている。

今回の調査は、一般国道 13 号上山バイパス改築事業（中川工区）に伴う緊急発掘調査として行った。

遺跡は、平成 17 年度に山形県教育委員会が行った試掘調査の結果、平安時代の土器が出土し、柱穴、溝跡が確認されたことから登録された。平成 18 年度に第 1 次調査を実施し、工事用道路を除く 4,400 ㎡について調査を行っている。今回の発掘調査は、第２次調査で、1 次調査の結果から、工事用道路部分の遺構が密と推測される 1,600 ㎡について調査を実施した。

調査は、南側をＦ区、北側をＧ区として、重機による表土除去･遺構検出･遺構精査･記録という工程で進めた。

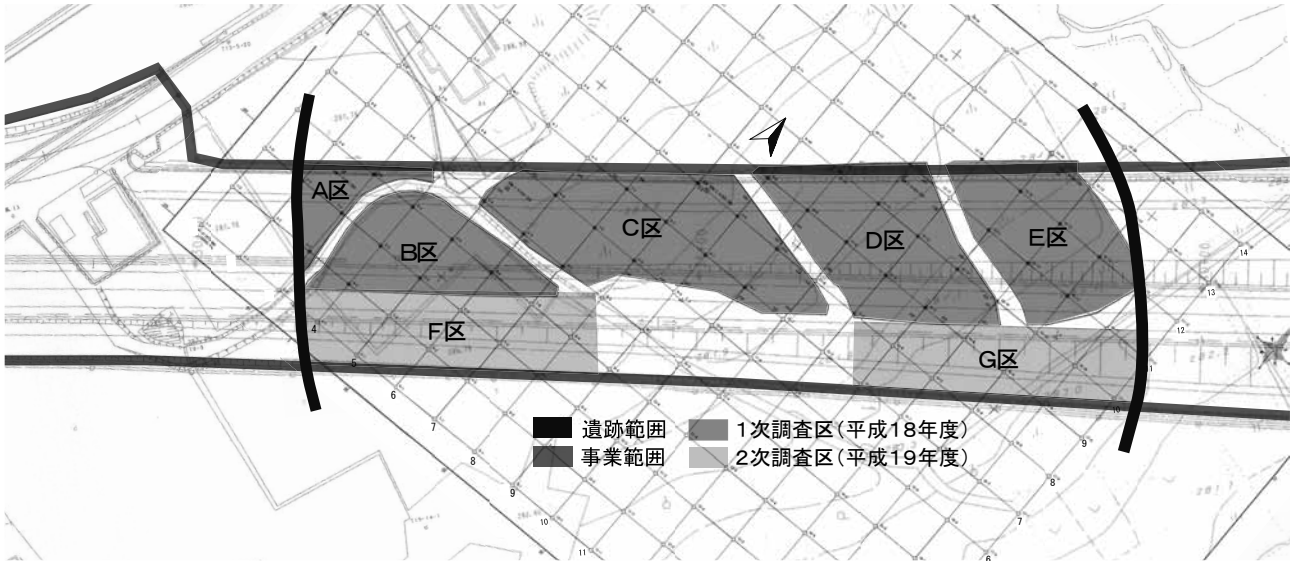
遺構と遺物

調査では、Ｆ区から竪穴住居跡、土坑、墓坑、溝跡などが、Ｇ区からは土坑、溝跡、河川跡などが検出された。

竪穴住居跡は、直径 5.5 mを測るほぼ円形で、中央に石組みの炉跡が構築されている。貯蔵穴も２基確認された。覆土や貯蔵穴から出土した縄文土器の特徴から後期末に属すると考えられる。

河川跡は、1 次調査区から続くもので、幅 2.0 m、深さは確認面から 1.5 mを測り、さらに東側の調査区外まで続く。覆土中から奈良･平安時代の土器や木製品の他、クルミやトチの実なども出土した。

溝跡は、Ｆ区で 10 条、Ｇ区で４条確認され、大半が調査区を南北に横断している。Ｇ区の SD86・87・91 溝跡からは中・近世の陶磁器片が出土している。



調査概要図（S＝1:1,500）

墓坑は、上部が削平され、深さは10cm程で覆土から骨片が出土している。付近から寛永通宝が出土していることから、江戸時代の人骨の可能性も考えられる。

土坑は、直径約1.0 m前後を測るものが多く、円形や楕円形に掘られている。土器片が多く出土したもの、土器と共に炭や焼土が多量に出土したものが検出された。

遺物は、縄文土器や石器、奈良・平安時代の須恵器、土師器、木製品、中・近世の陶磁器などが出土した。

縄文時代の遺物は、コブが付いているものや櫛書きの文様が施された縄文土器と小型の尖頭器、石匙、砥石などの石器がある。

奈良・平安時代のものは、須恵器の蓋、坏、壺、甕や土師器の坏、甕、内黒土器、蓋の摘みに「他田」と書かれた墨書土器、そして木製品では柄杓、皿、椀、曲げ物、箸などが河川跡から多数出土した。木製品の皿や曲げ物には黒漆が塗られたものもある。その他、中世の青磁、近世の染付けなども出土している。

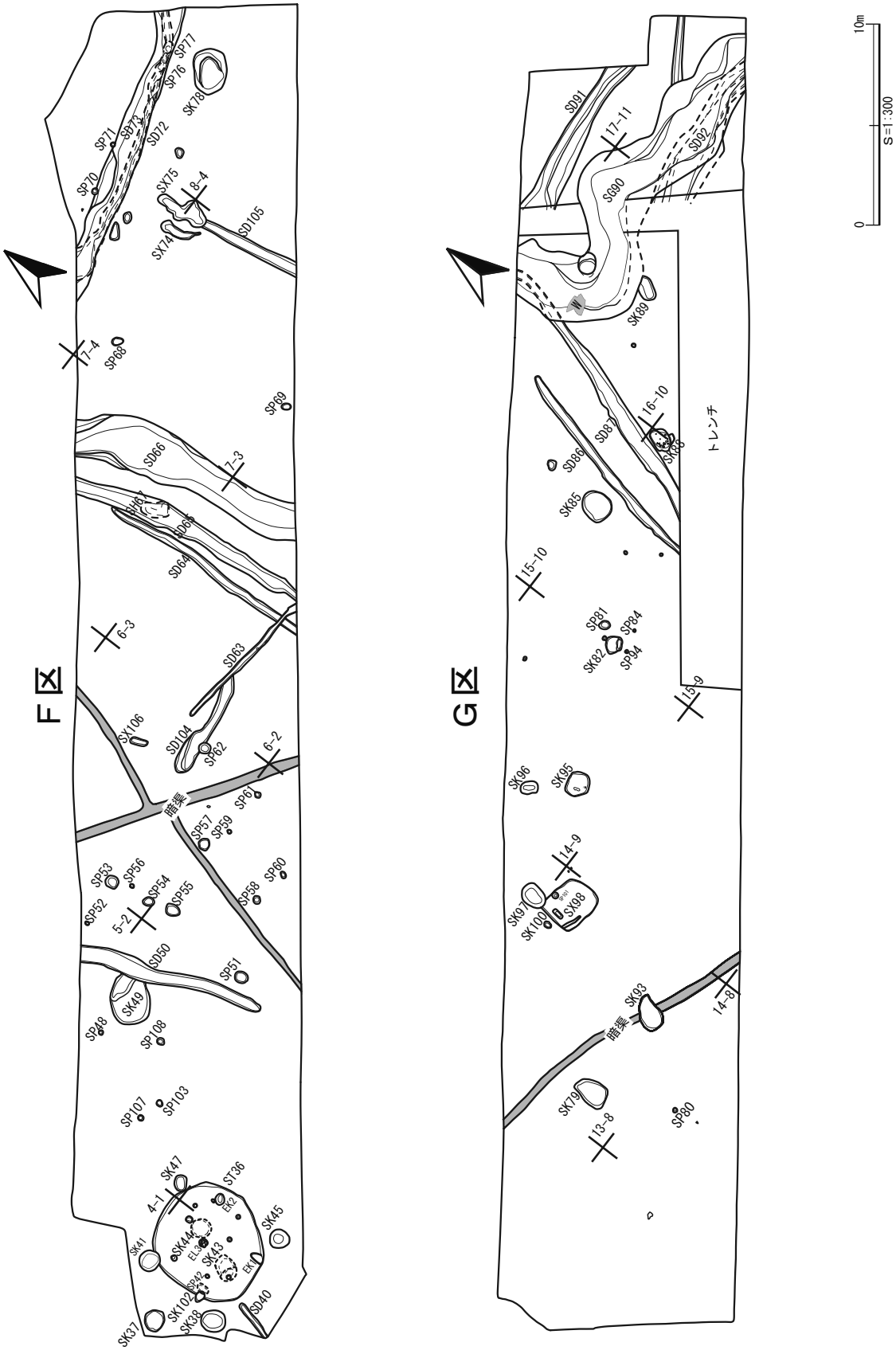
ま と め

調査の結果、１次調査区で確認された集落跡に続く縄文時代、奈良・平安時代、中・近世の集落の一部が検出され、遺跡は複数の時代を含む複合遺跡であることが確認できた。

今回調査した区域は遺構が希薄であることから、集落の東端と推測される。１次と２次調査の結果、集落の中心は、古代の竪穴住居跡が６棟検出された第１次調査区を含む北西側になり、その主たる時期は８世紀末から９世紀後半の奈良・平安時代と考えられる。そして、河川跡から出土した多くの奈良・平安時代の遺物は、大規模な古代の集落跡の存在を窺わせる。

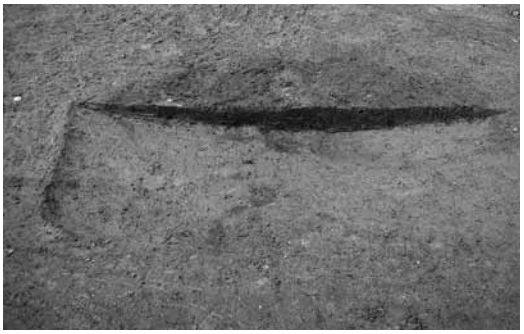
また、縄文時代後期末の竪穴住居跡が見つかったことは、当遺跡の北西に存在する縄文晩期の遺跡とみられている岩谷堂遺跡との関連が考えられる。

遺跡全景（南西から）


F区
G区
暗渠
トレンチ
SP77
SP76
SK78
SP71
SP73
SD72
SP70
SX75
8-4
SX74
SD105
7-4
SP68
SP69
SD66
7-3
SD65
SD64
6-3
SD63
SX106
SD104
SP62
6-2
SP61
SP57
SP59
SP53
SP56
SP52
SP54
SP55
5-2
SP58
SP60
SD50
SP51
SK49
SP48
SP108
SP107
SP103
SK47
4-1
ST36
EK2
SK45
SK41
SK44
EL30
SK43
SP42
EK1
SK102
SK38
SD40
SK37
SD91
17-11
SD92
SG90
SK89
16-10
SD87
SK88
SD86
SK85
15-10
SP81
SP84
SK82
SP94
15-9
SK96
SK95
14-9
SK97
SP101
SX98
SK100
SK93
14-8
SK79
13-8
SP80
10m
0
S=1:300

遺構配置図

縄文時代の竪穴住居跡（東から）

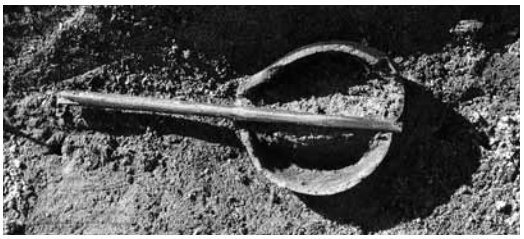


近世の墓坑（北東から）

古代の土坑（東から）

河川跡遺物出土状況（東から）

河川跡土器出土状況



柄杓出土状況

木製皿出土状況

下駄出土状況

天矢場遺跡

遺 跡 番 号　平成 18 年度登録
調 査 次 数　第 1 次
所　在　地　南陽市大字川樋字天矢場
北緯・東経　38 度 05 分 27 秒・140 度 11 分 25 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調 査 原 因　一般国道 13 号上山バイパス改築事業
調 査 面 積　4,500 ㎡
現 地 調 査　平成 19 年 5 月 10 日～ 7 月 17 日・平成 19 年 10 月 1 日～ 11 月 6 日
調査担当者　須藤孝宏（調査主任）・伊藤純子
調 査 協 力　置賜教育事務所・南陽市教育委員会
遺 跡 種 別　狩猟場・集落跡
時　　代　縄文時代・中世・近世
遺　　構　陥穴・掘立柱建物跡・溝跡・井戸跡・土坑
遺　　物　縄文土器・石器・須恵器・陶磁器・石製品・木製品
（文化財認定箱数：10 箱）

遺溝位置図

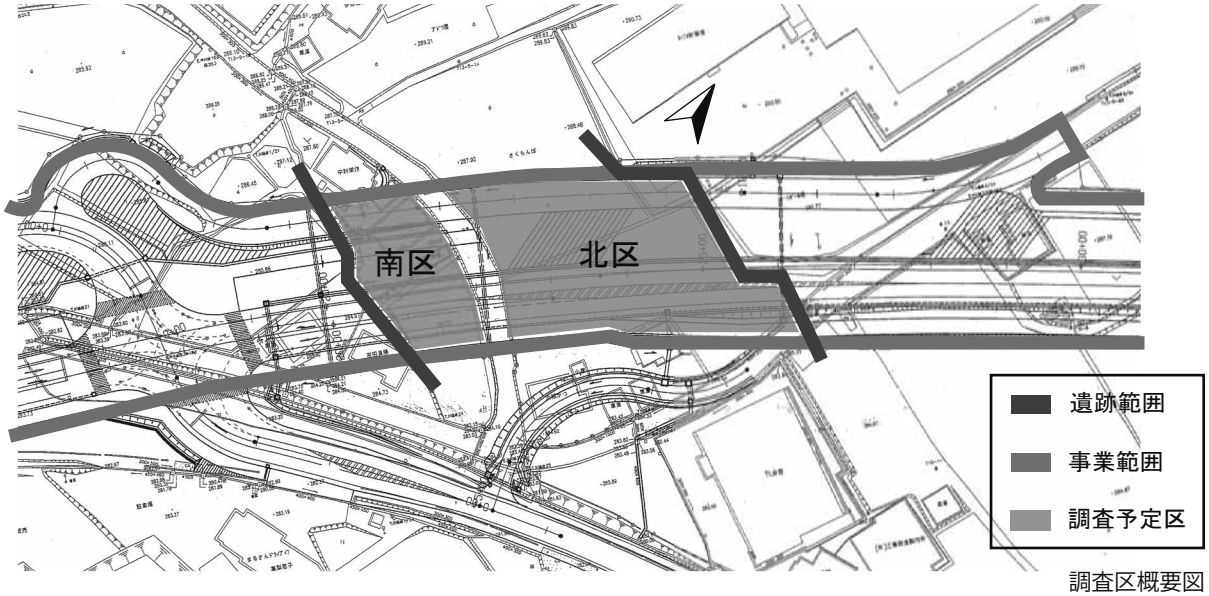
調査の概要

天矢場遺跡の発掘調査は、一般国道 13 号上山バイパスの改築工事（中川工区）に伴う緊急発掘調査として実施された。昨年度、山形県教育委員会による試掘調査が行われ、本遺跡が確認・新規登録された。その結果、事業区内の 4,500 ㎡について、記録保存が必要となり、財団法人山形県埋蔵文化財センターが国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所から委託を受け、発掘調査を行うことになった。

調査区のほぼ中央を横切る道路の付け替え工事を必要としたため、この道路を境にして、東側半分を先行して調査した後、道路の付け替え工事の完了を待って、残る西側半分を調査した。前期・後期調査とも、調査区中央を東西に走るもう一つの道路を境に、便宜上北側からそれぞれＡ・Ｂ区、Ｃ・Ｄ区の２区各に分けて、①重機による表土除去、②遺構検出、③遺構精査、④記録、という工程で調査を進めた。調査終了後は、調査対象外になった道路よりも北側（Ａ・Ｃ区）を北区・南側（Ｂ・Ｄ区）を南区と改めて、整理作業を進めることにした。

天矢場遺跡は、JR 奥羽本線中川駅から西へ約 1 ㎞のところ、南陽市北東部の中川地区に所在する。中川地区は東方の奥羽山脈と北西方の白鷹丘陵に挟まれ、中央を前川が北流する谷状の地形になっている。本遺跡は、この小盆地の西側に位置し、標高は 285 m程である。調査前は、宅地および畑地・果樹園等として利用されていた。

南陽市中川地区には、諏訪原・元中山日陰・小岩沢・日向・長次郎・一ノ倉山・岩谷堂などの縄文時代中期および後期を主体とする遺跡が点在することが以前から知られていた。また、天矢場遺跡の北東側に隣接する加藤屋敷遺跡では、昨年度から２年間に亘って発掘調査が行われ、奈良・平安時代の土師器や須恵器が多量に出土するとともに、縄文時代後期のものと思われる竪穴住居が



調査区概要図

確認されるなど、大きな成果が得られている。さらに、江戸時代の史跡としては、金毛和尚によってつくられた岩部山三十三観音などがある。

現在もＪＲ奥羽本線や国道13号線といった山形県を縦断する幹線が通ってるこの地だが、江戸時代にはすでに羽州街道が整備されていた。ゆえに当地は、各時代を通じて多くの人々が往来し、文物の交流機会にも恵まれた地域であったと考えられる。

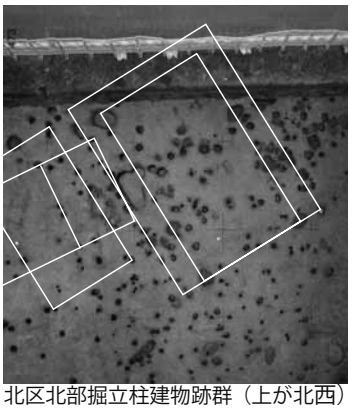
遺　構

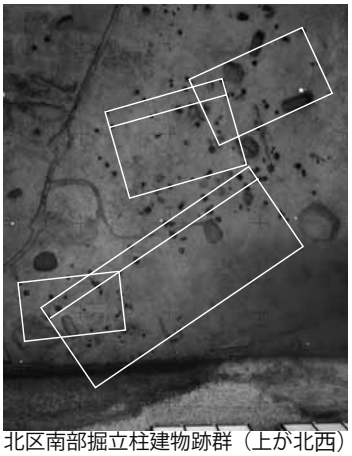
検出された遺構には､縄文時代のものと思われる陥穴、中世から近世にかけてのものと思われる掘立柱建物跡・溝跡・井戸跡・畝状遺構・土坑等がある。

縄文時代の陥穴と思われる土坑は、南区東部に合計４基検出されている。大きさはいずれもおよそ 1.5 × 0.8 m程で、検出面より底面の方が広く掘り込まれ、向きを同じくした状態で、３～４ｍの間隔を置いて配置されている。遺跡の西方に位置する白鷹丘陵から、東方に位置する前川の水を飲みに下りて来る動物たちを捕まえようとして掘られたものと思われる。陥穴の可能性がある土坑は、この他にＣ区でも数基検出されている。

陥穴群（北東から）

柱穴は北区の中央からやや北側に密集しており、遺跡全体ではおよそ 1500 基検出されている。このうち掘立柱建物跡を構成すると思われる組み合わせを、現段階で 15 棟ほど検出できているが、検出された柱穴の総数から推察すれば、さらに多くの掘立柱建物が構築されていたものと思われる。遺跡から出土した遺物や、柱の間隔および建物の構造等から判断して、鎌倉時代から江戸時代まで、連綿とこの地に集落が営まれていたと思われる。検出された掘立柱建物跡の構造（主に主軸方向）から、構築年代はおおよそ３期に分かれるようである。なお、北区の最も北側から検出された掘立柱建物は、南・西・北の３方に庇を持ち、柱穴の直径も他の建物の２倍程になっている。集落の中核になりうる建物跡として注目される。


北区北部掘立柱建物跡群（上が北西）

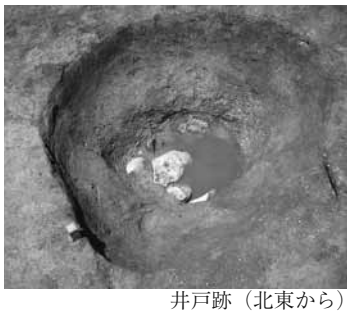

北区南部掘立柱建物跡群（上が北西）

溝跡は北区の東側半分および南区西端部で検出されている。おおよそ南北軸方向に構築されたものが多く、何らかの規則性が看取される。構築時における

遺構配置図 (1/500)

溝跡（南から）

畝状遺構（南から）


井戸跡（北東から）

集落内の道路・区画の傾きを反映している可能性がある。埋土からは縄文土器片・石器・陶磁器片等が出土している。

井戸跡は北区・南区とも、標高の低い東側を中心に合計７基検出されている。井戸枠の施されたものは無く、全て素掘りのものである。側面の傾斜角や底面の状況は多様で、底面を大型の石で固めたものもあった。大きさは、検出面の直径で約1.3 ～ 2.0 m、深さが0.6 ～ 0.7 m程である。井戸の底からは、白鷹丘陵が蓄えた雨水が伏流水となって湧き出しており、井戸が利用されていた当時から、豊富な水を確保できていたことが分かる。それぞれの井戸跡からは、縄文土器片や須恵器片、さらには繊維状になった木片等が出土している。

遺　物

遺物は、縄文時代・古代・中世・近世の各時代のものが出土している。出土量はわずかで大半は破片であるが、貴重な資料になりうるものもある。縄文土器は中期中葉のものが中心で、早期末葉の条痕文土器や、前期後葉の羽状縄文土器、さらには後期後葉の瘤付土器を若干含む。石器・石製品では石鏃や石箆、石鉢等が出土している。古代の遺物は、須恵器の壷・甕とこね鉢の破片が３点のみ出土している。中世の遺物は、新潟県の五頭山麓古窯のものと思われる甕、ロクロかわらけ、竜泉窯青磁碗、景徳鎮青花皿など、史料的価値の高いものが出土している。近世の遺物は、会津焼と思われる擂鉢や初期伊万里・肥前の染付等が出土している。遺物出土数の比率としては、縄文土器片が最も高くなっている。

縄文土器（鉢）

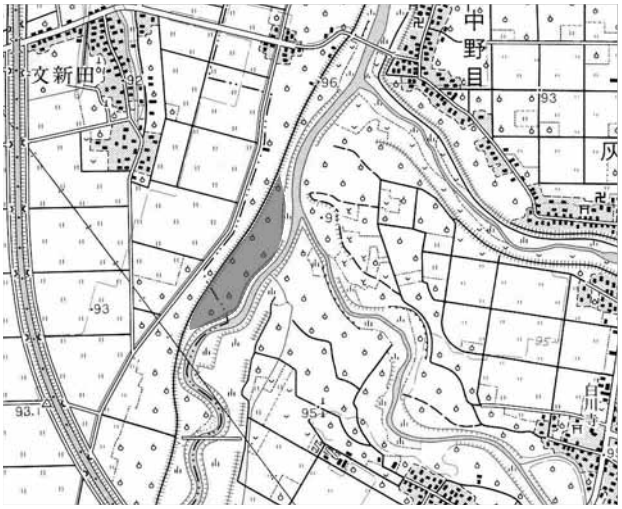
縄文土器（前期・中期･後期）

須恵器･陶磁器

石器･石製品･木製品

川前（かわまえ）2遺跡

遺 跡 番 号　平成13年度登録
調 査 次 数　第3次
所　在　地　山形市大字中野目字赤坂ほか
北緯・東経　38度19分38秒・140度18分20秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調 査 原 因　須川河川改修下流部事業
調 査 面 積　3,500㎡
現 地 調 査　平成19年5月14日～10月12日
調査担当者　小林圭一（調査主任）・佐藤祐輔・深澤篤
調 査 協 力　村山教育事務所･中山町教育委員会･山形市教育委員会
遺 跡 種 別　集落跡
時　　代　弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代
遺　　構　竪穴住居跡、土坑、溝跡、河川跡
遺　　物　土師器、須恵器、砥石、アメリカ式石鏃
（文化財認定箱数：103箱）



調査の概要

川前２遺跡は、山形市と中山町の二つの市町にまたがり、山形盆地の西部を北流する須川左岸の自然堤防上に位置する。古墳時代前期（４世紀代）の集落跡で、平成14・15年の調査では、奈良・平安時代の集落が検出されていたが、さらに下層（20～100㎝下）から古墳時代の生活面が検出された。今回の調査では、古墳時代前期の住居跡が６棟、掘り込みを伴わない土器の出土状況が随所に認められ、河川に隣接した古墳時代の集落の様相が明らかとなった。

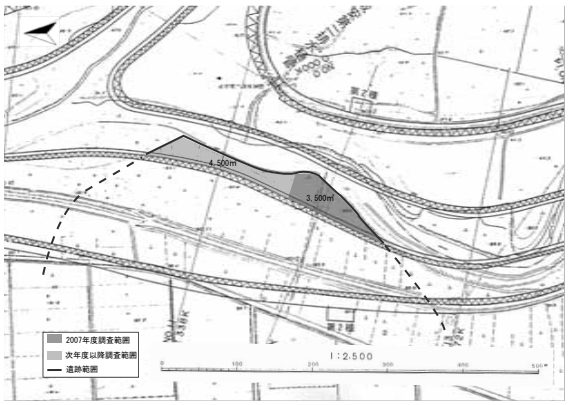
遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡10棟、溝跡１条、土坑17基、ピット91基、河川跡、畑跡、掘り込みを伴わない土器集中区なでである。

竪穴住居跡は、古墳時代前期６棟、奈良・平安時代３棟、時期不明１棟で、調査区の南側から中央付近の須川寄りの微高地で検出された。古墳時代の住居跡は、一辺が５～６ｍの方形で、床面が硬化しており、一部には地床炉や柱穴が確認された。

土坑は、性格の判然としない例がほとんどであるが、古墳時代では浅く掘り込んで火を焚いた跡（SK11・12・14）や焼土を埋めた土坑（SK9）が、掘り込みを伴わない土器集中区に隣接して検出されており、何らかの儀礼に関係して火を焚いた可能性が想定される。また平安時代の土坑（SX1）では、埋没の途上に焼土と鉄滓が認められたことから、製鉄作業に係わる土坑であったと考えられる。

調査区の西北側から中央にかけての低地部から、古墳時代前期の土器（壺・甕・高坏・器台・小型壺等）が多数出土した。いずれも地面を掘り込んだ形跡が認められず、特定の場所から集中したり、意図的に土器を置い



調査概要図

た状態で出土した。特に調査区北側の 16 － 17 グリッドからは、小型の甕や壺が 19 点まとまって出土し、意図的に土器を配置した様相が観察された。周囲からは、先に記したように地面を浅く掘り込んで火を焚いた跡（SK11・12）も検出されており、その関連が想定される。

調査区の中央には、東西に横断した河川跡（SD1）が検出された。平安時代の住居跡が削られていることから、それ以降の河川と考えられ、須川に直交するように川幅を広げ、北東側で北方向に流路を変えており、古墳時代の住居跡の一部も削られていた。

ま と め

今回の調査では、古墳時代前期の集落跡を検出した。居住施設が調査区内でも須川寄りの微高地に営まれたのに対し、遺物集中区がやや低い場所に形成されており、日常的な場所と儀礼等の場所が、ある程度区別されていたことが明らかになった。

川前２遺跡の位置する須川下流域は、最上川との合流点が近く、白川や立谷川も合流し、水運の便に適した地域となっている。しかし増水時には洪水の危険にさらされていたと考えられ、調査区内でも冠水で堆積した砂質土が、古墳時代の面を広く覆っており、その上に平安時代の集落が構築されていた。

川沿いの集落であった川前２遺跡は、水運の要衝として発達したと遺跡と考えられる。古墳時代に土器を意図的に配置し、火を焚いた跡のような儀礼の場が設けられたのは、洪水を回避するための祈願や儀式が、集落の中で頻繁に執り行われた結果と考えられる。古墳時代の集落の形成期間は、約 100 年程度と見込まれるが、出土した遺物は、整理箱で 100 箱に達しており、それだけ土器を配置する行為が頻繁に繰り返されていたものと想定される。

調査区全景（西から）

堤屋敷遺跡（つつみやしき）

遺 跡 番 号　平成 16 年度登録
調 査 次 数　第２次
所　在　地　米沢市万世町字桑山
北緯・東経　37 度 53 分 38 秒・140 度 9 分 38 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調 査 原 因　東北中央自動車道（福島～米沢）新設事業
調 査 面 積　10,000 ㎡
現 地 調 査　平成 19 年 5 月 8 日～ 11 月 9 日
調査担当者　菅原哲文（調査主任）・武田伸一・山木　巧
調 査 協 力　東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・置賜教育事務所・米沢市教育委員会
　　・万世コミュニティーセンター
遺 跡 種 別　集落跡
時　　代　縄文時代・平安時代・中世・近世
遺　　構　竪穴住居跡・竪穴建物跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑・陥穴・墓壙・柱穴・焼土遺構
遺　　物　縄文土器・石器・須恵器・土師器・中世陶磁器・近世陶磁器・古銭・木製品
　　(文化財認定箱数：91 箱)

調査の概要

堤屋敷遺跡は、米沢市街地から南東約 5 ㎞に位置しており、南側には標高 502m の早坂山、東側には天王川 (梓川) が北流している。遺跡周辺は、早坂山の山腹の傾斜地と天王川による扇状地で形成されており、南から北へと標高が低くなる地形である。古くから福島県とをつなぐ交通の要衝であり、中世の城館跡が数多く確認されている。

堤屋敷遺跡は、東北中央自動車道 (福島～米沢) の新設事業に先立ち、平成 16 年度の県教育委員会による分布調査で発見された遺跡である。その結果、日本道路公団東北支社 (現・東日本高速道路株式会社東北支社) と県教育委員会との協議が行なわれ、事業予定地にかかる埋蔵文化財については財団法人山形県埋蔵文化財センターが委託を受けて、記録保存のための発掘調査を行うこととなった。

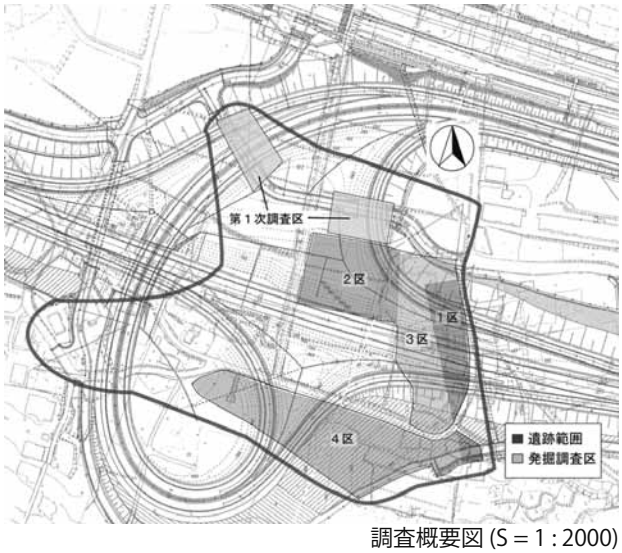
第 1 次調査は、平成 17 年度に約 1,940 ㎡にわたって実施されており、掘立柱建物跡 1 棟が確認されている。

本年度の第 2 次調査は、 1 次調査区から南側の範囲である。調査面積が約 10,000 ㎡に及ぶため、工事との調整から調査区を 1 ～ 4 区に分割し、順次調査を進めた。

遺構と遺物

1 区では、江戸時代にあたると考えられる建物の柱穴や土坑、溝跡が検出された。遺物は、土坑 (SK26) から下駄などの木製品が出土した。また、寛永通宝（かんえいつうほう）などの古銭、肥前産の染付碗などの近世陶磁器が多く出土した。

2 区では、石鏃（せきぞく）、磨製石斧（ませいせきふ）、打製石斧（だせいせきふ）、凹石（くぼみいし）や磨石（すりいし）などの縄文時代の石器が出土している。調査区内からは、縄文時代の住居跡などは確認されていない。当遺跡の東側に位置する山ノ下遺跡では、埋設土器（まいせつどき）などの縄文時代の遺構が確認されている。これらの遺物は、周辺に存在



調査概要図 (S = 1 : 2000)

する縄文時代の遺跡に関わるものと考えられる。

平安時代の遺構では、北西端で竪穴住居跡 (ST39) が１棟検出された。規模は一辺約５ｍ規模の方形プランであり、周溝と柱穴が確認された。調査区の中央を南北に伸びる溝跡 (SD30) からは、土師器(はじき)や須恵器(すえき)の坏や甕の破片が出土している。

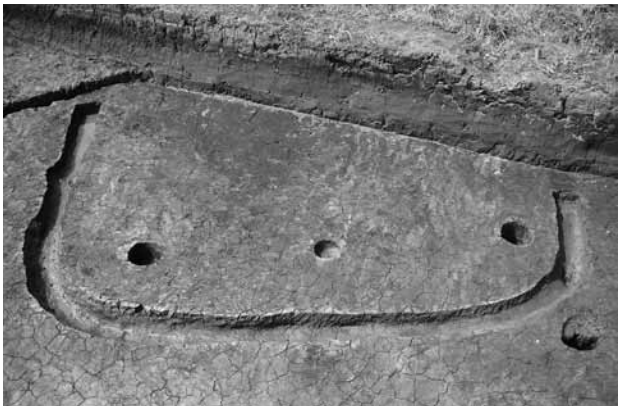
中世の遺構では、当時の一般的な建物である掘立柱(ほったてばしら)建物跡がある。２区では３棟（ＳＢ 48・ＳＢ 55・ＳＢ 75）が確認された。溝跡（SD30）も、この時代に引き続き利用されているようである。溝跡からは、黒漆が塗られた漆器の碗や皿が出土し、皿の底部には、「米」とも読み取れる刻書(こくしょ)が記されている。陶磁器では、中国産の青磁(せいじ)の碗が出土している。

３区では、江戸時代を中心とする３棟の掘立柱建物跡や溝跡が検出された。溝の中に偏平な石の礎板を据えて柱を建てた SB118 建物跡、柱穴の底に礫を敷いて柱を建てた SB105 建物跡が確認された。いずれも２区の建物群より時期的に新しくなる可能性がある。３区南端部の溝跡 (SD166) からは、内耳土鍋(ないじどなべ)を中心とする中世の遺物がまとまって出土している。また、焼土と共に内耳土鍋が出土した焼土遺構 (SX165) は、カマドとして使用されていた可能性が考えられる。

遺跡南側の傾斜地にあたる４区では、掘立柱建物跡や溝跡を中心とする､中世の集落跡が確認された。集落は、外側を幅２ｍの溝跡で囲まれ、内側には掘立柱建物跡が繰り返し建てられている。建物群は４区で４地点確認され、６棟の建物跡を検出した。規模は 10 ｍに満たない小形の建物である。竪穴建物跡は１棟確認され、床面に炭や焼土が検出されたことから、工房などの役割が考えられる。縄文時代の遺構としては、列をなして配置された陥穴(おとしあな)が 10 基確認された。底面には落ちた獲物が逃げないように逆茂木(さかもき)を据えた痕が認められる。また、江戸時代末の陶磁器などが出土する墓壙(ぼこう)が 10 基確認された。

遺物は、集落の外側を囲む溝跡 (SD168・205) からの出土が大半を占め、15 ～ 16 世紀と考えられる遺物が大量に廃棄されている。内耳土鍋、擂鉢(すりばち)、甕などの陶器

２区 遺構完掘状況



２区 ST39 竪穴住居跡

３区 SB105・118 掘立柱建物跡

や土器、中国産の青磁碗、漆器の椀や皿、曲物・下駄などの木製品、砥石や石臼などの石製品、刀の鍔（つば）や貨幣などの金属製品が出土している。

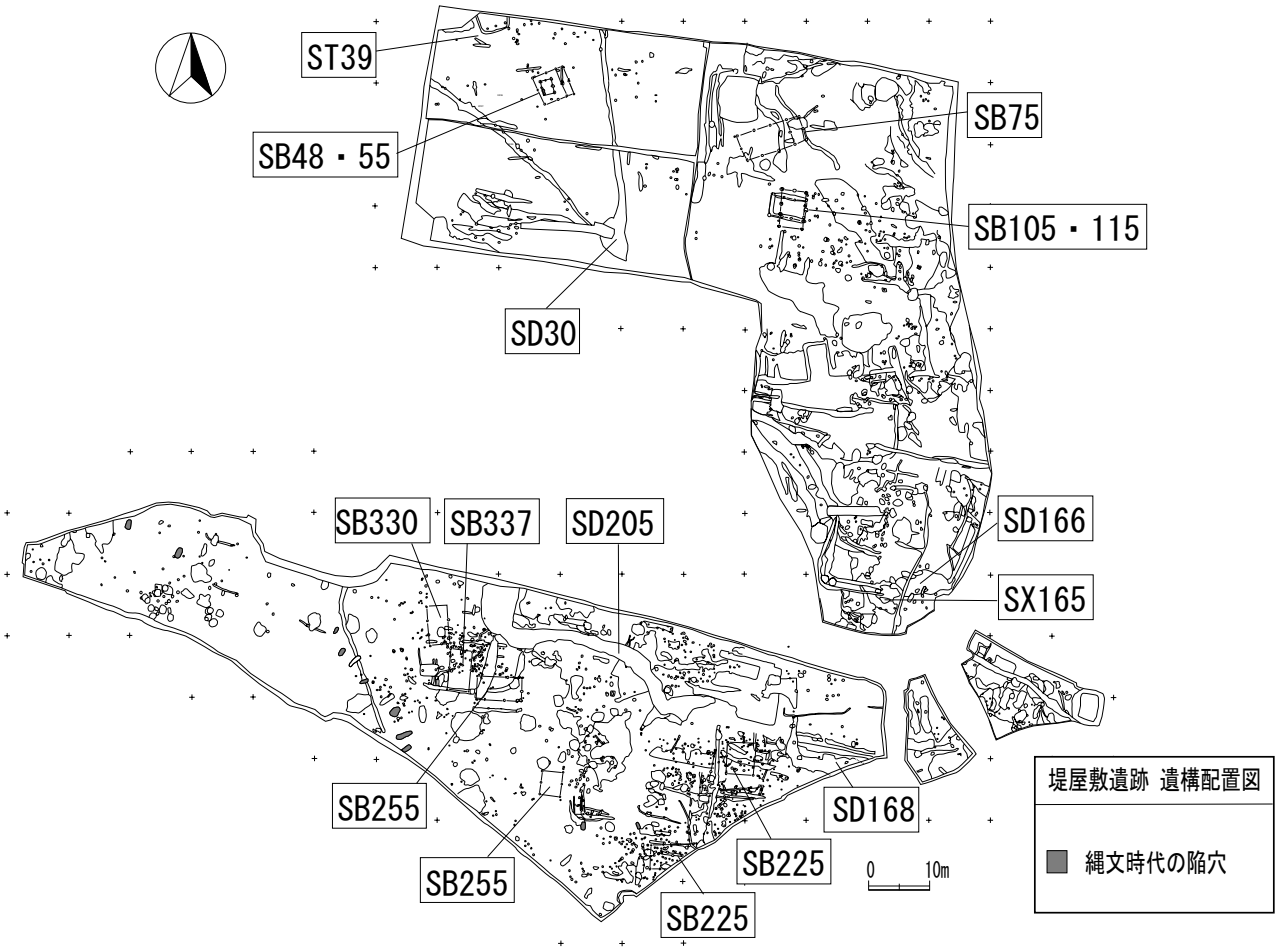
ま と め

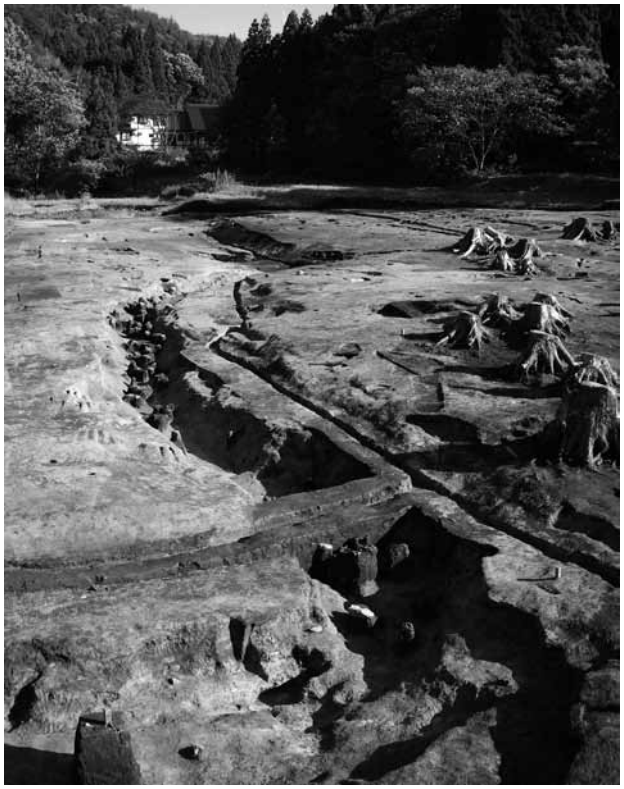
今回の調査では、置賜地域における中世集落の全体像をはじめ、近世の集落、縄文時代・平安時代の遺構の存在が明らかとなった。特に中世の集落跡は、溝で区画された内側に、いくつかの建物群で構成される。

この時期には生活用具として、内側に３ヶ所の把手が付く内耳土鍋があり、20 個体以上も出土している。当時の置賜地域を支配していた伊達氏の領地内で特徴的に出土することが指摘されている。また、遺跡の南にそびえる早坂山には、早坂山館をはじめとする伊達氏に関連する中世の山城があり、集落跡との関わりが考えられる。

江戸時代になると、１区・３区などの標高が低い北側の地点に集落が営まれる。江戸時代末の絵図面では、「桑山村（くわやまむら） 堤（つつみ）」の字名が確認される。遺物では、寛永通宝などの古銭や、九州の肥前で焼かれた伊万里焼、福島県の岸窯や相馬焼などの陶磁器が多く出土している。

調査区 全景



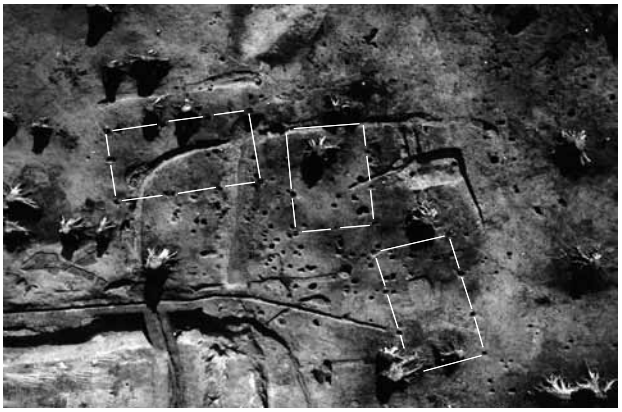


4 区 SD205 中世溝跡 完掘状況

4 区 SD205 中世溝跡 遺物出土状況

漆器皿（底面に「米」の刻書）

3 区 SX165 焼土遺構



4 区 中世の掘立柱建物群

内耳土鍋

近世陶磁器

下屋敷遺跡（しもやしき）

遺 跡 番 号　平成 17 年度登録
調 査 次 数　1 次
所　在　地　米沢市万世町桑山字下屋敷
北緯・東経　北緯 37 度 53 分 45 秒　東経 140 度 9 分 10 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調 査 原 因　東北中央自動車道（福島～米沢）新設事業
調 査 面 積　3,000 ㎡
現 地 調 査　平成 19 年 9 月 25 日～平成 19 年 11 月 30 日
調査担当者　菅原哲文（調査主任）・武田伸一・山木巧
調 査 協 力　東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・置賜教育事務所・米沢市教育委員会
　　・万世コミュニティーセンター
遺 跡 種 別　集落跡
時　　代　縄文時代・平安時代・中世・近世
遺　　構　河川跡・溝跡・井戸跡・土坑・ピット
遺　　物　縄文土器・石器・須恵器・土師器・中世陶磁器・近世陶磁器・木製品・古銭
　　（文化財認定箱数：12 箱）

調査の概要

下屋敷遺跡は、米沢市万世町字下屋敷に所在し、平成 17 年度に県教育委員会により縄文時代・中世の遺跡として登録され、東北中央自動車道 (福島～米沢) 新設事業にともなって、発掘調査を実施することになった。調査面積は 3,000 ㎡で、工事との調整により発掘調査区を 1 ～ 3 区に分け、順次調査を進めた。同遺跡は、国道 13 号線沿いに位置し、天王川 (梓川) の扇状地に立地している。また、南側に早坂山（標高 502.6m）がひかえ、周辺は主に田地・畑地として利用されている。

遺　　構

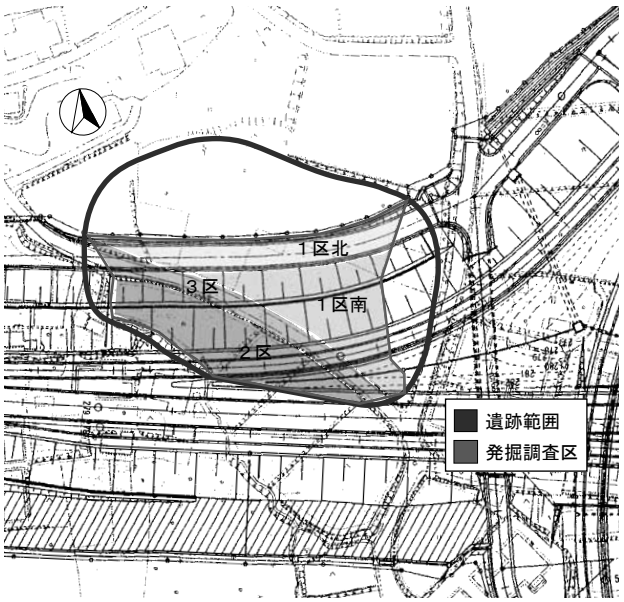
下屋敷遺跡では、主に中世の遺構が確認された。1 区では、中世の井戸跡が 3 基、溝跡、建物跡の柱穴、土坑が確認された。井戸跡（SE 3・SE 6・SE 7）は、平面形が方形で、一辺が 1.0 ～ 1.5 m の大きさを測る。どの井戸跡も、壁面に板材を縦に並べて横木で押さえ、四隅に杭を打って留めていた。SE 6 は、使われなくなってから、大きな石を入れて埋め戻しをしていた。

2・3 区では、SG11・12 河川跡が検出された。幅は約 6 m と規模は大きくない。SG11 河川跡の堆積層からは、平安時代と中世の遺物が出土している。この河川は、平安時代以前から流れており、中世になると河川の堆積が進んで流れは浅くなっていたと考えられる。

遺　　物

1 区では、SE 6 から鎌倉時代の中国産青磁碗と曲物の柄杓が、SE 7 からは室町時代の中国産青磁碗、漆器、在地で製作されたと考えられる中世の瓷器系陶器の甕が出土した。また、縄文中期末の土器も出土している。

2 区では、SG11 から縄文時代の敲石（たたきいし）・磨石（すりいし）が出土している。同河川跡から平安時代の遺物として、比較的資料の少ない 10 世紀後半から 11 世紀代と考えられる土師器を中心に、



調査概要図（S=1:4,000）

９～10世紀代の須恵器高台付坏・須恵器甕・内黒土師器、平安時代末と考えられる柱状高台を持つ土師器が出土している。中世の遺物では陶器の甕が出土している。その他、鞴の羽口（ふいごはぐち）なども出土した。木製品では、曲物の底板が認められた。自然遺物では、クルミやトチの実が多く出土している。

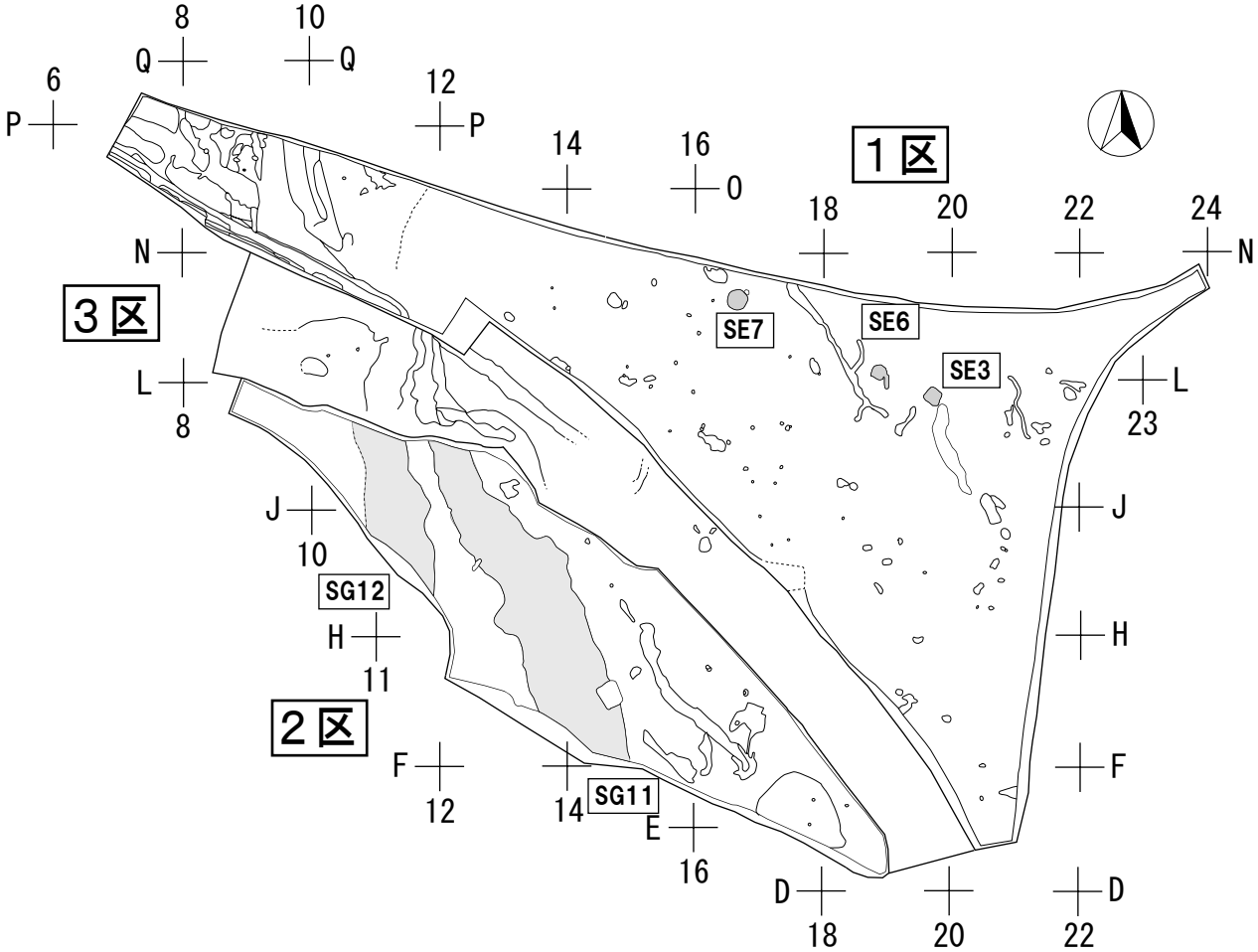
まとめ

下屋敷遺跡は、中世を中心とする集落跡である。遺物の時期から、鎌倉時代から室町時代にかけてと考えられる。

井戸跡、溝跡を中心とした遺構が確認され、３基の井戸跡は枠材が残り、当時の使用されていた状態が良好に残されていた。建物跡は、調査区で検出されなかったが、北側に建てられていた可能性がある。

陶磁器や木製品を中心とした遺物が出土したが、出土量は少なく、短期間に営まれた規模の小さな集落であることが推測される。

このほか、遺構は検出されなかったが、９～11世紀の須恵器・土師器が河川跡から出土しており、調査区の南側で平安時代の集落が営まれていた可能性がある。また、同様に遺構は検出されなかったが、縄文時代の遺物も出土している。



遺構配置図（S=1:600）

調査区近景

1 区 SE3・6・7　完掘状況

1 区 SE7　完掘状況

1 区 SE7　青磁碗・中世陶器出土状況

1 区 SE7　瓷器系陶器甕出土状況

1 区 SE6　完掘状況

1 区 SE6　曲物柄杓

2 区 SG11　掘り下げ状況

2 区 SG11　土師器甕

2 区 SG11　須恵器高台付坏

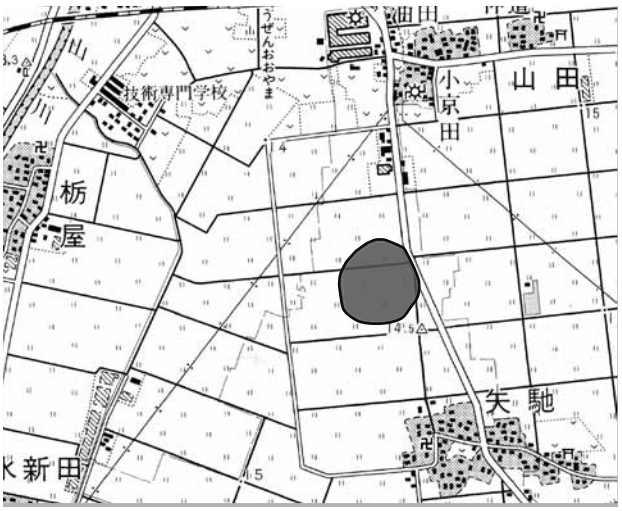
2 区 SG11　土層断面

2 区 SG11　鞴の羽口

2 区 SG11　須恵器甕

矢<ruby>駝<rt>や</rt></ruby>A<ruby>遺跡<rt>ばせ</rt></ruby>

遺跡番号　1618
調査次数　第４次
所　在　地　山形県鶴岡市大字矢馳字下矢馳
北緯・東経　38 度 44 分 08 秒・139 度 46 分 19 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因　日本海沿岸東北自動車道 (温海～鶴岡) 建設
調査面積　3,300 ㎡
現地調査　平成 19 年 5 月 9 日～ 9 月 14 日
調査担当者　黒坂雅人（調査主任）・山内七恵・吉田　満
調査協力　東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会
遺跡種別　集落跡
時　　代　古墳時代・奈良・平安時代・中世
遺　　構　竪穴住居跡・溝跡・土坑・井戸跡・ピット
遺　　物　土師器・赤焼土器・須恵器・木製品・古銭
（文化財認定箱数：45 箱）



調査の概要

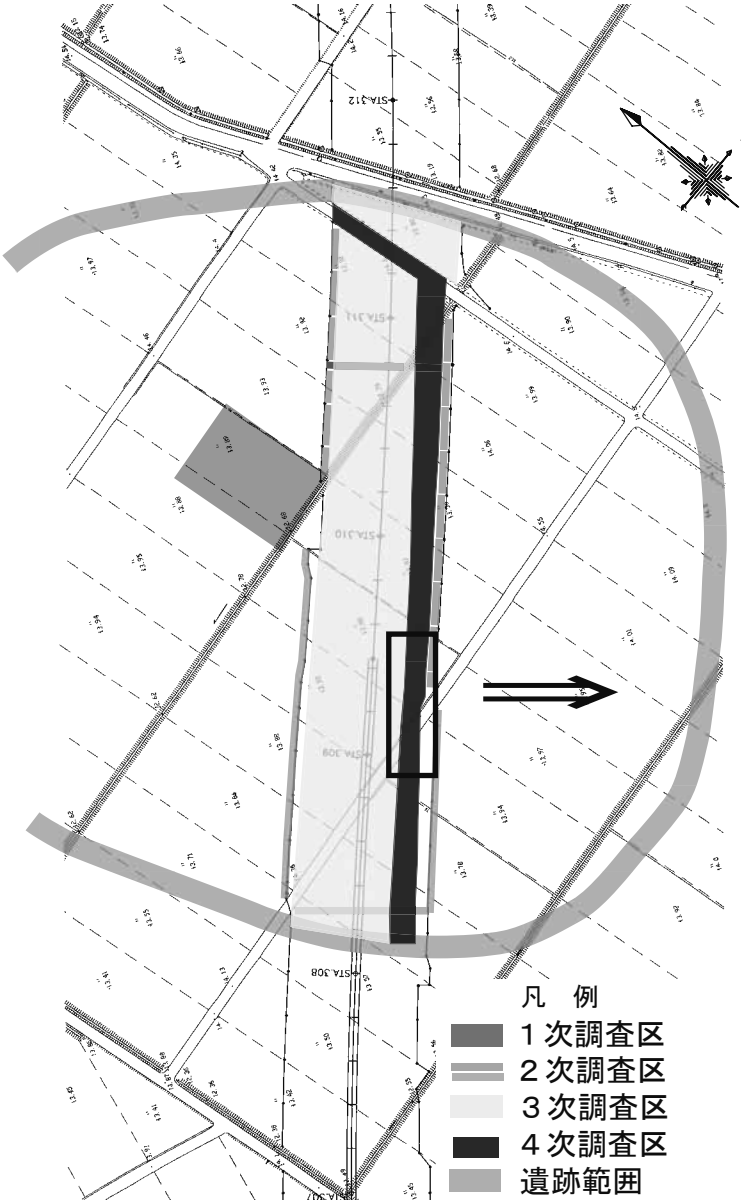
矢馳 A 遺跡は、庄内平野の南東部、鶴岡市街地の西方に開けた水田地帯、大山川と湯尻川にはさまれた沖積地に位置しています。

昭和 31 年 (1956)、水田への暗渠管埋設などの農業基盤整備に伴う工事により発見され、昭和 62 年 (1987) 県営ほ場整備事業 (鶴岡西部地区) の実施に先立ち、山形県教育委員会が行った第 1 次発掘調査により古墳時代後期の大規模な集落跡の存在が明らかとなりました。第２次から第４次発掘調査は、日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、第２次調査は、路線の周りに新しく設置される農業用排水路と用水管埋設部分、第３次調査は、道路本線部分を対象とし、古墳時代の集落の他に奈良・平安時代の集落や河川、中世の館など多様な内容を持っていることがわかりました。

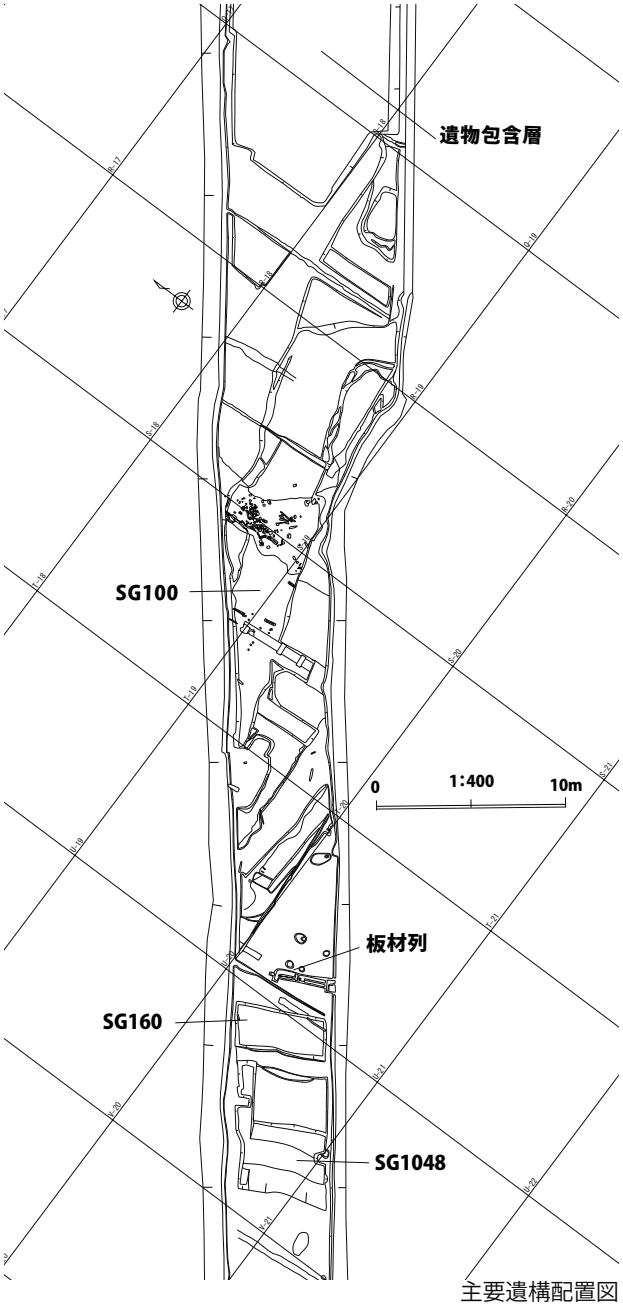
第４次となる今回の調査では、工事用道路として使用されている 3,300 ㎡について調査しました。

遺構と遺物

今回の調査では、河川跡・溝跡・竪穴住居跡・井戸跡・ピット・板材列などが見つかりました。これらは前年度同様、調査区東側では奈良･平安時代、中央部では中世、西側では古墳時代の遺構、遺物がそれぞれ主体となります。　古墳時代の遺構は河川跡、溝跡が検出されました。河川跡 (ＳＧ 100) は遺跡の南側に位置し、村を区切るような形で検出されました。その堆積土の中から、坏<ruby>・高坏<rt>つきたかつき</rt></ruby>・甕<ruby>・壺<rt>かめつぼ</rt></ruby>などの土師器<ruby>はじき</ruby>がまとまって出土しました。また、ＳＧ 100 の東側で、遺構確認面の約 60cm 下の炭化物を多く含む粘土層付近から、土師器の高坏・甕・壺・甑<ruby>こしき</ruby>や、須恵器<ruby>すえき</ruby>のハソウが出土しました。昨年見つかった遺物包含層の続きとみられます。これらは遺構検出面から出土した土師器より古い時期のものであることがわ



調査概要図



主要遺構配置図

かっています。

奈良時代の遺構では、昨年度調査した竪穴住居跡、河川跡の続きが見つかりました。竪穴住居跡からは、土師器と須恵器の破片が出土しました。河川跡からは完形の須恵器の坏が数点出土しています。平安時代の河川跡からは、「中」という文字が墨で書かれた墨書土器（ぼくしょどき）などが出土しました。

中世の遺構では、昨年度調査した館跡の外側の区画溝の続きが検出されました。一部、区画溝が途切れている箇所があり、出入り口の可能性が考えられます。また、区画溝の南、館跡の外側にあたる所から井戸跡が見つかりました。この井戸跡には、板を縦に差し込み、四角に囲んだ井戸枠が残っていました。井戸の掘り方からは中世陶器の破片が出土しています。また。近世から近代にかけての堰跡からは、古銭などが出土しています。

その他、時代はまだ特定されていませんが、調査区西側で板材を一列に並べて打ち込んだ板材列が見つかっています。

ま　と　め

今回の調査では、昨年度までに検出された河川跡、館の区画溝、遺物包含層などの南側への広がりを確認することができました。新たに古墳時代後期の河川跡(SG100)、中世の井戸跡、板材列などを検出しました。SG100 が古墳時代の集落の南側を区切るように流れることから、集落範囲を窺うことができます。

調査区全景

古墳時代の河川跡 (SG1048)

古墳時代の河川跡 (SG100)

平安時代の河川跡

館の区画溝

中世の井戸

板材列

平安時代の河川跡出土須恵器蓋

平安時代の河川跡出土須恵器坏

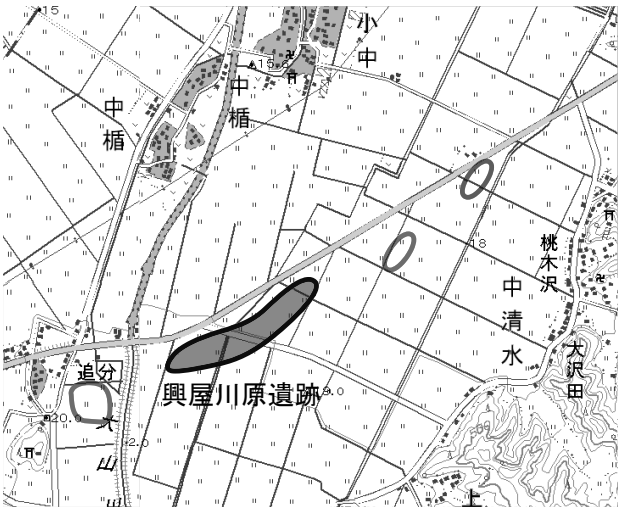
土師器高坏 (遺物包含層)

須恵器ハソウ (遺物包含層)

遺物包含層の遺物出土状況

興屋川原遺跡（こうやがわら）

遺 跡 番 号　平成 16 年度登録
調 査 次 数　第４次
所　在　地　鶴岡市大字田川字興屋川原他
北緯・東経　38 度 42 分 40 秒・139 度 45 分 04 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調 査 原 因　日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設
調 査 面 積　1,200 ㎡
現 地 調 査　平成 19 年 7 月 2 日～ 8 月 31 日
調査担当者　齋藤健（調査主任）・福岡和彦
調 査 協 力　東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会
遺 跡 種 別　集落跡
時　　代　古墳時代・奈良時代・平安時代
遺　　構　掘立柱建物跡・竪穴住居跡・溝跡・土坑・ピット
遺　　物　土師器・赤焼土器・須恵器・木製品・柱根
（文化財認定箱数：23 箱）



調査の概要

興屋川原遺跡は、日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、山形県教育委員会が試掘調査を行った結果、平成 16 年度に登録された遺跡である。

計画路線内全体の遺跡面積は 15,000 ㎡に及び、東日本高速道路株式会社東北支社から委託を受け、平成 17 年度に第２次発掘調査として 6,750 ㎡を、平成 18 年度には、8,800 ㎡について第３次調査を実施した。

今年度、財団法人山形県埋蔵文化財センターは、国土交通省から委託を受け、新たに工事用道路として使用されていた 1,200 ㎡について発掘調査を実施した。

興屋川原遺跡は、庄内平野の南西端部に位置し、鶴岡市街地から南西へ約 10km の鶴岡市田川地区と大泉地区にかけて所在する。遺跡は大山川右岸の沖積地上に立地し、周辺の地目は水田や畑地で、標高 17 ｍを測る。かつてこの辺りは湿地や微高地のある複雑な地形であった。

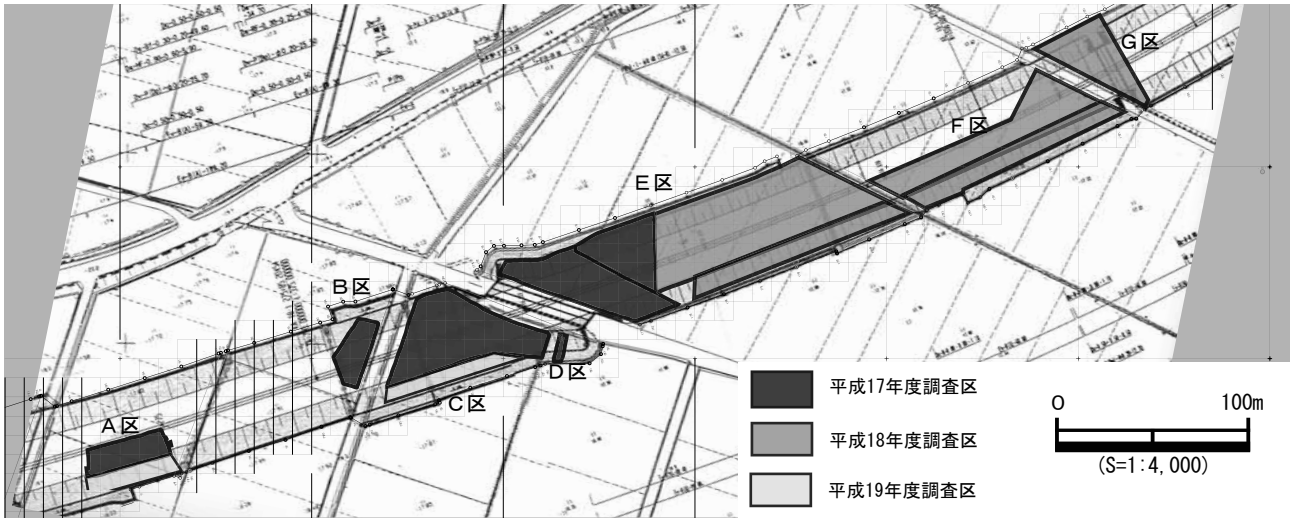
遺構と遺物

今年度Ａ区では、17 年度の調査で検出された平安時代の溝跡の続きのほか、掘立柱建物跡が 1 棟検出された。しかし、建物が調査区の外側にはみ出すため、正確な規模は不詳である。また、建物の柱穴には、樹皮がついたまま残っているものが多かった。

Ｃ区では、古墳時代の竪穴住居跡が 1 棟と溝跡、それから平安時代の溝跡、柱穴も検出された。また、竪穴住居跡からは、当時の土器である土師器や須恵器の蓋などがまとまって出土したほか、赤い顔料の付着した丸い磨り石も２つ出土した。

まとめ

今年度は、Ａ区とＣ区の工事用道路部分の調査を行った。Ａ区からは平安時代の掘立柱建物跡と溝跡が検出さ

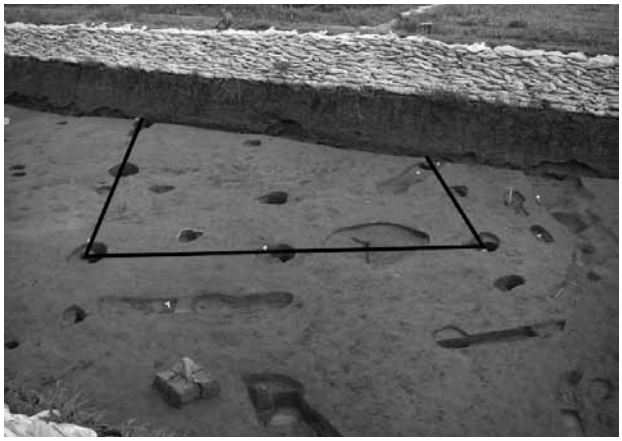


調査概要図

れた。C区からは古墳時代の竪穴住居跡と平安時代の溝跡、柱穴が検出された。

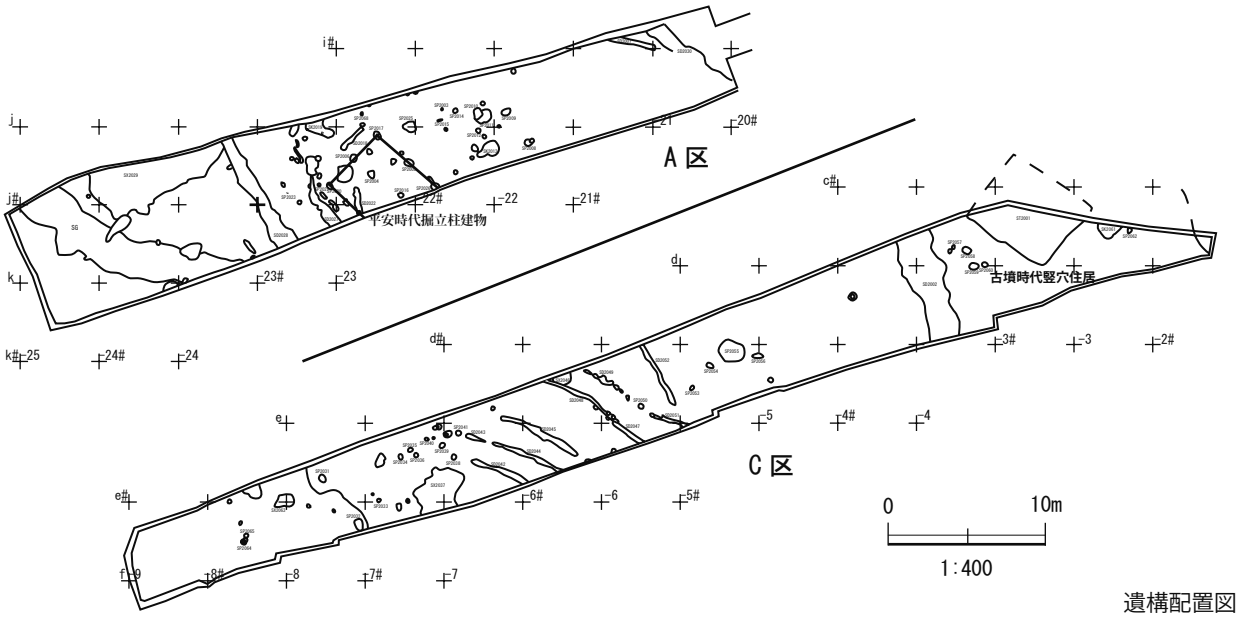
これまでの３ヵ年にわたる調査から、興屋川原遺跡では、大きく分けると古墳時代と奈良・平安時代の人々の暮らしの跡が見つかった。

今後は、これら３年間の調査で得られた成果を慎重に検討しながら整理作業を進め、報告書にまとめていきたい。



A区平安時代掘立柱建物跡完掘状況（北東から）

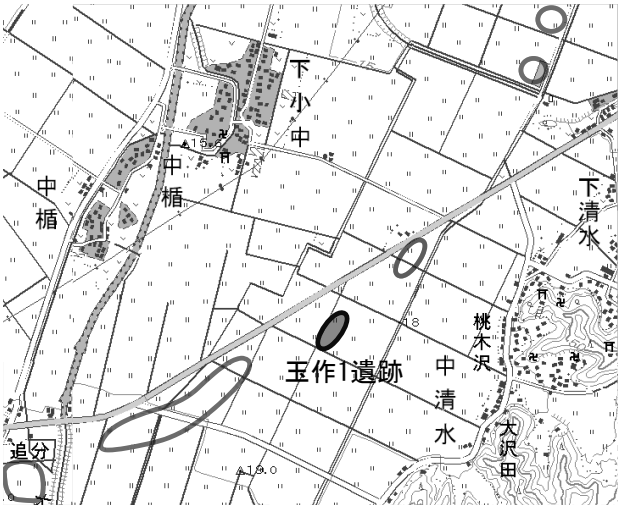
C区古墳時代竪穴住居跡（北から）

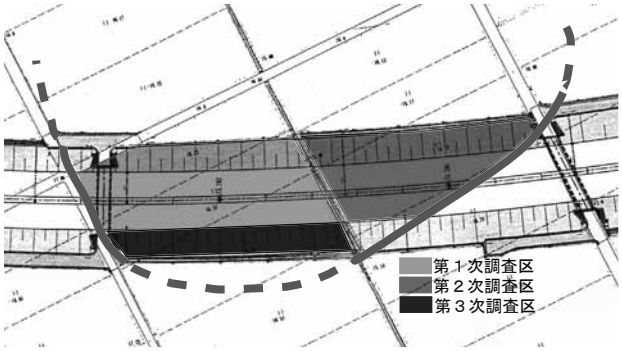


遺構配置図

玉作（たまつくり）1遺跡

遺 跡 番 号　平成 16 年度登録
調 査 次 数　第 3 次
所　在　地　鶴岡市大字中清水字玉作
北緯・東経　38 度 42 分 49 秒・139 度 45 分 17 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調 査 原 因　日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設
調 査 面 積　1,000 ㎡
現 地 調 査　平成 19 年 5 月 9 日～ 7 月 11 日
調査担当者　佐藤正俊（調査主任）・深澤篤
調 査 協 力　東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所・庄内教育事務所・鶴岡市教育委員会
遺 跡 種 別　集落跡
時　　代　古墳時代・平安時代
遺　　構　井戸跡・溝跡・柱穴跡・河川跡
遺　　物　土師器・須恵器・石製品・管玉未成品・陶磁器・木製品・古銭
（文化財認定箱数：8 箱）





調査概要図

調査の概要

玉作 1 遺跡は、山形県教育委員会の試掘調査の結果、平成 16 年度に新規に登録された遺跡である。遺跡の一部が日本海沿岸東北自動車道の路線内にかかるため、日本道路公団東北支社（現・東日本高速道路株式会社東北支社）と県教育委員会との協議の結果、財団法人山形県埋蔵文化財センターが緊急発掘調査を実施することになった。

計画路線内全体の遺跡面積はおよそ 7,400 ㎡で、このうち暫定二車線工事区域に入り、平成 17 年度に着工予定となっているプレロード施工部分を含む 3,680 ㎡を対象として平成 17 年度に第 1 次調査を行った。暫定二車線工事区域の残り 2.786 ㎡を対象に平成 18 年度に第二次調査を調査を行った。本年度は , 高速道路側道部分 1,000 ㎡を平成 19 年度に第三次調査として行った。

現地調査は 5 月 9 日に開始し、①器材搬入②調査区の設定③重機による表土除去④面削りと遺構検出⑤遺構精査と記録といった順序で行い、7 月 11 日に現地調査が終了した。

遺跡は JR 羽越本線羽前大山駅の南南東約 3.3km に位置し、河間低地に立地する。地目は水田で一部は転作田となり畑地として利用されている

遺構と遺物

今回の調査では、井戸跡・溝跡・柱穴・河川跡などが検出された。調査区は、広範囲に亘って粘土層と砂層が交互に堆積しており、調査区の東端や西端で厚くなり河川跡が検出された。中央の高まった地点に井戸跡や溝跡、柱穴が検出された。

井戸跡は、約 1,5m で深さ推定２ｍの円形の形を示している。東に隣接する溝跡は幅 70 ～ 90 ㎝、深さ 15 ～ 25 ㎝を計り、不用になった土師器が投げ捨てられた状態で出土した。

柱穴は、径２０㎝前後、深さ 10 ～ 20 ㎝で、十数基検出されたが、建物を構成するまでには至らなかった。

河川跡は第 1 次調査区から延びて大きく蛇行し北に流れている。さらに調査区中央から東にかけて中小河川が検出された。遺物は出土していない。

遺物は、古墳時代の土師器、中世・近世の陶磁器、貨幣、木製品、管玉（くだたま）の未成品（みせいひん）などが出土した。

まとめ

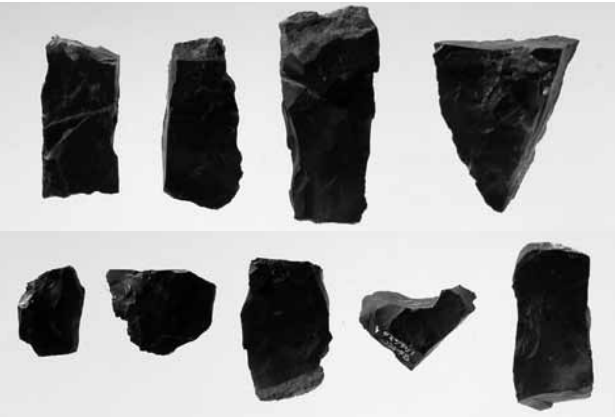
今回の調査区で検出された井戸跡や溝跡は、 出土した遺物から古墳時代前期に属する時代で、第 1 次調査区から続く今から 1,800 年前の集落の一部と見られる。

製作途中で出た碧玉製などの管玉未成品が出土したことから、地名からも分かるように、玉造りが行われていた可能性がある。庄内地方で見つかることは珍しく、石材の原産地を特定することにより、土器以外の観点から他の地域との交流を探るのに重要なものになる。これまでの調査では、玉を製作した場所である工房跡やその痕跡を見つけることはできなかった。

調査区全景（西から）

溝跡遺物出土状況（南から）

溝跡出土遺物（小形鉢）

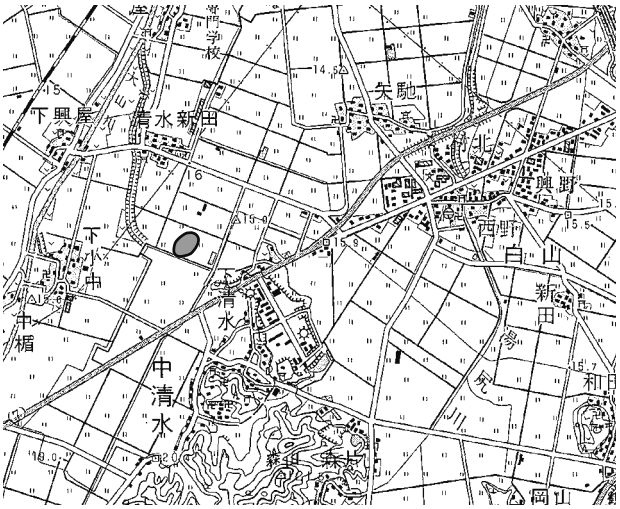


管玉未成品

出土遺物

岩崎遺跡（いわさき）

遺 跡 番 号　平成 17 年度登録
調 査 次 数　第２次
所　在　地　山形県鶴岡市大字下清水字岩崎
北緯・東経　38 度 43 分 21 秒・139 度 45 分 43 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調 査 原 因　日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設
調 査 面 積　1,000 ㎡
現 地 調 査　平成 19 年９月３日～ 11 月７日
調査担当者　水戸部秀樹（調査主任）・山澤護
調 査 協 力　東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所・庄内教育事務所・鶴岡市教育員会
遺 跡 種 別　集落跡・官衙関連施設
時　　代　古墳時代・奈良時代・平安時代
遺　　構　掘立柱建物・竪穴住居・井戸・土坑・柱穴・ピット
遺　　物　須恵器・土師器・陶磁器・木製品・柱材
（文化財認定箱数：45 箱）



調査の概要

昨年度の調査区に東接する個所の調査を行った。今回の第２次調査で、日本海沿岸東北自動車建設に因る岩崎遺跡の発掘調査は終了となる。

新たな調査成果として、奈良時代の掘立柱建物が初めて確認されたこと、水田の可能性が高い畦畔状の遺構が見つかったことがあげられる。

遺構と遺物

古墳時代に属するものでは、土坑、ピット、土師器などが検出された。また、水田ＳＪ 966 は、確定には至っていないが、水田の可能性が高い遺構と考えられる。プラントオパールによる分析においても良好な結果が得られている。奈良、平安時代の遺構は、掘立柱建物と掘立柱列、井戸などが主であり、集落よりは官衙に関連する色合いが濃い。古墳時代の遺構では、昨年度の調査で竪穴住居が検出されており、遺跡の性格も集落跡としている。官衙に関連する施設付近より、集落のそばに水田が存在したと考えた方が理解しやすいであろう。状況から推察すれば水田ＳＪ 966 は古墳時代に属するものの可能性がより高いと考えられる。

掘立柱建物ＳＢ 962 を構成する柱穴から、８世紀後半に属する須恵器の坏が出土しており、該期の遺構と考えられる。１次調査では８世紀後半に属する円面硯などが出土したものの、遺構は確認されなかった。建物は調査区外へと延びているため、規模は特定し得ない。

掘立柱建物ＳＢ 963 の規模は２間×３間である。東側柱列の柱穴は１次調査で検出されている。時期の判別できる遺物は出土していないが、ＳＢ 962 と同様の柱穴の規模、建物の方角などから、８世紀後半に属する遺構と推察される。

平安時代に属する遺構では掘立柱建物ＳＢ 964・965

などが、検出された。該期の柱穴・遺物は１次調査でも多数確認されている。

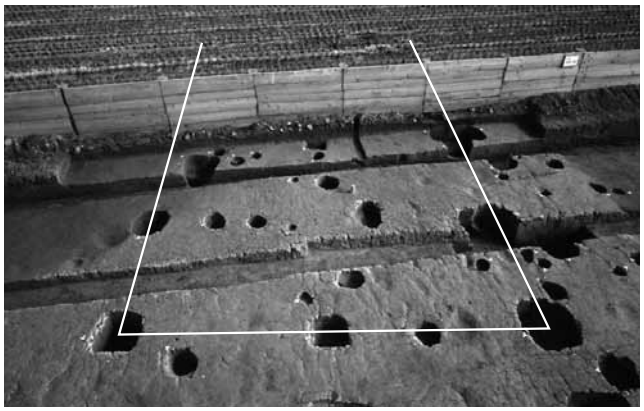
掘立柱列ＳＡ 961 の延長上に、同方向の掘立柱列が１次調査で確認されており、これらは一連の遺構と考えられる。掘立柱塀であったと推測されるが、この塀を境に北側では遺構が密集し、南側ではほとんど遺構が検出されない。区画施設としての役割を有していたと判断できよう。また、平安時代に属する遺物では風字硯の出土が特記される。

ほかに横板を枠に使用した井戸ＳＥ 805、縦板を使用したＳＥ 850、井戸枠の抜き取り痕が確認された井戸ＳＥ 805 などが、検出された。

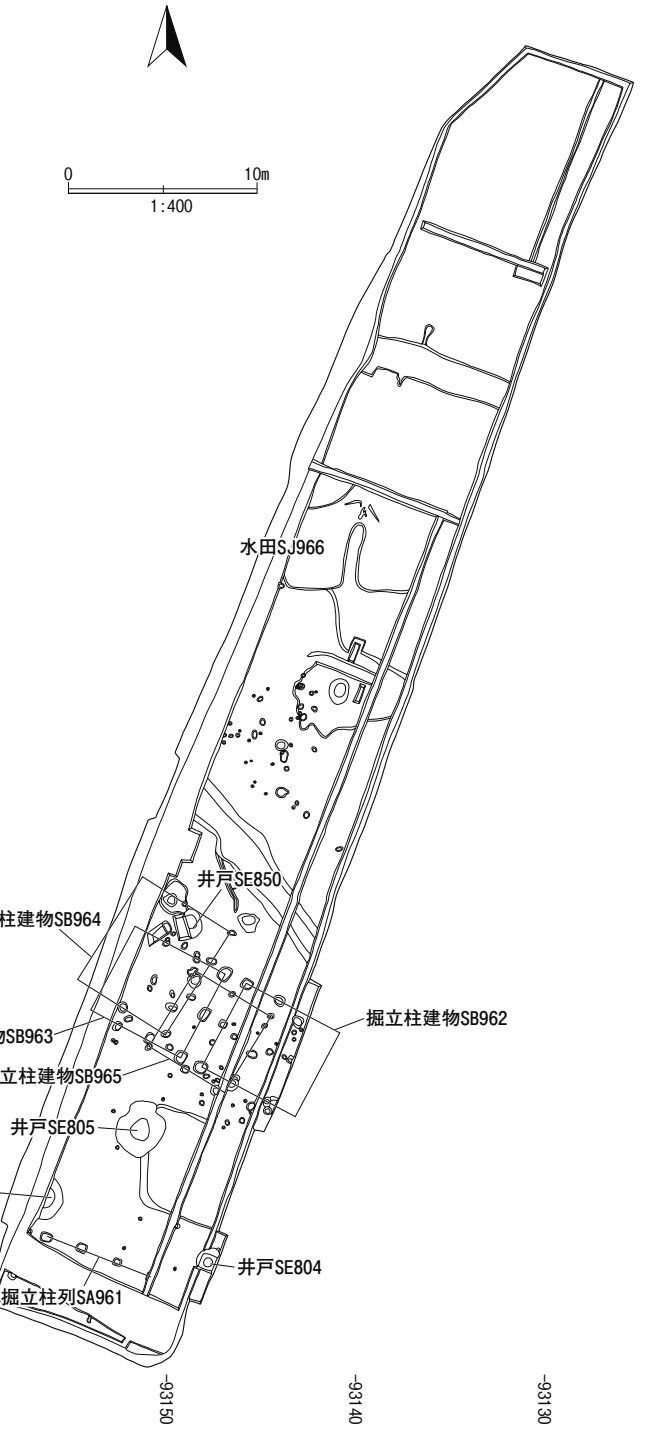
まとめ

８世紀後半から 10 世紀にかけて、掘立柱建物、掘立柱列、円面硯、風字硯、斉串、人形などが確認された。これらから、通常の集落とは異なる様相が察せられる。具体的な性格までは判断できないが、当遺跡では奈良時代から平安時代にかけて、官衙関連の施設が営まれていたものと考えられる。

水田ＳＪ 966（南西から）



掘立柱建物ＳＢ 962（北西から）



遺構配置図

井戸ＳＥ 804（西から）

川内袋遺跡（かわうちぶくろ）

遺 跡 番 号　1968（山形県遺跡地図）
調 査 次 数　第 1 次
所　在　地　山形県鶴岡市大字五十川字川内袋
北緯・東経　38 度 40 分 04 秒・139 度 37 分 31 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調 査 原 因　日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設
調 査 面 積　6,500 ㎡
現 地 調 査　平成 19 年 5 月 8 日～ 12 月 18 日
調査担当者　齋藤主税（調査主任）・阪英子・渡辺和行
調 査 協 力　東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所・庄内教育事務所・鶴岡市教育委員会
遺 跡 種 別　集落跡・狩猟場
時　　代　縄文時代
遺　　構　竪穴住居・陥穴・貯蔵穴・炉跡・土坑・ピット
遺　　物　縄文土器・石器・須恵器
（文化財認定箱数：466 箱）

遺跡地図

調査の概要

川内袋遺跡は、日本海沿いにある JR 羽越本線五十川駅の東方 400 mに位置する。出羽山地から日本海に注ぐ五十川右岸の舌状に張り出す丘陵部及びその裾部分に立地している。

昭和 58 年に裾部分が開田され、遺跡のかなりの部分が破壊されたと考えられる。この時に縄文土器や石器が多量に出土して地元中学生により採取され注目された。この出土遺物は現在五十川（いらがわ）小学校に保管されている。

また、これより先の昭和 50 年代前半には高台の丘陵部分に重機が入り整地されたと聞いている。

今回の調査は、日本海沿岸東北自動車道路建設に伴う緊急発掘調査として行われた。山形県教育委員会による平成 10 年度の表面踏査、平成 17・18 年度の試掘調査で柱穴などの遺構や縄文土器・石器が確認された遺跡である。

今年度の調査は道路建設にかかる 6500 ㎡について実施した。調査の便宜上、調査区をＡ～Ｃ区の３地区に分けて行った。

Ａ区は丘陵裾部分に位置し地目は水田である。標高約 17m を測る。遺物包含層の厚さは 60cm 程もあり、縄文土器や石器が大量に出土している。Ｂ・Ｃ区は尾根状を呈する丘陵部に位置し地目は雑木林で標高 36m を測り、大型住居跡・フラスコ状土坑・陥穴（おとしあな）等が検出された。

遺構と遺物

Ａ区では縄文時代前期の竪穴住居（たてあなじゅうきょ）跡 4 軒と土坑・柱穴ピットが検出された。このほか縄文時代後期と見られる土坑 1 基が検出されている。1 軒の竪穴住居跡では床（土間）が 3 回ほど作り変えられているものがあり、炉跡には縄文土器が埋設されていた。この他の竪穴住居（たてあなじゅうきょ）跡では地面で直接火を焚いた「地床炉（ちしょうろ）」が検出されている。

また、尾根上のＢ・Ｃ区から崩れてきたと見られる多量の土器と土砂、大小の礫群が多数確認されている。

Ｂ・Ｃ区では大型住居跡１軒・竪穴住居跡２軒・フラスコ状貯蔵穴約 20 基・陥穴 13 基・柱穴・ピット（小穴）などが多数検出された。竪穴住居跡の上に大量の土砂や土器、石器が捨てられて埋没した後に陥穴が掘り込まれている例も確認された。

出土した遺物のほとんどは縄文時代前期後葉～末葉の土器、石器である。この他には少量の縄文前期前半、後期の土器片、さらに僅少ではあるが須恵器片が出土している。縄文時代前期の土器は大木４～６式の土器が主体である。

石器は尖頭器、石匙、石篦、石鏃、磨製石斧、石錘、石皿、磨石、玦状耳飾、石製品などが出土している。

まとめ

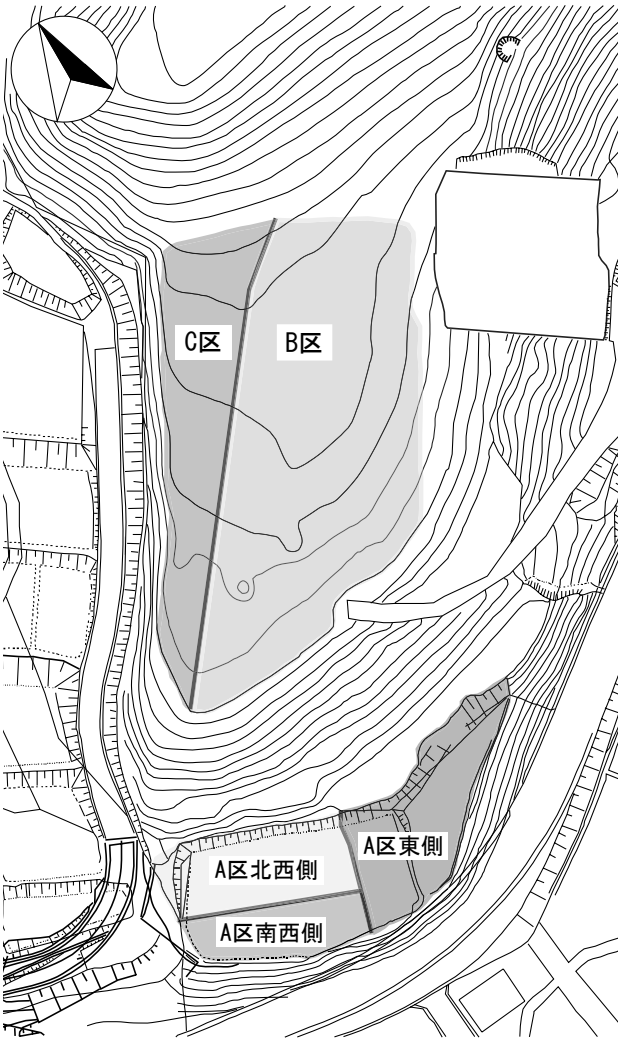
川内袋遺跡は縄文時代前期後葉～末葉を中心とする集落跡、包含層の遺跡である。標高 17m 程の丘陵裾部のＡ区からは竪穴住居跡と遺物包含層が検出され、標高 36m 程の尾根上のＢ・Ｃ調査区からは大型住居跡・竪穴住居跡・フラスコ状土坑跡・陥穴・小穴などが検出されている。

出土遺物は最終的に 466 箱を数えた。その７割ほどがＡ区の遺物包含層から出土している。

川内袋遺跡の今回の調査の特徴は、大量に出土した縄文土器・石器の遺物量に比べ、検出された縄文時代の住居跡などの遺構が少ないことがあげられる。その理由はいくつか推定される。

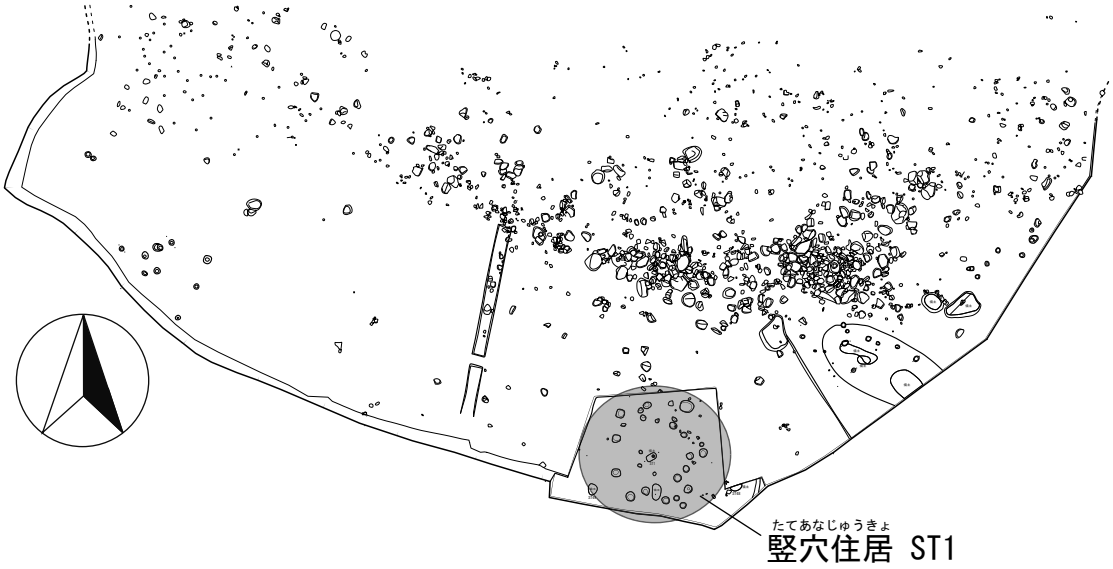
一つには今回の調査区の西側が 25 年ほど前に開墾破壊され、遺構も消滅してしまった。二つ目には、この遺跡の所在地がかなり以前（縄文時代？）から地滑り地帯であり、遺構が埋没してしまっている。三つ目には、今回調査した地区の外に川内袋遺跡の中心部がある。

以上のことが可能性として考えられる。



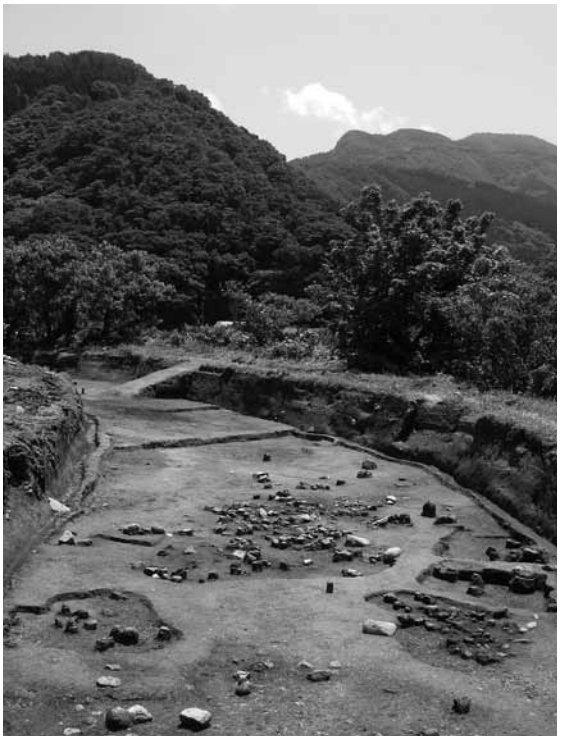
調査区概要図　S=1/1000

調査区全景



A 区遺構配置図　S=1/400

A 区全景 (北側より)

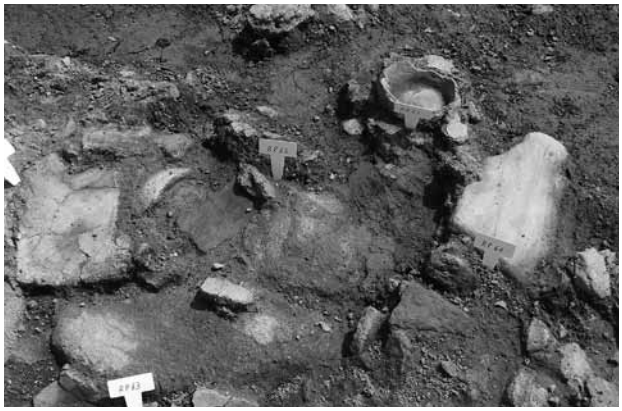


A 区遺物出土状況

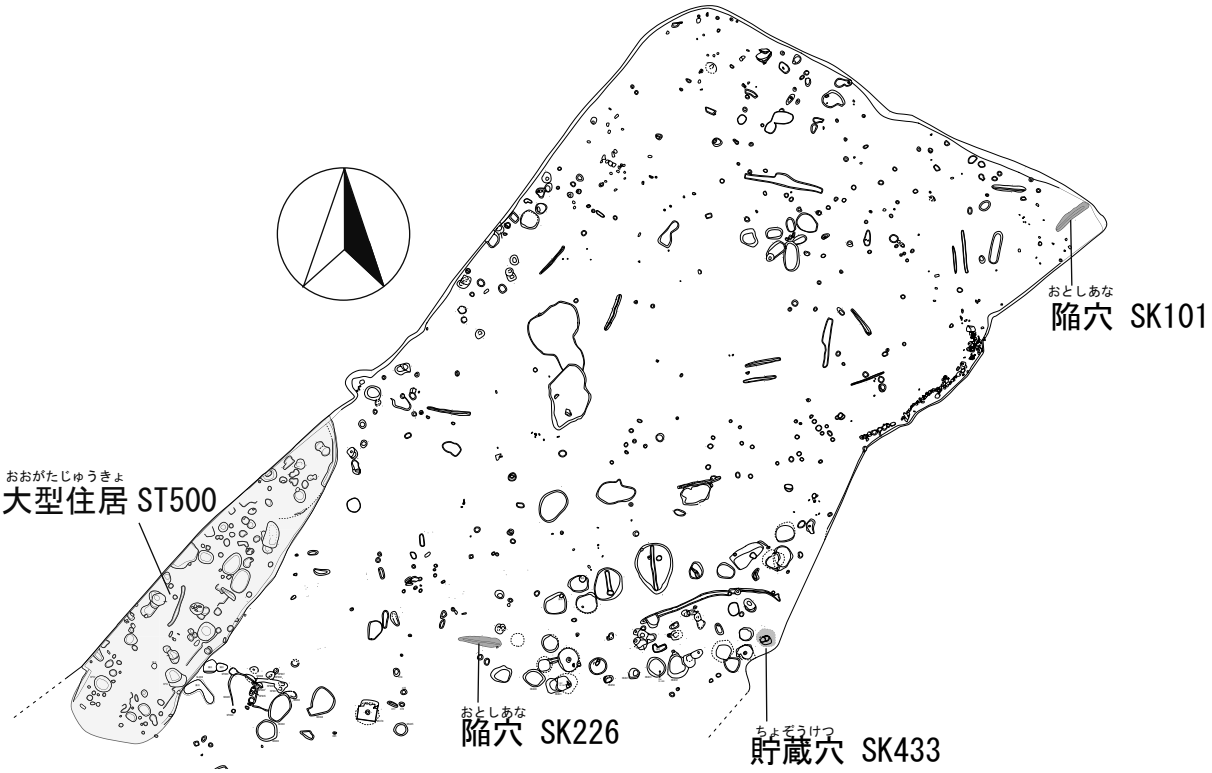
竪穴住居 ST1

石匙

縄文土器



A 区遺物出土状況

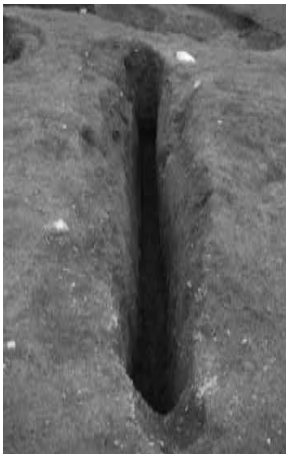


B・C 区遺構配置図　S=1/600

B・C 区全景

大型住居 ST500 全景

陥穴 SK101



陥穴 SK226

貯蔵穴 SK433 断面

行司免遺跡

遺跡番号　平成16年度登録
調査次数　第4次
所　在　地　鶴岡市水沢字行司免
北緯・東経　38度42分42秒・139度44分32秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因　日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設
調査面積　2,400㎡
現地調査　平成19年6月4日～11月7日
調査担当者　三浦勝美（調査主任）、向出博之
調査協力　東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会
遺跡種別　墓・祭祀跡
時　　代　奈良時代・平安時代
遺　　構　溝跡、ピット、土坑、河川跡、木組遺構
遺　　物　土師器、須恵器、赤焼土器、木製品
（文化財認定箱数：73箱）

調査の概要

行司免遺跡は、日本海沿岸東北自動車道の建設工事に先立ち、県教育委員会が実施した分布調査（1次調査）を経て、平成16年度に登録された。遺跡は日本海沿岸東北自動車道の用地内に所在するため、平成17年度から記録保存のための緊急発掘調査を行うことになり、今年度で4度目の調査となる。

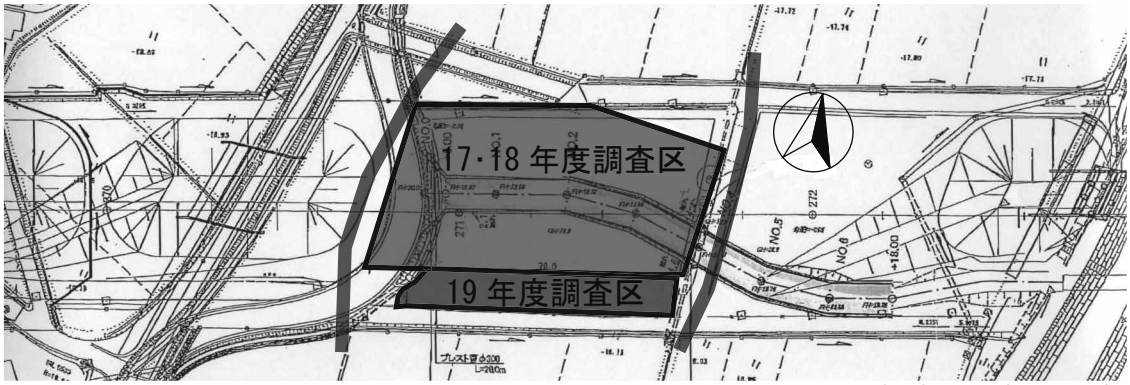
2・3次調査では、奈良・平安時代の文化層が、上から順にⅠ～Ⅲ層の3面に亘ることが分かった。遺構は溝・大溝・ピット・墓・炭化物集中域などを検出した。特筆すべきは墓に関する遺構である。木棺墓が3基、木棺墓を縮めたような木組遺構が1基、火葬に関係する遺構が1基検出されている。これらの遺構により、行司免遺跡は奈良・平安時代の墓域であることが分かった。

これらの遺構は取り上げ作業を行いセンターに持ち帰り、調査と保存処理を行っている最中である。遺構の保存処理に関しては、東北芸術工科大学に委託している。

遺　　構

今年度の調査区は、昨年度までの調査区と若干様相が異なる。昨年度までⅠ層としていた上面にも文化面があることが分かりⅠ層上面と名付けた。ただし、Ⅰ層上面とⅠ層がどのぐらい時間差があるのかは、まだ分からない。場合によっては同一の層に括られる可能性もある。

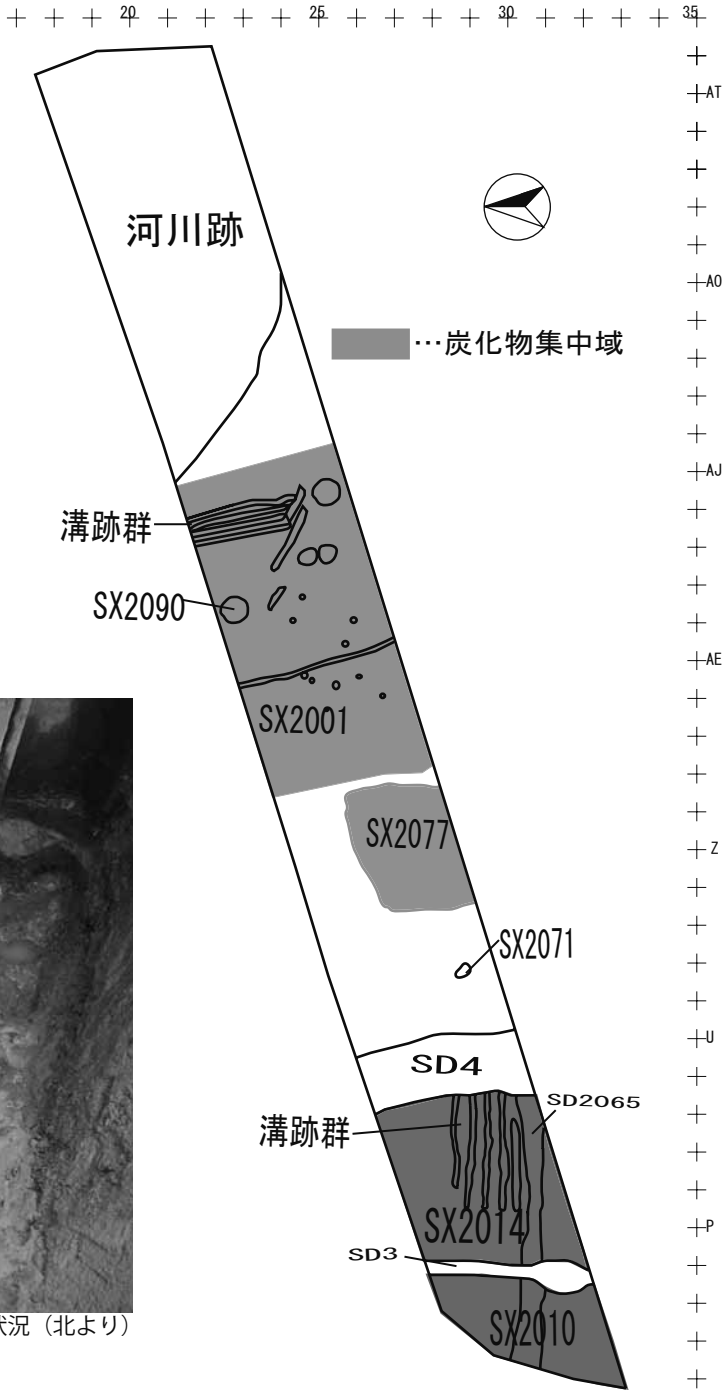
火山灰の存在や土器の様相からⅠ層上面・Ⅰ層は10世紀前半ごろ、Ⅱ層は9世紀前半～10世紀ごろ、Ⅲ層は奈良時代末～平安時代初めごろという年代が考えられる。ちなみにⅢ層の下をトレンチ調査したが、遺構は無かった。今年度の調査で検出された遺構は溝・大溝・ピット・炭化物集中域・木組遺構である。



調査区概要図（1：2000）

写真１　SD3 遺物出土状況（北より）

写真２　SD4 遺物出土状況（北より）



遺構配置図（1:400）

（1）溝跡

溝跡は２種類ある。一つは幅が狭く、4・5条で群をなす、小さな溝跡である。遺物はほとんど含まない。このような溝跡群は、昨年度までの調査でも見つかっている。

もう一つは幅が広く、深さのある大溝である（SD3、SD4、SD2065）。Ⅰ・Ⅱ層で検出された。大溝は遺物を多く含む傾向がある。昨年度までに検出された大溝の続きも検出した（写真1、写真2）。

（2）炭化物集中域

大まかに分けて２種類ある。一つは、およそ円形や楕円形を描くものである（写真３）。土器片や細長い石を伴うこともある。Ⅰ～Ⅱ層で検出された。

もう一つは、範囲を特定できないうえ、広範囲に広がるものである（写真４）。大量の土器が出土し、細長い石や焼けた礫､付け木（火をつける道具）なども見つかっている。今年度の出土遺物の半分以上は、これらの遺構のものである。SX2001、SX2010、SX2014はⅠ層上面で検出され、SX2077はⅡ層で検出された。

（3）木組遺構

SX2071とした遺構である（写真５）。長さ70cm、幅35cmほどの大きさである。中から、遺物は出ていない。木は釘を使用せずに組み立てられている。木組遺構の周囲は特に変った様子は見られない。

遺　　物

上層では赤焼土器が多く、下層に向かうほど須恵器が出ることが多くなる特徴がある。ただし今年度は、Ⅲ層の遺構が少ないため、須恵器の数自体は少ない。赤焼土器は坏と長胴甕が出土しているが、とりわけ坏が多い。中には煤けたものもあり、灯明皿と考えられるものもある。須恵器は坏と大甕がある。中には被熱したものも見られる。

今年度は墨書土器が多く出ている。中でも「矢作」と書かれた墨書土器が５点出土した（写真6）。また「矢」と書かれた墨書土器も２点出土しており、関連があると思われる。

さらに今年度は、底部や体部に「文」の字が刻まれている土器が、炭の集中域から出土している（写真7･8）。この刻書土器が出土した同じ遺構からは、仏鉢形土器も見つかっており、祭祀的な行為があったことをうかがわせる。

他には、SD4から風字硯が出土した（写真9）。奈良・平安時代の行司免遺跡周辺には、文字を読み書きできる人間が存在したことを示すものである。

木製品は、斎串と付け木が目立って出土した。大溝やその周辺で出土していることが多い。何らかの祭祀を行った後と思われる。

ま　と　め

昨年度までの調査で、木棺墓が見つかったこと から、行司免遺跡の一部が墓域であったことが判明した。これに対し、今年度の調査では炭化物集中域が多く検出された。また、斎串や付け木、灯明皿や仏鉢形土器など、祭祀具と考えられる遺物が多く出土している。このことから、昨年度の調査区が埋葬の場、この調査区が葬送儀礼の場ではないかと想像される。平安時代の葬送儀礼についてはわからない部分が多く、今年度の調査は貴重な事例になると思われる。

今年度の調査では､墨書土器の出土が目立った。特に、「矢作」と書かれた墨書土器が５点出土している。この発見によって、昨年度までの調査で見つかった墨書土器の中にも､「矢作」と解読できるものがあることがわかった。また昨年度は、「穴太」と書かれた墨書土器が２点出土している。「矢作」、「穴太」は秋田城跡出土の漆紙文書に人名としてあらわれていることから、これらの墨書土器も人名であると考えられる。さらに、２次調査では皇朝十二銭のひとつである「富壽神寶（ふじゅしんぽう）」が出土していること、今年度は風字硯が出土していることなどから、この地域に役人クラスの人物がいたことや、官衙に関わる施設が存在した可能性が高い。「矢作」、「穴太」などといった氏族が役人として在地し、この地域で祭祀を執り行ったとも考えられる。

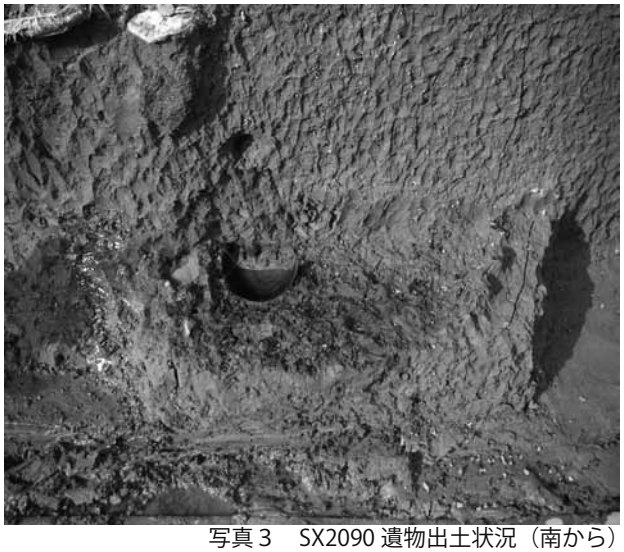


写真３　SX2090 遺物出土状況（南から）

写真６　SX2001 出土の墨書土器「矢作」（RP190

写真４　SX2014 遺物出土状況（北東から）

写真７　SX2090 出土の
刻書土器（RP217）

写真８　RP217 の底部「文」

写真５　SX2071 検出状況（北西から）

写真９　SD4 出土の風字硯（RP132）

B.研究業務

1　研究研修

(1)　全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣

ア　総会

会　　場　　埼玉県さいたま市(ホテルブリランテ武蔵野)
派遣職員　　事務局長　小笠原正道　　総務課長　佐東秀行
期　　日　　平成19年6月7日～6月8日

イ　役員会

会　　場　　高知県高知市(公立学校共済組合高知会館)
派遣職員　　専務理事　柏倉俊夫
期　　日　　平成19年5月10日～5月11日

会　　場　　東京都港区(ホテルフロラシオン青山)
派遣職員　　専務理事　柏倉俊夫
期　　日　　平成19年12月13日～12月14日

ウ　コンピュータ等研究委員会

会　　場　　東京都埋蔵文化財センター
派遣職員　　調査研究員　髙桑　登
期　　日　　平成19年7月26日～7月27日

会　　場　　愛知県埋蔵文化財センター
派遣職員　　調査研究員　髙桑　登
期　　日　　平成19年10月18日

エ　研修

(ア) 研　修　名　　管理部会、調査部会合同研修会
会　　場　　新潟県佐渡市(両津やまきホテル)
派遣職員　　専門調査研究員　黒坂雅人
期　　日　　平成19年10月18日～10月19日

(イ) 研　修　名　　全国埋蔵文化財法人連絡協議会海外研修
研　修　地　　中華人民共和国
派遣職員　　総務課長　佐東秀行
期　　日　　平成19年12月5日～12月10日

オ　ブロック活動

北海道・東北地区会議並びに同北海道・東北地区コンピュータ等研究委員会

会　　場　　北海道札幌市(アークシティホテル))
派遣職員　　専務理事　柏倉俊夫、事務局長　小笠原正道、
　　調査研究員　髙桑　登
期　　日　　平成19年10月11日～10月12日

2　情報処理

(1)　収蔵図書データベース

新収蔵図書　2,517冊のデータ入力実施

3 普 及

(1) ホームページ

主な項目と内容は以下のとおりです。

調査遺跡一覧	発掘調査遺跡や整理作業中の遺跡を紹介しました。
発掘調査速報	調査期間中、遺跡の状況を毎週更新して紹介しました。
イベント情報	調査説明会、外部展示、各種イベントの情報を提供しました。
センター刊行物案内	調査報告書、広報誌などの刊行物を紹介しました。
学校教育への協力	出前授業の紹介、埋蔵文化財を活かした授業のアイデアなどを提供しました。また、出前授業の状況なども随時掲載しました。
埋文やまがた	年3回に発行する広報誌「埋文やまがた」を紹介しています。これまでに刊行したバックナンバーもご覧になれます。
センター概要	情報公開制度に基づき、センターの情報を提供しました。

その他、センターの紹介など、楽しめる内容となっています。

(2) 山形県埋蔵文化財発掘調査報告会の開催

「みんなで体験!考古学ひろば」

期　　日　　平成19年12月8日(土)～9日(日)

会　　場　　山形国際交流プラザ(ビッグウイング)

主　　催　　財団法人山形県埋蔵文化財センター

共　　催　　山形県教育委員会

後　　援　　山形市教育委員会、上山市教育員会、中山町教育委員会、寒河江市教育委員会、米沢市教育委員会、南陽市教育委員会、鶴岡市教育委員会、朝日新聞山形総局、毎日新聞山形支局、読売新聞山形支局、産経新聞社山形総局、河北新報山形総局、(社)共同通信社山形支局、時事通信社山形支局、山形新聞・山形放送、荘内日報社、米沢新聞社、置賜日報社、NHK山形放送局、山形テレビ、テレビユー山形、さくらんぼテレビ、(株)ケーブルテレビ山形、酒田ケーブルテレビ、(株)ニューメディア、エフエム山形、VigoFM78.8MHz、山形コミュニティ放送株式会社

内　　容　　報 告 会　：平成19年度調査から6遺跡の報告とセンターの仕事紹介

体験コーナー　：発掘体験、整理作業体験、保存処理体験、体験弓矢

土器に触れてみよう,勾玉づくり、縄文ファション、

入 場 者　　1388人

(3) 日本海沿岸東北自動車道関係遺跡発掘調査報告会

「発掘された鶴岡の歴史＜2006＞」

期　　日　　平成20年3月2日(日)

会　　場　　出羽庄内国際村ホール(鶴岡市)

主　　催　　財団法人山形県埋蔵文化財センター

共　　催　　鶴岡市教育委員会

事 業 者　　国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所

内　　容　　報 告 会　：平成19年度調査から6遺跡の報告

遺物展示　：矢馳A遺跡、南田遺跡、岩崎遺跡、玉作1・2遺跡

興屋川原遺跡、行司免遺跡、木の下遺跡・万治ヶ沢遺跡

川内袋遺跡

入 場 者　　250名

(4) 外部展示

「高擂南遺跡、菖蒲江1・2遺跡」展

期　　日　　常　　設

会　　場　　山形県総合交通安全センター

内　　容　　「高擂南遺跡」「菖蒲江1遺跡」「菖蒲江2遺跡」発掘資料展示公開
（土師器、木製品等の実物展示、調査に関わる写真パネル等展示）

「やまがた文化再発見～世界遺産を目指して～」展

期　　日　　平成19年5月28日（月）～6月29日（金）

会　　場　　県庁1階県民ギャラリー

内　　容　　山形県の稲作に関わる遺物「生石2遺跡」「向川原遺跡」
「梅ノ木前1遺跡」「服部・藤治屋敷遺跡」「上高田遺跡」発掘資料展示
（弥生土器、木製品等の実物展示、調査に関わる写真パネル等展示）

入 場 者　　655名

「高安窯跡の示す古代社会と埋蔵文化財の保存科学」展

期　　日　　平成19年8月1日（水）～8月10日（金）

会　　場　　東北芸術工科大学　文化財保存修復研究センター展示室

共　　催　　東北芸術工科大学　文化財保存修復センター

内　　容　　「高安窯跡」「泉森窯跡」の瓦・食器類・仏具などの発掘資料展示
須恵器食器類の変遷　土師器の食器と煮炊具の展示。ギャラリートーク
（土器、土層剥ぎ取り等の実物展示、調査に関わる写真パネル等展示）

入 場 者　　188名

「交流するものたち～行き交う人々～」展

期　　日　　平成19年9月8日（土）～28日（金）

会　　場　　山形空港2階特設ギャラリー

内　　容　　青磁、碗、四耳壺、砥石、硯、織部沓型碗　天目茶碗などの発掘資料展示
（土器、須恵器、土師器等の実物展示、調査に関わる写真パネル等展示）

入 場 者　　341名

「発掘された庄内の歴史～縄文時代編～」展

期　　日　　平成19年10月17日（水）～30日（火）

会　　場　　庄内空港ビル3階多目的ギャラリー

内　　容　　酒田地区（吹浦遺跡）と鶴岡地区（野新田遺跡）の遺物を展示
（縄文土器、勾玉、石器等の実物展示、調査に関わる写真パネル等展示）

入 場 者　　182名

「古代の器と祈り～食器の移り変わり～」展

期　　日　　平成19年11月14日（水）～29日（木）

会　　場　　山形県郷土館「文翔館」3階第3ギャラリー

内　　容　　8世紀から10世紀にかけての器の移り変わり、須恵器食器類の展示
（壺瓶類、円面硯、仏具、墨書土器、調査に関わる写真パネル等展示）

入 場 者　　1864名

(5) 学校への協力

No.	派遣校・依頼者名	派遣職員名	実 施 日	実 施 内 容
1	寒河江市立醍醐小学校 校長　萩原 良悦	佐東秀行　氏家信行 今 正幸　粕谷 孝 佐々木 茂　齋野祐子	2007年4月17日	6年社会科 「縄文時代の生活の様子」土器・石器に触れてみる 火おこし・弓矢体験・　石器で野菜切り
2	山形県立山形盲学校 校長　佐藤 俊平	植松暁彦　加藤 瞳	2007年4月19日	6年社会科 「大昔へタイムスリップ」 紐年表・土器・石器に触れてみよう　火おこし・石器で野菜切り
3	村山立楯岡小学校 校長　大沼 廣志	伊藤邦弘　須賀井新人 高桑 登　伊藤純子 星とき子	2007年4月20日	6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・くるみ割り・土器の模様を再現
4	寒河江市立寒河江小学校 校長　荒木 利見	須藤孝宏　齋藤 健 武田伸一　黒坂広美 佐々木茂　加藤瞳	2007年4月25日	6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り
5	天童市立干布小学校 校長　髙宮 洋悦	水戸部秀樹　庄司隆志 須賀井明子　星とき子	2007年4月26日	6年社会科 「大昔へタイムスリップ」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り
6	上山市立西郷第二小学校 校長　大沼 修一	槇 綾　渡辺淑恵 山澤 護　齋野祐子	2007年4月27日	6年社会科、4・5年総合的な学習 「大昔の人々のくらし」 教室ミニ博物館　縄文風クッキーづくり
7	寒河江市立三泉小学校 校長　多田 秀人	今田秀樹　福岡和彦 星とき子	2007年5月1日	6年社会科 「大昔へタイムスリップ」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り・石器で野菜切り
8	山形市立桜田小学校 校長　柿崎 憲一	須藤孝宏　菅原哲文 向出博之　吉田満 加藤瞳	2007年5月2日	6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り・石器で野菜切り
9	上山市立中川小学校 校長　高橋 光雄	水戸部秀樹　吉田江美子 佐々木茂	2007年5月8日	6年社会科 「大昔へタイムスリップ」土器・石器に触れる 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り
10	山形市立宮浦小学校 校長　廣谷 春樹	植松暁彦　黒坂広美 粕谷 孝　加藤 瞳 齋野祐子	2007年5月10日	6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 弓矢体験・くるみ割り・石器で野菜切り
11	東根市立東根小学校 校長　伊藤 大藏	野尻 侃　齋藤 健 渡辺淑恵　佐々木茂 星とき子	2007年5月11日	6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 勾玉づくり
12	山形市立大郷小学校 校長　丹野 良夫	鈴木良仁　植松暁彦 加藤 瞳　齋野祐子	2007年5月15日	6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り・石器で野菜切り
13	舟形町 町長　伊藤 和昭	水戸部秀樹　粕谷 孝 佐々木茂	2007年5月16日	仙台市立五橋中学校2年　自然田舎まるごと体験 「大昔の人々のからし」土器・石器に触れてみよう 勾玉づくり
14	舟形町立長沢小学校 校長　布川 雄二	齊藤主税　星とき子	2007年5月17日	6年社会科 「舟形・長沢地区の遺跡について」 土器・石器に触れてみよう　　勾玉づくり
15	上山市立本庄小学校 校長　鈴木 雅孝	植松暁彦　黒坂広美 加藤 瞳	2007年5月22日	6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 縄文風クッキーづくり
16	真室川町立平枝小学校 校長　遠田 且子	植松暁彦　齋藤 健	2007年5月25日	6年総合的な学習 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・くるみ割り・石器で野菜切り
17	山形市立第二小学校 校長　横沢 正巳	植松暁彦　須賀井明子 星とき子　齋野祐子	2007年5月29日	6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 木の実のサンプル・弓矢体験・石器で野菜切り
18	新庄市立新庄中学校 校長　竹田 眞一	長橋 至　鈴木良仁 黒坂広美　佐々木茂 星とき子	2007年5月31日	1年総合的な学習 「昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り
19	長井市立平野小学校 校長　風間 孝	齊藤主税　佐々木茂 星とき子	2007年6月1日	6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り
20	庄内町立立谷沢小学校 校長　安在 彰	長橋 至　佐々木茂 星とき子	2007年6月6日	4～5年総合的な学習 「縄文時代へタイムスリップ」土器・石器に触れてみよう・火おこし・弓矢体験・くるみ割り

21	東根市立東根第三中学校 校長　菊地　京子	齋藤　健 渡辺淑恵	水戸部秀樹 加藤瞳	2007年6月14日	1年社会科 「大昔の人々のくらし」火おこし・石器で野菜切り・弓矢体験
22	西川町立睦合小学校 校長　渡邉　一博	野尻　侃 星とき子	黒坂広美	2007年6月28日	6年総合的な学習 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り
23	山形市立第六小学校6年 PTA代表　皆本　武始	長橋　至 深澤　篤 佐々木茂	伊藤邦弘 渡辺和行 星とき子	2007年7月7日	6年親子行事 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・くるみ割り・勾玉つくり・アンギン編み
24	山形市立明治小学校 校長　柴田　康雄	野尻　侃 加藤　瞳	星とき子	2007年7月11日	6年社会科 土器・石器に触れてみよう・縄文風クッキーづくり
25	天童市立寺津小学校6年 PTA代表　駒沢　憲治	水戸部秀樹 佐々木茂	山木　巧	2007年7月14日	6年親子行事 「縄文時代のくらし」火おこし・弓矢体験・勾玉つくり
26	天童市立成生小学校 校長　大泉　徹	野尻　侃 星とき子	須藤孝宏 齋野祐子	2007年7月20日	6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 勾玉つくり
27	寒河江市立寒河江中部小学校 校長　草刈　和男	伊藤邦弘 吉田　満 星とき子	小林圭一 佐々木茂	2007年9月29日	3年親子行事 「縄文時代のくらし・高瀬山遺跡について」土器・石器に触れてみよう　勾玉作り　火おこし
28	朝日町西部公民館 館長　花山　芳文	齋藤健 佐々木茂	山澤　護	2007年10月21日	のびのびスクール「いもがわ少年教室」 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 勾玉つくり・火おこし・弓矢体験
29	山形県朝日少年自然の家 所長　海野　丈芳	植松暁彦	佐々木茂	2007年10月27日	「朝少まるごと縄文村」 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 弓矢体験（食材GET）
30	尾花沢市立尾花沢小学校 校長　岩崎　雄策	野尻　侃 渡辺淑恵 星とき子	高桑　登 佐々木茂	2007年10月28日	6年親子行事「大昔の人々のくらし」 土器・石器に触れてみよう・火おこし・勾玉つくり・縄文風クッキーづくり・弓矢体験
31	上山市中川公民館 館長　齋藤　貢	須賀井新人	佐々木茂	2007年11月4日	縄文体験 土器・石器に触れてみよう 火おこし・勾玉つくり
32	山辺町立作谷沢小中学校 校長　勝見　健一	黒坂雅人		2007年11月4日	「文化祭でものづくり講座」 勾玉作り
33	寒河江市立三泉小学校 校長　多田　秀人	庄司隆志 岡崎さゆり	星とき子	2007年11月5日	6年社会科 講話　勾玉の由来・勾玉作り
34	最上町立月楯小学校 校長　高山　英男	佐藤正俊	佐々木茂	2008年2月8日	「月楯歴史ロマンのつどい」 講話（4500年の時をこえて日本最大級クラスの縄文土器が語るもの）

（6） 来所者

a. 見学・研修等

№.	来所者	年月日	人数	内容
1	(財)福島県文化振興事業団	2007年4月17日	1	施設見学
2	学校法人東北芸術工科大学	2007年5月14日	1	施設見学
3	上山市立南小学校　6学年	2007年5月18日	126	施設見学
4	上山市立北中学校	2007年5月30日	11	施設見学
5	東北芸術工科大学	2007年6月11日	1	施設見学
6	上山市立西郷第二小学校　5～6学年	2007年6月15日	16	施設見学
7	山形県立上山高等養護学校　1学年	2007年6月18日～6月29日(10日間)	9	職場体験
8	栃木県上三川町議会常任委員会	2007年7月2日	6	施設見学及び研修
9	新潟県株式会社ノガミ　埋文調査部	2007年7月2日	2	施設見学
10	中川公民館「中川粋いき倶楽部」	2007年7月5日	60	施設見学
11	上山市立南中学校 上山市立北中学校　　2学年 上山市立宮川中学校	2007年7月4日～7月10日(5日間)	5	職場体験
12	鶴岡市上郷文化財愛護会	2007年7月7日	50	施設見学
13	山形市立第二中学校　2学年	2007年7月9日～7月13日(5日間)	6	職場体験
14	山形県立上山高等養護学校　3学年	2007年7月10日	35	施設見学、体験学習(勾玉作り)
15	(有)三友エンジニヤ	2007年7月25日	1	施設見学
16	鶴岡県立南高等学校　2学年	2007年7月24日・27日・8月7日	1	発掘体験(川内袋遺跡)
17	中山町「歴史体験教室」受講者児童	2007年8月1日	22	施設見学と体験学習(勾玉作り) 川前2遺跡の現地見学
18	長井市立長井北中学校　1学年	2007年8月1日	1	発掘体験(天王遺跡)
19	寒河江市「第36回寒河江市少年少女郷土史講座」受講児童	2007年8月2日	6	施設見学と体験学習(勾玉作り) 川前2遺跡の現地見学
20	山形県立庄内農業高等学校	2007年8月6日	18	施設見学
21	山形市立第一中学校　2学年	2007年8月7日～8月8日(2日間)	2	職場体験
22	鶴岡市上郷地区自治振興会	2007年8月9日	45	施設見学
23	最上町立月楯小学校　4～6学年	2007年8月22日	30	施設見学、体験学習(勾玉作り)
24	駿河台大学　3年	2007年9月6日	1	現場実習(加藤屋敷遺跡)
25	山形大学附属小学校　6学年	2007年10月12日	127	現地見学と発掘体験(川内袋遺跡)
26	行司免遺跡現場作業員	2007年10月19日	20	施設見学
27	岩崎遺跡現場作業員	2007年10月22日	18	施設見学
28	最上町文化財保護審議会	2007年10月23日	5	施設見学
29	鶴岡市立山戸小学校　5･6学年	2007年10月25日	21	現地見学と発掘体験(川内袋遺跡)
30	鶴岡市立五十川小学校　3～6学年	2007年10月25日	9	現地見学と発掘体験(川内袋遺跡)
31	鶴岡市立福栄小学校　6学年	2007年11月20日	13	現地見学と発掘体験(川内袋遺跡)
32	筑波大学　第一学群人文学類	2007年11月29日	1	施設見学
33	下屋敷遺跡現場作業員	2007年11月30日	1	施設見学
34	東北芸術工科大学歴史遺産学科　1年	2007年12月21日	30	施設見学
35	山形市立第六中学校　1学年	2008年1月16日	5	職場体験
36	(独)国立文化財機構奈良文化財研究所	2008年2月13日	1	遺物洗浄方法についての取材、施設見学
37	加藤屋敷・天矢場遺跡現場作業員	2008年2月14日	1	施設見学(加藤屋敷整理室)
38	うきたむ考古の会	2008年2月18日	1	施設見学
39	北海道・東北保存科学研究会	2008年3月9日	11	施設見学

b. 図書閲覧

№.	来所者	年月日	閲覧目的
1	山辺町　三浦浩人	2007年4月26日	天童東村山地域史研究会会報の参考のため
2	東北芸術工科大学准教授　北野博司	2007年5月2日～2007年6月13日	資料調査
3	東北芸術工科大学大学院院生　長田知子	2007年5月9日～2007年11月9日	修士論文研究
4	東北芸術工科大学学生　加我優一	2007年5月15日～2008年1月11日	資料調査
5	高畠町役場	2007年5月24日	資料調査
6	東北芸術工科大学学生　和田達也	2007年7月2日～2007年12月18日	卒業論文作成
7	東北芸術工科大学学生　丹野修太	2007年7月10日	卒業論文作成
8	東北芸術工科大学学生　山戸和美	2007年10月22日	卒業論文作成
9	山形市教育委員会　國井修	2007年10月23日	嶋遺跡報告書作成のため
10	東北芸術工科大学講師　荒木志伸	2007年11月14日・15日・12月27日	東北文字資料研究会資料に掲載するため・資料調査
11	山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室　竹田純子	2008年1月15日	資料調査
12	米沢女子短期大学　竹谷悠	2008年2月20日	資料調査
13	㈱新東京ジオ・システム	2008年2月25日	海岸防災林調査報告のため

c. 資料調査

№.	来所者	年月日	対象遺跡・遺物
1	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館　佐藤鎮雄	2007年4月20日	押出遺跡
2	東北大学大学院　菅野智則	2007年6月24日	西向遺跡、八ツ目久保遺跡、中山遺跡、小反遺跡
3	長井市教育委員会　岩崎義信	2007年6月26日	水木田遺跡、熊ノ前遺跡、砂子田遺跡、渡戸遺跡、かっぱ遺跡、市野々向原遺跡
4	群馬県埋蔵文化財調査事業団　橋本淳	2007年6月27日	高瀬山遺跡
5	新潟県津南町教育委員会　佐藤雅一	2007年6月28日	西向遺跡、蕨山遺跡、船見沢遺跡
6	名久井文明	2007年9月14日	板橋2遺跡
7	米沢市教育委員会　手塚孝	2008年2月22日	堤屋敷遺跡　中世資料(土なべ)検討

（7） 職員派遣等

№.	派遣職員名	依頼者名	派遣場所	年月日	内容
1	菅原哲文 高桑登	生涯学習施設「里仁館」理事長　佐々木藤正	生涯学習施設「里仁館」	2007年4月14日	平成19年度生涯学習施設「里仁館」開校式への派遣
2	今正幸	飯豊町立手ノ子小学校　校長　大道寺高明	飯豊町立手ノ子小学校体育館	2007年5月1日	飯豊町立手ノ子小学校創立記念式記念行事への講師派遣
3	小林圭一 菅原哲文 水戸部秀樹	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館長　佐藤鎮雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	2007年5月12日、8月19日	平成19年度第15回企画展委員会への派遣
4	鈴木良仁	上山市教育委員会　教育長　齋藤光	上山市役所	2007年5月16日	平成19年度上山市文化財保護審議委員会第1回審議会への派遣
5	福岡和彦	山形市立高楯中学校　校長　吉野利明	山形市立高楯中学校	2007年5月18日	
6	黒坂雅人	山形県立博物館長　松浦孝	山形県立博物館	2007年5月20日	「市民の考古学入門講座」への講師派遣
7	鈴木良仁	上山市教育委員会　教育長　齋藤光	上山市柏木地内山形広域清掃工場建設予定地	2007年6月1日	上山市柏木地内山形広域清掃工場建設予定地の埋蔵文化財の分布調査への派遣
8	佐藤祐輔	国立歴史民俗博物館・研究部教授　西本豊弘	日本現代詩歌文学館	2007年6月8日・9日	研究課題に係る年代測定分析結果の説明への派遣
9	植松暁彦	北村山地域史研究会　会長　小山義雄	村山市楯岡地区市民センター	2007年7月15日	第10回研究発表「村山市宮ノ前遺跡3次調査について」への講師派遣
10	小林圭一 菅原哲文	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館長　佐藤鎮雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	2007年7月22日	第15回企画展第3回委員会への派遣
11	小林圭一	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館長　佐藤鎮雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	2007年7月29日	考古学セミナー第3回講座「縄文時代前期の考古学－押出遺跡に見る縄文人の暮らし－」への講師派遣
12	野尻侃	酒田市教育委員会　教育長　石川翼久	北田2遺跡発掘t現場事務所	2007年8月7日	北田2遺跡発掘調査現地説明会への派遣
13	菅原哲文	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館長　佐藤鎮雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	2007年8月26日	考古学セミナー第5回講座「縄文時代前期の考古学－押出遺跡に見る縄文人の暮らし－」への講師派遣
14	伊藤邦弘	財団法人山形県みどり推進機構　理事長　北村昌美	山形市立みはらしの丘小学校	2007年8月30日	「蔵王みはらしの丘」ミュージアムパーク第14回ワークショップへの講師派遣
15	伊藤邦弘	生涯学習施設「里仁館」理事長　佐々木藤正	生涯学習施設「里仁館」	2007年9月7日	里仁館教養講座「発掘された庄内の古城－藤島城跡－」講演への講師派遣
16	小林圭一	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館長　佐藤鎮雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	2007年10月20日	考古学セミナー「押出ムラの土器」への講師派遣
17	菅原哲文	米沢市万世コミュニティセンター　館長　田畑實	万世コミュニティセンター	2007年10月27日	堤屋敷遺跡第2次発掘調査の出土品等の資料展示の派遣
18	高桑登	生涯学習施設「里仁館」理事長　佐々木藤正	生涯学習施設「里仁館」	2007年11月2日	里仁館教養講座「発掘された庄内の古城　亀ヶ崎城跡」講演への講師派遣
19	伊藤邦弘	南陽市沖郷公民館　館長　佐藤憲一	南陽市沖郷公民館	2007年11月9日	沖郷いきいき大学「沖郷地区にある遺跡について」への講師派遣
20	菅原哲文	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館長　佐藤鎮雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	2007年11月24日	考古学セミナー「押出ムラのくらし」への講師派遣
21	植松暁彦 渡辺淑恵	小国町長　小野精一	白い森ショッピングセンターアスモ	2007年10月25日	「下叶水遺跡が伝えるもの」～遺物が語りかけてくる縄文人の交流の姿～への講師派遣
22	鈴木良仁	上山市教育委員会　教育長　齋藤光	上山市役所	2007年10月31日	平成19年度上山市文化財保護審議委員会第2回審議会への派遣
23	長橋至	山形県立博物館長　松浦孝	山形県立博物館	2007年11月24日	「市民の考古学入門講座」への講師派遣
24	水戸部秀樹	発掘された日本列島展実行委員会　委員長　藤本強	熊本市立博物館	2007年12月12日～15日	「発掘された日本列島2007－新発見考古速報展－」の開催館展示にかかわる検品及び列品作業の立会
25	小林圭一	東北芸術工科大学　学長　松本哲男	東北芸術工科大学	2008年1月10日～11日	「東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究」発表への派遣
26	氏家信行 菅原哲文	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館長　佐藤鎮雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	2008年2月17日	「2007年置賜の発掘調査検討会」への講師派遣
27	伊藤邦弘 植松暁彦	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館長　佐藤鎮雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	2008年3月15日	平成20年度企画展「出羽國ができるころ」の第1階展示委員会への派遣
28	鈴木良仁	上山市教育委員会　教育長　齋藤光	上山市役所	2008年3月26日	平成19年度上山市文化財保護審議委員会第3回審議会への派遣
29	黒坂雅人	上郷文化財愛護会	上郷コミュニティセンター	2008年3月26日	上郷文化財愛護会総会（記念公園）への派遣

（8） 調査説明会

	市町村	遺　跡　名	開　催　日	遺跡種別	参加者数	備　考
2	鶴岡市	玉作1遺跡（3次）	7月11日	集落跡	12	関係者のみで実施
3	南陽市	天矢場遺跡（前期）	7月17日	集落跡	5	関係者のみで実施
4	南陽市	上大作裏遺跡（2次）	7月24日	集落跡	10	合同で実施
5	南陽市	檜原遺跡（3次）	7月24日	集落跡	33	
6	鶴岡市	興屋川原遺跡（4次）	9月 3日	集落跡	10	関係者のみで実施
7	鶴岡市	矢馳A遺跡（4次）	9月10日	集落跡	30	
8	南陽市	加藤屋敷遺跡（2次）	9月21日	集落跡	12	
9	米沢市	堤屋敷遺跡（2次）	9月21日	集落跡	15	
10	山形市	川前2遺跡（3次）	10月 9日	集落跡	60	
11	鶴岡市	岩崎遺跡（2次）	10月14日	集落跡	70	合同で実施
12	鶴岡市	行司免遺跡（4次）	10月14日	墳墓・祭祀跡	75	
13	寒河江市	上の寺遺跡	10月21日	寺院跡・集落跡	154	
14	南陽市	天王遺跡（2次）	10月16日	墳墓跡・集落跡	25	
15	南陽市	天矢場遺跡（後期）	11月 2日	集落跡	30	
16	鶴岡市	川内袋遺跡	11月 4日	集落跡・狩猟場	200	
17	米沢市	下屋敷遺跡	11月30日	集落跡	10	関係者のみで実施

（9） 資料貸出

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
1	山形県立うきたむ風土記の丘考古料館	常設展への展示	2007年4月1日 ～ 2008年3月31日	西町田下遺跡ほかの出土遺物	45
2	米沢市上杉博物館	特別展「直江兼続」への展示	2007年4月3日 ～ 2007年6月11日	亀ヶ崎城出土遺物	6
3	大学共同利用機関法人人間文化研究機構　国立歴史民俗	特別企画「弥生はいつから！？－年代研究の最前線	2007年6月11日 ～ 2007年9月20日	高瀬山遺跡ほかの出土遺	12
4	最上町前森ふれあい陶芸館	土器複製作成	2007年6月18日 ～ 2007年10月30日	水木田遺跡写真パネル	1
5	酒田市立資料館	企画展「酒田と焼き物－土と炎の造形美－」への展示	2007年7月17日 ～ 2007年10月5日	泉森南窯跡ほかの出土遺	27
6	津南町農と縄文の体験実習館なじょもん	秋季企画展「火焔土器前夜」への展示	2007年8月6日 ～ 2007年10月30日	西向遺跡出土遺物	6
7	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	企画展「縄文の至宝　押出遺跡」への展示	2007年9月20日 ～ 2007年10月10日	押出遺跡出土写真	29
8	国土交通省北陸地方整備局横川ダム工事事務所	横川ダム広報交流施設内の展示作成	2008年1月30日 ～ 2008年3月31日	下叶水遺跡出土写真	7
8	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	「2007年置賜の発掘調査検討会」への展示	2008年2月12日 ～ 2008年2月19日	天矢場遺跡ほか遺跡パネ	9
9	天童市教育委員会	ガイダンス施設への展示	2008年2月20日 ～ 2009年2月19日	西沼田遺跡出土遺物	70

（10） 資料掲載許可

No.	申請者	借用目的	資料名	数量
1	株式会社セビアス	ホームページ（実績参考資料）への掲載	小反遺跡・上野遺跡　出土遺構写真及び図面、三次元情報	6
2	大学共同利用機関法人人間文化研究機構　国立歴史民俗博物館	「歴博」第143号「縄文時代を測る」への掲載	山形県内出土縄文土器写真	1
3	株式会社郷土出版社	決定版　置賜ふるさと大百科への掲載	百刈田遺跡の墓の写真	1
4	酒田市立資料館	第148回企画展「酒田と焼き物」展への掲載	関B遺跡出土土師器器台、泉森南窯跡出土須恵器長頸壺、豊原遺跡出土中世陶器(珠洲陶)遺物	3
5	㈱至文堂	月刊「日本の美術」「縄文土器　中期」への掲載	水木田遺跡出土土器集合写真	1
6	㈱新人物往来社	「都市をつなぐ」への掲載	天王遺跡堀跡から出土板碑写真	1
7	㈱新人物往来社	「王の記憶」への掲載	大楯遺跡遺物出土写真	1
8	㈱ジャパン通信情報センター	「文化財発掘出土情報」「各地の動向」への掲載	行司免遺跡現地説明会資料	1
9	市野々・下叶水歴史保存会	「横川　ふるさとへの想い」への掲載	千野遺跡、市野々向原遺跡、古屋敷遺跡、野向遺跡、飛泉寺遺跡出土遺物写	9
10	㈱至文堂	月刊「日本の美術」「縄文土器　後期」への掲載	宮の前遺跡出土人面付土器、かっぱ遺跡出土土器集合等写真	7
11	能代市	「能代市史　通史編第1巻（考古・古代・中世）」への掲載	高瀬山遺跡(第1期)第1～4次発掘調査報告書遺構配置図	1
12	㈱至文堂	月刊「日本の美術」「縄文土器　後期」への掲載	かっぱ遺跡出土土器集合写真	1
13	山形市教育委員会	山形市小学校教育研究会社会科部会発表資料への転載	今塚遺跡、梅野木前1遺跡発掘調査報告書図版写真	8
14	㈱至文堂	月刊「日本の美術」「縄文土器　晩期」への掲載	高瀬山遺跡発掘調査報告書図版写真	1
15	㈱小学館	「日本の歴史」(第2巻)「日本の原像」への掲載	上高田遺跡出土「畔越」種子札写真	1
16	㈱同成社	「シリーズ縄文時代の考古学No.5」「クッキー状・パン状食品」への掲載	渡戸遺跡、川口遺跡出土の炭化物写真	1
17	南山形地区振興協議会	「南山形・ふるさとの歴史」への掲載	オサヤズ窯跡、谷柏J遺跡、山形元屋敷遺跡、小松原窯跡・長者屋敷遺跡・坂ノ上遺跡発掘調査報告書巻頭写真	4
18	最上町郷土歴史研究会	月楯歴史ロマンのつどい　講話のお知らせへの掲載	埋文やまがた第39号表紙水木田遺跡の写真	1
19	日本考古学協会	山形県地域史研究　第33号への掲載	宮の前遺跡出土注口土器写真	2
20	天童市教育委員会	西沼田遺跡のガイダンス施設内遺物展示室設置の解説パネルへの掲載	西沼田遺跡発掘調査報告書図版「こも石」「Y字状木製品」出土写真	2
21	三川町教育委員会	「三川町史上巻」への掲載	横川B遺跡出土古銭写真	1
22	青森県環境生活部県民生活文化課長	「青森県史資料編古代2出土文字資料」への転載	今塚遺跡、志戸田遺跡、荒川2遺跡、平形遺跡、生石2遺跡、生石4遺跡、上ノ田遺跡、関B遺跡、熊野田遺跡他	76
23	（株）雄山閣	「季刊考古学」近世の城郭と城下町への掲載	米沢城跡発掘調査報告書図版写真	2

(11) 出版物

a. 普及・業務報告

書名	発行年月日
埋文やまがた　第38号	2007年　6月30日
埋文やまがた　第39号	2007年 10月31日
埋文やまがた　第40号	2008年　2月29日

b. 調査説明会資料

書名	発行年月日
玉作1遺跡第3次調査説明会資料	2007年7月11日
天矢場遺跡前期調査説明会資料	2007年7月17日
上大作裏遺跡第2次調査説明会資料	2007年7月24日
檜原遺跡第3次調査説明会資料	2007年7月24日
興屋川原遺跡第4次調査説明会資料	2007年9月3日
矢馳A遺跡第4次調査説明会資料	2007年9月10日
加藤屋敷遺跡第2次調査説明会資料	2007年9月21日
堤屋敷遺跡第2次調査説明会資料	2007年9月21日
川前2遺跡第3次調査説明会資料	2007年10月9日
岩崎遺跡第2次調査説明会資料	2007年10月14日
行司免遺跡第4次調査説明会資料	2007年10月14日
上の寺遺跡調査説明会資料	2007年10月21日
天王遺跡第2次調査説明会資料	2007年10月16日
天矢場遺跡後期調査説明会資料	2007年11月2日
川内袋遺跡調査説明会資料	2007年11月4日
下屋敷遺跡調査説明会資料	2007年11月30日

c. 調査報告書

シリーズ№	書名	発行年月日
166	地坂台遺跡・下中田遺跡・太郎水野1遺跡・太郎水野2遺跡発掘調査報告書	2008年 3月28日
167	高瀬山遺跡(HO)2期発掘調査報告書	〃
168	中落合遺跡発掘調査報告書	〃
169	山ノ下遺跡・稲荷山館跡第2次発掘調査報告書	〃

d. 発掘調査報告会資料

資料名	発行年月日
平成19年度発掘調査山形県埋蔵文化財報告会	2007年12月8日
平成19年度日本海沿岸東北自動車道関係調査報告会	2008年3月2日

ISSN　1341－397X

年　　報

平成19年度

2008年５月　発行

発　行　　財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒999－3161
山形県上山市弁天二丁目15番１号
☎023－672－5301㈹
印　刷　　㈱大　風　印　刷